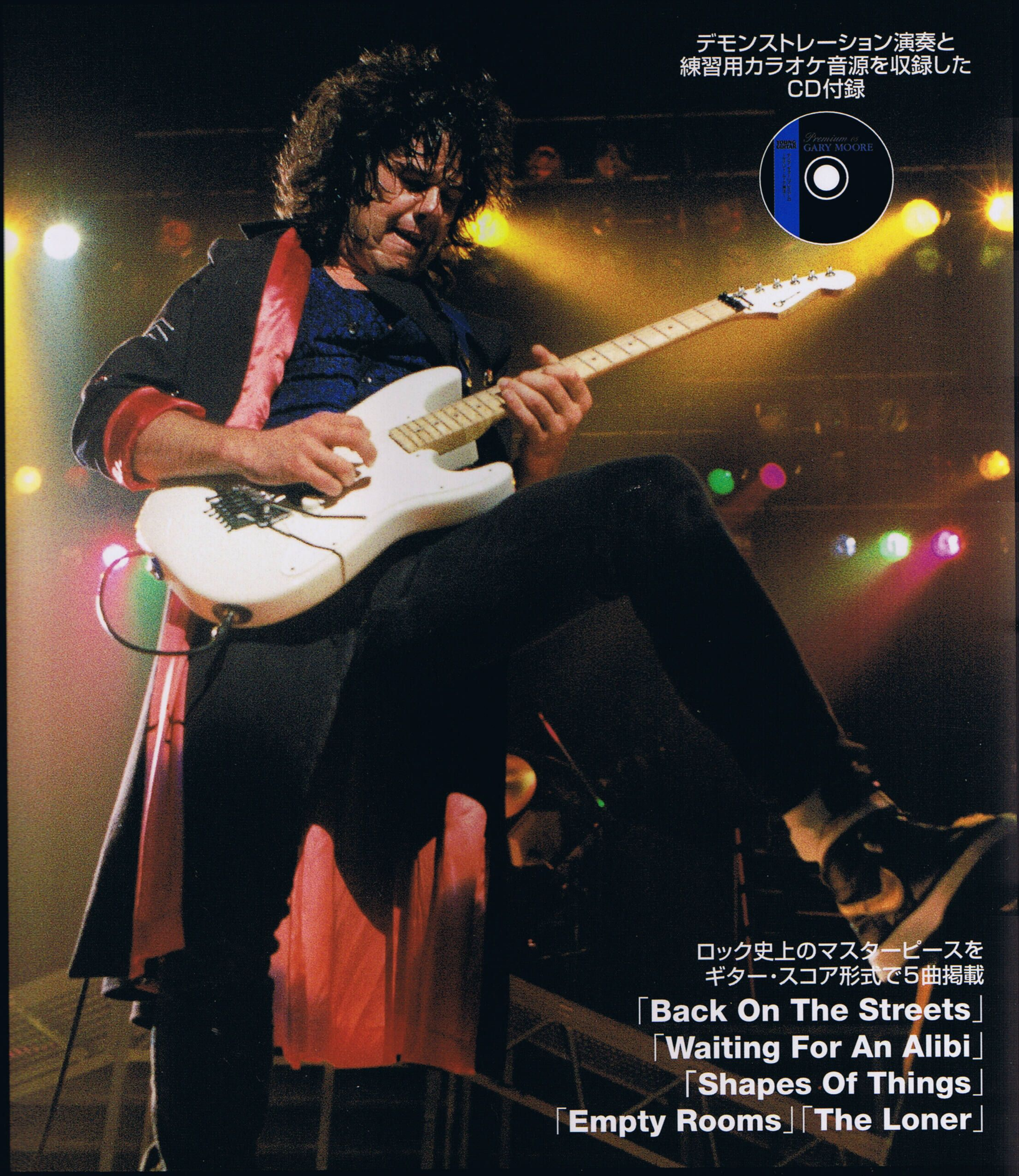
YOUNG GUITAR

YOUNG GUITAR Magazine presents Playing Analysis Special Issue

Premium 05

GARY MOORE

ヤング・ギター［プレミアム］
〜ゲイリー・ムーア奏法〜

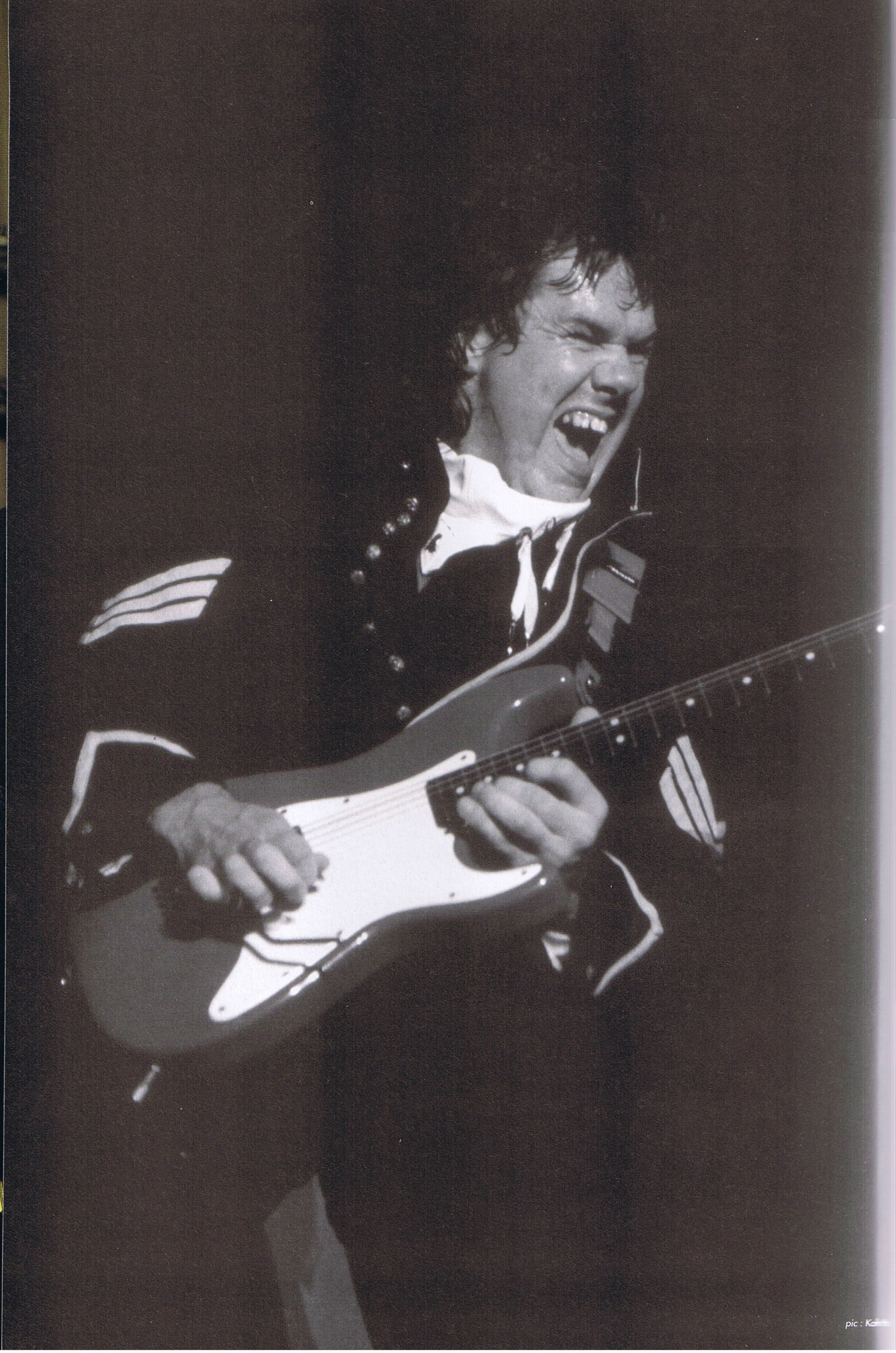


デモンストレーション演奏と
練習用カラオケ音源を収録した
CD付録

ロック史上のマスターピースを
ギター・スコア形式で5曲掲載

「Back On The Streets」
「Waiting For An Alibi」
「Shapes Of Things」
「Empty Rooms」「The Loner」

SHINKO MUSIC ENTERTAINMENT CO.,LTD.



pic : Ka

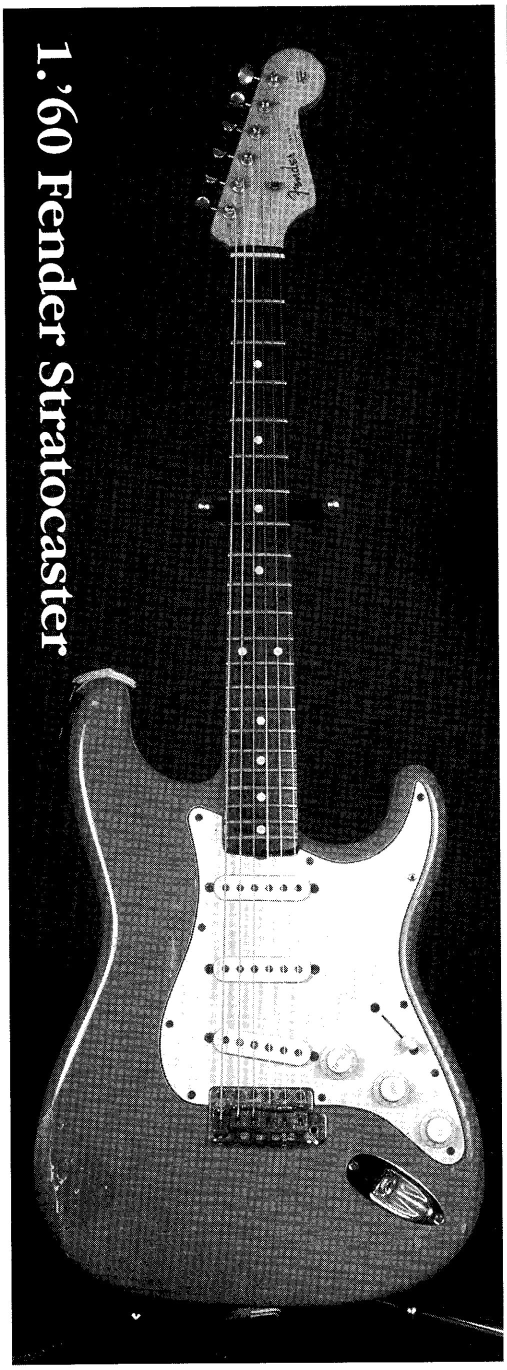
Ibanez
Artist

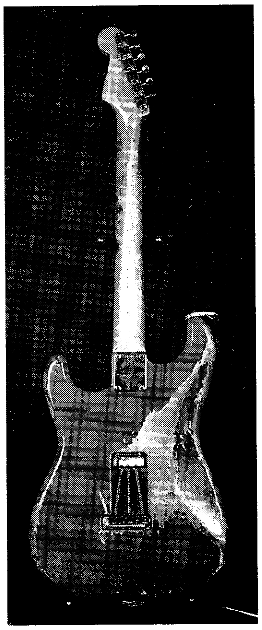
Transitions of GARY's main guitars

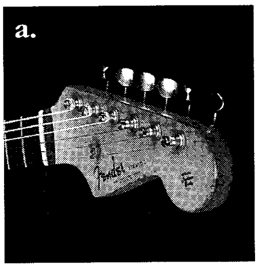
**時代や音楽性を反映するかのように様々なギターを手にし、名演を残してきたゲイリー・ムーア。
シン・リジィ時代から愛用しているレスポールJr.や、G-FORCE時代のボディー・トップに豹皮を貼ったシャーベル、
他にもポール・リード・スミス、ジャクソン“ソロイスト”、Fritz-Bros製ロイ・ブキャナン・シグネチュア“ブルースマスター”等々、
使用ギターを挙げればキリがないが、ここではその中でも特にゲイリーに愛用された歴戦の相棒達を紹介しよう。**

Pix by Mick Hutson, George Chin (※), Kohdai Miura(◆)

1.'60 Fender Stratocaster



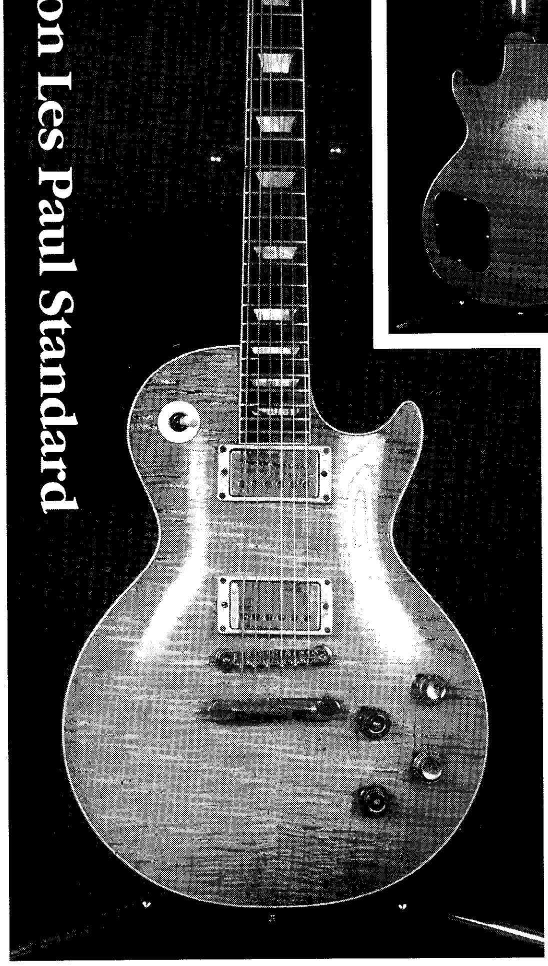


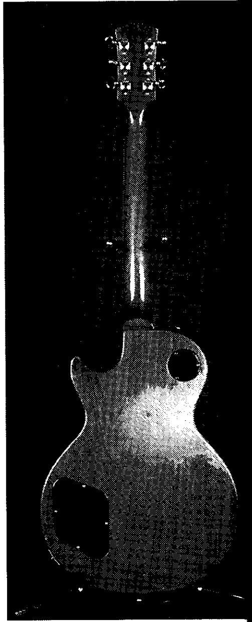


a. プレートに刻印されたシリアル（#55108）からは'60年製と推測されるが、パテント・ナンバーが2個あるということは'61年製の可能性も…。

'80年代初期から中期にかけて、ハード・ロック期のゲイリー'Sメイン・ギターとして活躍したサーモン・ピンク・フィニッシュのフェンダー・ストラトキャスター。そもそもこのギターは、ゲイリーがグレッグ・レイクのバンドでプレイしていた頃、たまたま立ち寄った楽器店で見付け、このカラーのストラトを欲しがっていたグレッグのために買っていったが、「傷が付いてるから…」ということでグレッグは受け取らず、結局ゲイリーのものになったという。とは言え、このギターを一目見て素晴らしいギターだと感じていたゲイリーは、内心「どうかグレッグがこのギターを気に入りませんように」と願っていたらしく、「今までプレイしたストラトの中でも最高だと思っている」とのこと。指板はローズウッドで、フレットを打ち変えた以外はほぼオリジナルのままだ。

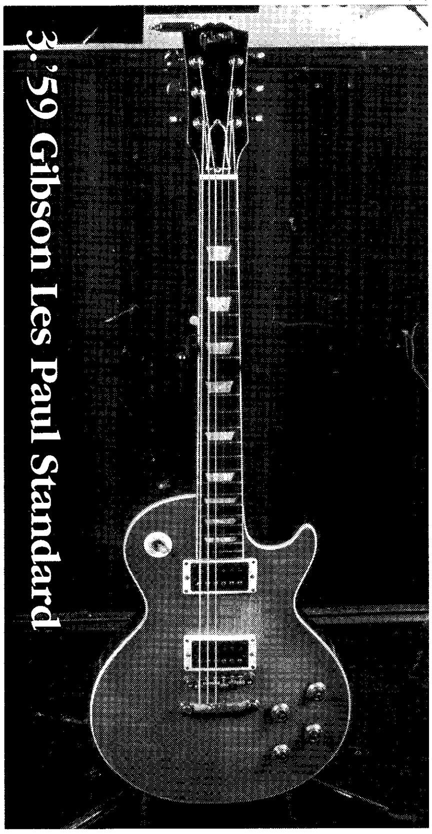
2.'59 Gibson Les Paul Standard





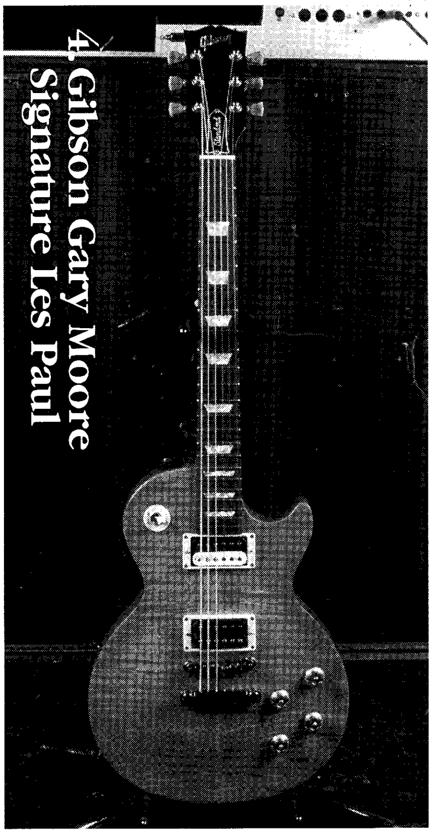
ゲイリーがスキッド・ロウ時代に、フリートウッド・マックを脱退した直後のピーター・グリーンから買い取った（信じられないくらい破格の値段で！）ということで有名な'59年製レスポール。元々はサンバースト・フィニッシュだったのだが、赤味が飛び切るくらい使い込まれており、そのせいもあってかなりの風格を漂わせている。ペグがクルーソン・タイプからグローヴァー製に交換され、ピックガードが外されているが、ピーターが所有していた頃からこうなっていたようだ。また、ピーターがフロント・ピックアップを逆向きにセットしていたため、当初はその向きのまま使用され、その後通常の向きに戻されたりもしたが、写真を見れば分かる通り、再び逆向きにマウントされている。サウンド的には、後出の③に比べるとミドルが効いているとのことだ。

(※)



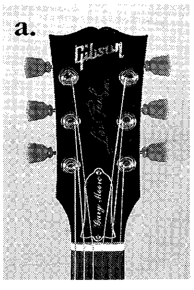
▲'88年頃に購入した'59年製のレスポール・スタンダード。②同様、ペグがグローヴァー製に交換され、ピックガードが外されている。ピックアップ・カヴァーが外されてはいるものの、フロント・ピックアップも普通とは逆向きにマウント。経年変化によりチェリー・サンバーストが褐色し、トラ目もなかなか出ているため、ヴィンテージらしい雰囲気を醸し出している。

(※)



▲'00年に発表されたシグネチュア・モデル。ヘリテイジからレスポール・タイプのシグネチュア・モデルが出されたこともあるので、これはゲイリーにとって2本目のシグネチュアとなった。ボディー周りにバインディングがなく、逆向きにセットされたフロント・ピックアップがゼブラ・タイプになっているのがルックス面でのポイントで、ピックアップはフロント／リアともに、"P.A.F."を完全再現した"Burst-Bucker"をマウントしている。なお、本人使用モデルと市販モデル（現在は生産ラインから外れている）では若干仕様が異なっていたので、写真a、bを参照して欲しい（a〜cは市販モデルの細部写真）。

a.

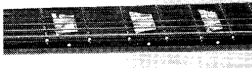


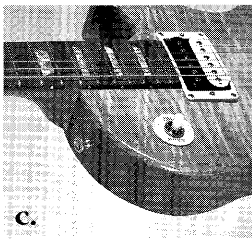
a. 市販されたモデルは、アジャスト・ロッド・カヴァーにシグネチュア・モデルの証明である"Gary Moore"の刻印が刻まれていた。

b. バインディングの施されていないネックは、市販モデルでは一般向けに通常の握りとなっていたが、本人使用のモデルはそれよりも太めに作られている。

c. ボディーもバインディングが施されていないため、レスポール・スタジオに近い印象を受けるが、フレイム・メイプル・トップの見た目は圧巻。

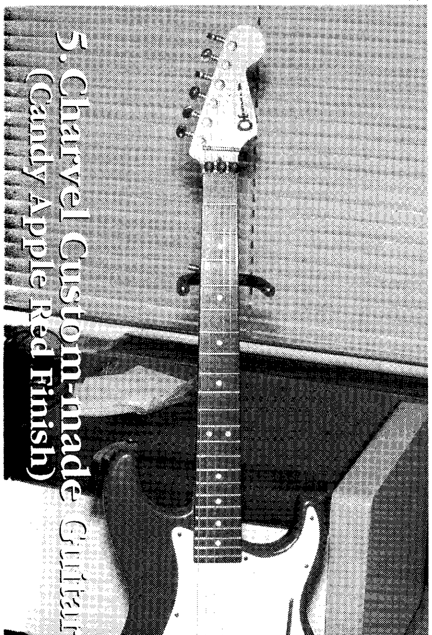
b.





c.

(◆)

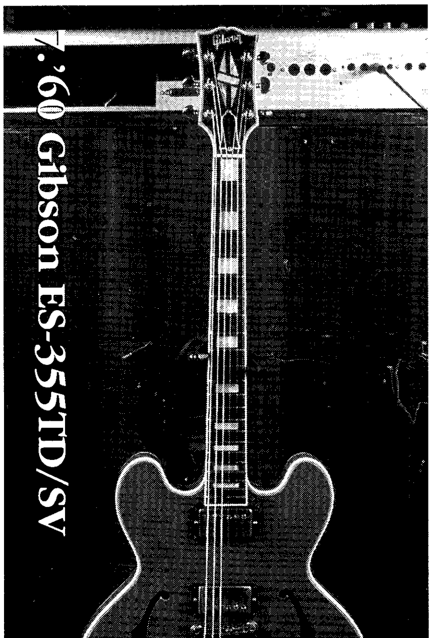


▲'80年代後半に使用され、'87年の来日公演ではメインとして使われた経歴もある、シャーベルのカスタム・モデル。フロイドローズ・トレモロ、アクティヴ・タイプの"EMG-58"ピックアップ搭載と、当時としては最先端の仕様になっており、名インスト・ナンバー「The Loner」（'87年『WILD FRONTIER』収録）のレコーディングはこれで行なわれた。ちなみに、元々のピックアップ配列は3シングル仕様だった。

(◆)

▲ゲイリー'Sギター群はローズウッド指板が多いため、ちょっと意外な気もする、メイプル・フィンガーボードのシャーベル製カスタム。ヴォリューム・コントロールがかなりリア・ピックアップに寄り気味になっているが、恐らくストラトと同じような操作性を求めたため、このようになったのだろう。それらの点を除けば、基本的なスペックは⑤と同様で、こちらは元々2ハム仕様だったものを1ハム仕様に変更している。

(※)



▲『DARK DAYS IN PARADISE』（'97年）辺りから使用され、『BACK TO THE BLUES』（'01年）に伴うツアーではメインとしても活躍した'60年製のギブソン"ES-355TD/SV"。このモデルにはバリトーン・スイッチというプリセット・トーン・スイッチが搭載されているが、ゲイリー所有のものはバイパスされており、本人曰く「実質的には"ES-335"と同じ」とのこと。ペグはグローヴァー製に交換されている。

YOUNG GUITAR Extra

好評発売中

スペシャルCD付
YOUNG GUITAR教則本シリーズ

ヤング・ギター[エクストラ]シリーズ

人気ギタリストのプレイ・スタイルを斬るCD付奏法解説テキスト
「バイオグラフィ」「ディスコグラフィ」
「メイン・ギター解説」データも収録！

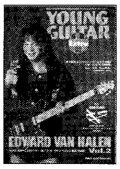
各A4判／84頁／CD付／定価¥1,890

Extra 00 RANDY RHOADS
～ランディ・ローズ奏法～

オジー・オズボーンの作品中で展開された革新的名演の数々で、ロック・ギター史に今尚多大なる影響を与え続ける名手ランディ・ローズ。夭逝した天才ギタリストの奏法スタイルをあらためて徹底検証すべく、そのエッセンスを伝授するデモ演奏収録のスペシャルCD連動によって細密な奏法分析を敢行！ 伝説のランディ奏法を完全レクチャーする決定版ギター・テキスト！

Extra 01 EDWARD VAN HALEN Vol.1
～エドワード・ヴァン・ヘイレン奏法 Vol.1～

史上空前のロック・ギター革命児：エディー・ヴァン・ヘイレンが、D.L.ロス在籍時の初期VHで繰り広げたアグレッシヴなテクニカル・スタイルを、デモ演奏を収録した付録CD連動で詳細解説！
【掲載ギター・スコア】「Runnin' With The Devil」「Eruption」「You Really Got Me」「Ain't Talkin' 'Bout Love」「Mean Street」「Cathedral」「Little Guitars」計7曲



Extra 02 EDWARD VAN HALEN Vol.2
～エドワード・ヴァン・ヘイレン奏法 Vol.2～

「Jump」「Panama」の大ヒットを含む超名盤『1984』以降の'80年代中期～'90年代後半に掛けて披露された進化型EVH奏法のエッセンスを、デモ演奏収録の付録CD連動で徹底分析！
【掲載ギター・スコア】「Jump」「5150」「Cabo Wabo」「Poundcake」「316」計5曲

Extra 03 YNGWIE MALMSTEEN Vol.1
～イングヴェイ・マルムスティーン奏法 Vol.1～

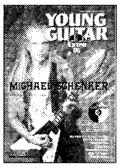
類希なる技と表現力による華麗なる烈奏でギター・フリークを魅了し続けるイングヴェイ・マルムスティーン。付録CD連動の徹底解剖＆最重要曲のスコア解説からイングヴェイ・スタイルの核心に迫る！
【掲載ギター・スコア】「Hiroshima Mon Amour」「Black Star」「Far Beyond The Sun」「I'll See The Light, To Night」「Never Die」計5曲

Extra 04 PAUL GILBERT Vol.1
～ポール・ギルバート奏法 Vol.1～

RACER X～MR.BIG～ソロという各時代で個性的なコンテンポラリー・スタイルをアピールしてきたポールの奏法テクニックを徹底解剖！ そのエッセンスを付録CD連動の奏法分析で伝授！
【掲載ギター・スコア】「Frenzy」「Y.R.O.」(RACER X)「To Be With You」(MR. BIG)「Down To Mexico」(Solo)「Superheroes」(RACER X) 計5曲

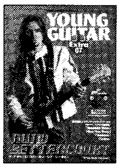
Extra 05 STEVE VAI
～スティーヴ・ヴァイ奏法～

技、表現力、カリスマ性のいずれにおいても現代ロック・ギター・シーンの最高峰に君臨するスティーヴ・ヴァイ。付録CD連動の奏法分析から独自の色彩と世界観を醸し出すヴァイ奏法の核心に迫る！
【掲載ギター・スコア】「The Attitude Song」「For The Love Of God」「Erotic Nightmares」「The Audience Is Listening」計4曲



Extra 06 MICHAEL SCHENKER
～マイケル・シェンカー奏法～

UFO、MSGを通して魂を揺さぶる美旋律を紡ぎ出してきた華麗なるフライングV伝説：マイケル・シェンカー。そのテイストと奏法エッセンスを凝縮したデモ演奏入りの付録CD連動で徹底奏法解説！
【掲載ギター・スコア】「Rock Bottom」「Lights Out」(UFO)「Armed And Ready」「Into The Arena」「Captain Nemo」(MSG) 計5曲



Extra 07 NUNO BETTENCOURT
～ヌーノ・ベッテンコート奏法～

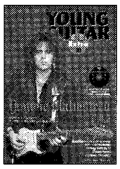
先鋭的なアプローチで独自のチャレンジを続けるヌーノ・ベッテンコート。進化し続ける彼のクレヴァーな奏法スタイルの核心に迫るべく、デモ演奏を収録した付録CD連動で詳細なる奏法分析を敢行！
【掲載ギター・スコア】「Decadence Dance」「More Than Words」「Warheads」「Cynical」計4曲

Extra 08 RITCHIE BLACKMORE
～リッチー・ブラックモア奏法～

鬼気迫るプレイでロック・ギター奏法の礎とクラシカルな様式美スタイルを確立したリッチー・ブラックモア。ディープ・パープル／レインボー時代のプレイを題材に付録CD連動の徹底奏法分析を展開。
【掲載ギター・スコア】「Smoke On The Water」「Highway Star」「Burn」(DEEP PURPLE)「Spotlight Kid」(RAINBOW) 計4曲

Extra 09 ZAKK WYLDE
～ザック・ワイルド奏法～

『NO REST FOR THE WICKED』での颯爽たる登場以来、豪放極まる力演でキッズを魅了し続ける暴挙王ザック・ワイルド。その剛健なる奏法エッセンスを付録CD音源連動で完全伝授！
【掲載ギター・スコア】「Miracle Man」「Crazy Babies」「Bloodbath In Paradise」「No More Tears」「Gets Me Through」計5曲

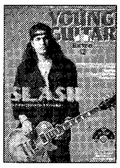


Extra 10 YNGWIE MALMSTEEN Vol.2
～イングヴェイ・マルムスティーン奏法 Vol.2～

王者の奏法スタイルに迫るシリーズ第2弾！ イングヴェイならではの華麗なクラシカル・アプローチ、美麗＆豪速なプレイング・エッセンスのA to Zを、付録CD収録のデモ演奏を題材に詳細伝授！
【掲載ギター・スコア】「Trilogy Suite Op:5」「Rising Force」「Eclipse」「Attack!!」計4曲

Extra 11 CHRIS IMPELLITTERI
～クリス・インペリテリ奏法～

デモ演奏収録の付録CD連動によるエクササイズ譜例と、[奏法解説]＆[サウンド・メイク・ガイド]付ギター・スコアから、"世界最速の男"クリス・インペリテリの光速スピード・プレイに迫る！
【掲載ギター・スコア】「Somewhere Over The Rainbow」「Stand In Line」「Power Of Love」「Walk Away」計4曲



Extra 12 SLASH
～スラッシュ奏法～

GUNS N' ROSESやソロ・キャリアにおいてロック・ギターのルーツに根ざした熱演で独自の存在感を放つスラッシュ。そのプレイング・エッセンスを付録CD連動の奏法分析で詳細伝授！
【掲載ギター・スコア】「Nightrain」「Sweet Child O' Mine」「Paradise City」計3曲

Extra 13 JAKE E. LEE
～ジェイク・E・リー奏法～

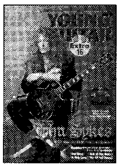
名盤『BARK AT THE MOON』『THE ULTIMATE SIN』で、個性極まるアプローチを披露した名手ジェイク・E・リー。その巧みなバッキングやソロ構成術を付録CD連動で詳細に分析！
【掲載ギター・スコア】「Bark At The Moon」「The Ultimate Sin」「Secret Loser」「Shot In The Dark」計4曲

Extra 14 WARREN DeMARTINI
～ウォーレン・デ・マルティーニ奏法～

L.A.メタル代表格：RATTでの活躍を通して独自のセンスとタイム感でギタリストの輝きを放ったウォーレン・デ・マルティーニ。彼一流の奏法エッセンスを付録CD連動の奏法分析で徹底伝授！
【掲載ギター・スコア】「Round And Round」「Back For More」「Wanted Man」「Lay It Down」計4曲

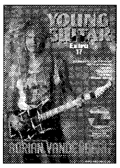
Extra 15 NIGHT RANGER
～ナイト・レンジャー奏法～

アーミング技を武器とするブラッド・ギルス、8フィンガーズ奏法で度肝を抜いたジェフ・ワトソン。史上最高のアピール度を誇ったツイン・ギター・チームの奏法エッセンスを付録CD連動で詳細解説！
【掲載ギター・スコア】「Don't Tell Me You Love Me」「Night Ranger」「(You Can Still) Rock In America」「Rumours In The Air」計4曲



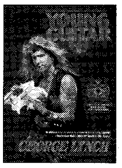
Extra 16 JOHN SYKES
～ジョン・サイクス奏法～

天性のメロディー・センスとアグレッシヴなプレイが冴えるジョン・サイクス。彼独自の美旋律を付録CD連動で詳細解説！ ギター・スコアも[奏法解説][サウンド・メイク・ガイド]付で掲載！
【掲載ギター・スコア】「Still Of The Night」「Bad Boys」「Is This Love」(WHITESNAKE)「We All Fall Down」(BLUE MURDER) 計4曲



Extra 17 ADRIAN VANDENBERG
～エイドリアン・ヴァンデンバーグ奏法～

ヨーロピアンな哀愁とアメリカンナイズされたキャッチーさを融合した独自のスタイルで魅了したエイドリアン・ヴァンデンバーグ。彼ならではの奏法エッセンスを付録CD連動で詳細に伝授。ヴァンデンバーグ時代の人気曲のギター・スコアも掲載！
【掲載ギター・スコア】「Too Late」「Friday Night」「This Is War」「Different Worlds」計4曲



Extra 18 GEORGE LYNCH
～ジョージ・リンチ奏法～

スリリング極まる名演を披露して、ロック・ギター史上に空前のコンテンポラリー・スタイルを打ち立てたDOKKENでの輝かしき栄華！ 巨匠の手法を付録CD連動で詳細解説！ ギター・スコアも[奏法解説]＆[サウンド・メイク・ガイド]付で掲載！
【掲載ギター・スコア】「Tooth And Nail」「Kiss Of Death」「Mr. Scary」計3曲

Extra 19 STEVIE RAY VAUGHAN
～スティーヴィー・レイ・ヴォーン奏法～

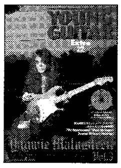
迫真のテキサス・スタイルで、従来のブルース・ギターの枠を超えて輝かしい層にアピールしたスティーヴィー・レイ・ヴォーン。彼の奏法アプローチを付録CD連動で詳細解説！
【掲載ギター・スコア】「Texas Flood」「Mary Had A Little Lamb」「Scuttle Buttin'」「Couldn't Stand The Weather」「Travis Walk」「Riviera Paradise」計6曲

Extra 20 NUNO BETTENCOURT Vol.2
～ヌーノ・ベッテンコート奏法 Vol.2～

テクニカル＆クレヴァーなヌーノ奏法に、付録CD音源連動の徹底分析でリアルに迫るシリーズ第二弾！ 歴代の代表曲のギター・スコアを[奏法解説]＆[サウンド・メイク・ガイド]付で掲載！
【掲載ギター・スコア】「Get The Funk Out」「Hip Today」(EXTREME)「All Automatic」「Furnished Souls For Rent」(MOURNING WIDOWS) 計4曲

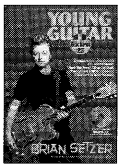
Extra 21 GEORGE LYNCH Vol.2
～ジョージ・リンチ奏法 Vol.2～

"巨匠"フィーチュアリングの第二弾となる本書では、DOKKEN時代の分析に加えて、LYNCH MOBでの奏法スタイルにも徹底肉迫！ 彼ならではのプレイング・エッセンスを付録CD連動の奏法分析企画で詳細伝授。代表曲のギター・スコアも掲載！
【掲載ギター・スコア】「Unchain The Night」「It's Not Love」「Wicked Sensation」「River Of Love」計4曲



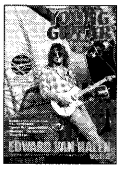
Extra 22 YNGWIE MALMSTEEN Vol.3
～イングヴェイ・マルムスティーン奏法 Vol.3～

シリーズ中の第三弾！ 今回もネオ・クラシカル・スタイルの頂点に君臨し続ける"王者"ならではの奏法エッセンスを、付録CD連動の分析企画で詳細伝授！ 代表曲のギター・スコアも掲載！
【掲載ギター・スコア】「My Resurrection」(YNGWIE MALMSTEEN)「Wield My Sword」「Prophet Of Doom」「Rise Up」(YNGWIE J. MALMSTEEN'S RISING FORCE) 計4曲



Extra 23 BRIAN SETZER
～ブライアン・セッツァー奏法～

幅広いジャンルの音楽スタイルを融合し、モダン・ロカビリー／ビバップ奏法を築き上げた天才プレイヤー：ブライアン・セッツァー。彼ならではのアプローチを付録CD連動の奏法解説で徹底的に伝授！
【掲載ギター・スコア】「Rock This Town」「Stray Cat Strut」(STRAY CATS)「Pennsylvania 6-5000」「Caravan」「This Cat's On A Hot Tin Roof」(THE BRIAN SETZER ORCHESTRA) 計5曲

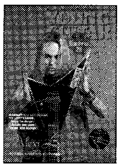


Extra 24 EDWARD VAN HALEN Vol.3
～エドワード・ヴァン・ヘイレン奏法 Vol.3～

史上空前のロック・ギター革命児：エディー・ヴァン・ヘイレン。彼が初期VHで繰り広げたアグレッシヴ＆トリッキーなプレイ・スタイルを付録CD連動で詳細解説！ 代表曲のギター・スコアも掲載！
【掲載ギター・スコア】「Spanish Fly」「Romeo Delight」「Unchained」「Girl Gone Bad」「House Of Pain」計5曲

Extra 25 RICHIE KOTZEN
～リッチー・コッツェン奏法～

天性の才気と幅広い音楽センスを兼備した名手リッチー・コッツェン。クレヴァーかつメロディアス、そしてジージーでファンキー、そんな彼独自のプレイ・アプローチを、付録CD連動の奏法解説で徹底分析！
【掲載ギター・スコア】「Get A Life」(Solo)「Superfantastic」「Shine」(MR.BIG)「Contusion」(RICHIE KOTZEN / GREG HOWE) 計4曲

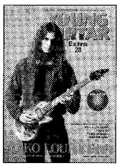


Extra 26 ALEXI LAIHO
～アレキシ・ライホ奏法～

CHILDREN OF BODOMやSINERGYでアグレッシヴな美旋律アプローチを展開する、新世代ギター・ヒーロー：アレキシ・ライホ。その華麗なるテクニカル・スタイルを、付録CD連動で徹底奏法解説！
【掲載ギター・スコア】「Follow The Reaper」「Bodom After Midnight」(CHILDREN OF BODOM)「I Spit On Your Grave」(SINERGY) 計3曲

Extra 27 METALLICA
～メタリカ奏法～

メタリカの重厚怒涛なるヘヴィ・サウンドを体現する激烈巧緻なリフ・ワークを中心に、ジェイムズ・ヘットフィールド、カーク・ハメットのプレイ・スタイルを付録CD連動の奏法分析で詳細解説！
【掲載ギター・スコア】「Battery」「Damage, Inc.」「Enter Sandman」計3曲



Extra 28 KIKO LOUREIRO
～キコ・ルーレイロ奏法～

圧巻のテクニカル・スタイルで、アングラの楽曲を鮮やかに引き立てるキコ・ルーレイロ。ブラジルが生んだ稀代の名手による華麗なるギター・アプローチを、付録CD連動の奏法解説で徹底伝授！
【掲載ギター・スコア】「Carry On」「Wings Of Reality」「Live And Learn」計3曲

Extra 29 JOE PERRY
～ジョー・ペリー奏法～

エアロスミスのリード・ギタリストとして幅広い人気を集めるジョー・ペリー。オーソドックスなロック・ギター・フレーズをクールに輝かせる、彼一流のハイ・センスなギター・ワークを徹底解説。
【掲載ギター・スコア】「Eat The Rich」「Livin' On The Edge」「I Don't Want To Miss A Thing」「Just Push Play」「Jaded」計5曲

Extra 30 DIMEBAG DARRELL
～ダイムバッグ・ダレル奏法～

ダメージプランを結成してさらなる進撃を続けるダイムバッグ・ダレル。'90年代にパンテラで新たなるヘヴィネス概念を打ち立てた伝説的覇王の繊細かつ豪放なプレイ・スタイルを、付録CD連動の奏法分析で徹底伝授！
【掲載ギター・スコア】「The Great Southern Trendkill」「Mouth For War」「Avoid The Light」「A New Level」計4曲

全国の書店、書籍お取扱の楽器店・CDショップなどでお買い求めいただけます。店頭に無い場合は小売店にお取寄せをお申し付けください。

インターネットまたはEメールでご購入が出来ます　http://www.shinko-music.co.jp〈送料全国一律210円〉　e-mail:dm@shinko-music.co.jp

Eメールでご注文の場合：購入希望商品名／冊数／名前（フリガナ）／届け先郵便番号／住所／電話番号を記入の上、ご送信下さい。
※ご注文商品は代金引換でお届けします。送料は全国一律210円。電話でのご注文はできません。

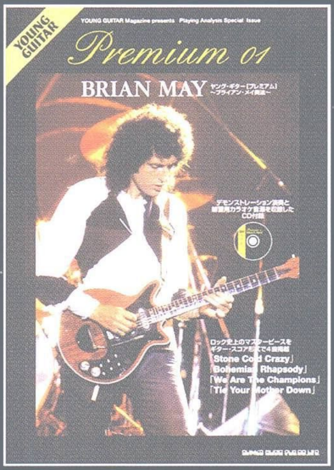
営業部／通販係 TEL：03-3295-4191 株式会社シンコーミュージック・エンタテイメント

好評発売中!

伝説的ギタリスト達のプレイ・スタイルを付録CD連動で徹底解説!

YOUNG GUITAR *Premium 01*
BRIAN MAY

ヤング・ギター[プレミアム]～ブライアン・メイ奏法～



A4判／84頁／CD付／定価 ¥2,100

ベスト・ギター・スコア

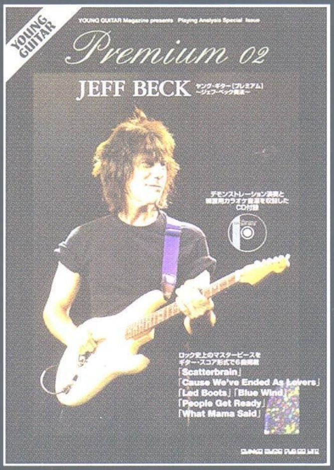
「Stone Cold Crazy」
「Bohemian Rhapsody」
「We Are The Champions」
「Tie Your Mother Down」計4曲

- ●ブライアン・メイ・ストーリー（バイオグラフィ）
- ●ブライアン・メイ名盤10選（ディスコグラフィ）
- ●プレイ・スタイル考察 ●愛器ギター&ライヴ機材紹介

付録CD連動の奏法解説
Stage 1◆エクササイズ・フレーズ集
Stage 2◆トータル・シミュレーション・リック

YOUNG GUITAR *Premium 02*
JEFF BECK

ヤング・ギター[プレミアム]～ジェフ・ベック奏法～



A4判／84頁／CD付／定価 ¥2,100

ベスト・ギター・スコア

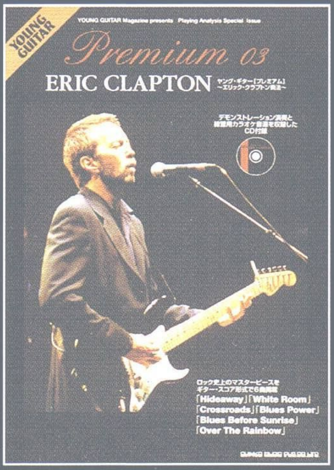
「Scatterbrain」
「Cause We've Ended As Lovers」
「Led Boots」
「Blue Wind」
「People Get Ready」
「What Mama Said」
計6曲

- ●ジェフ・ベック・ストーリー（バイオグラフィ）
- ●ジェフ・ベック名盤10選（ディスコグラフィ）
- ●プレイ・スタイル考察 ●メイン・ギター変遷紹介

付録CD連動の奏法解説
Stage 1◆エクササイズ・フレーズ集
Stage 2◆トータル・シミュレーション・リック

YOUNG GUITAR *Premium 03*
ERIC CLAPTON

ヤング・ギター[プレミアム]～エリック・クラプトン奏法～



A4判／84頁／CD付／定価 ¥2,100

ベスト・ギター・スコア

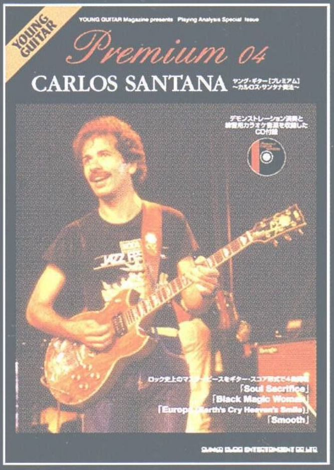
「Hideaway」
「White Room」
「Crossroads」
「Blues Power」
「Blues Before Sunrise」
「Over The Rainbow」
「Crossroads」計6曲

- ●エリック・クラプトン・ストーリー（バイオグラフィ）
- ●エリック・クラプトン名盤10選（ディスコグラフィ）
- ●プレイ・スタイル考察 ●愛器ギター&ライヴ機材紹介

付録CD連動の奏法解説
Stage 1◆エクササイズ・フレーズ集
Stage 2◆トータル・シミュレーション・リック

YOUNG GUITAR *Premium 04*
CARLOS SANTANA

ヤング・ギター[プレミアム]～カルロス・サンタナ奏法～



A4判／84頁／CD付／定価 ¥2,100

ベスト・ギター・スコア

「Soul Sacrifice」
「Black Magic Woman」
「Europa (Earth's Cry Heaven's Smile)」
「Smooth」計4曲

- ●カルロス・サンタナ・ストーリー（バイオグラフィ）
- ●カルロス・サンタナ名盤10選（ディスコグラフィ）
- ●プレイ・スタイル考察 ●愛器ギター&ライヴ機材紹介

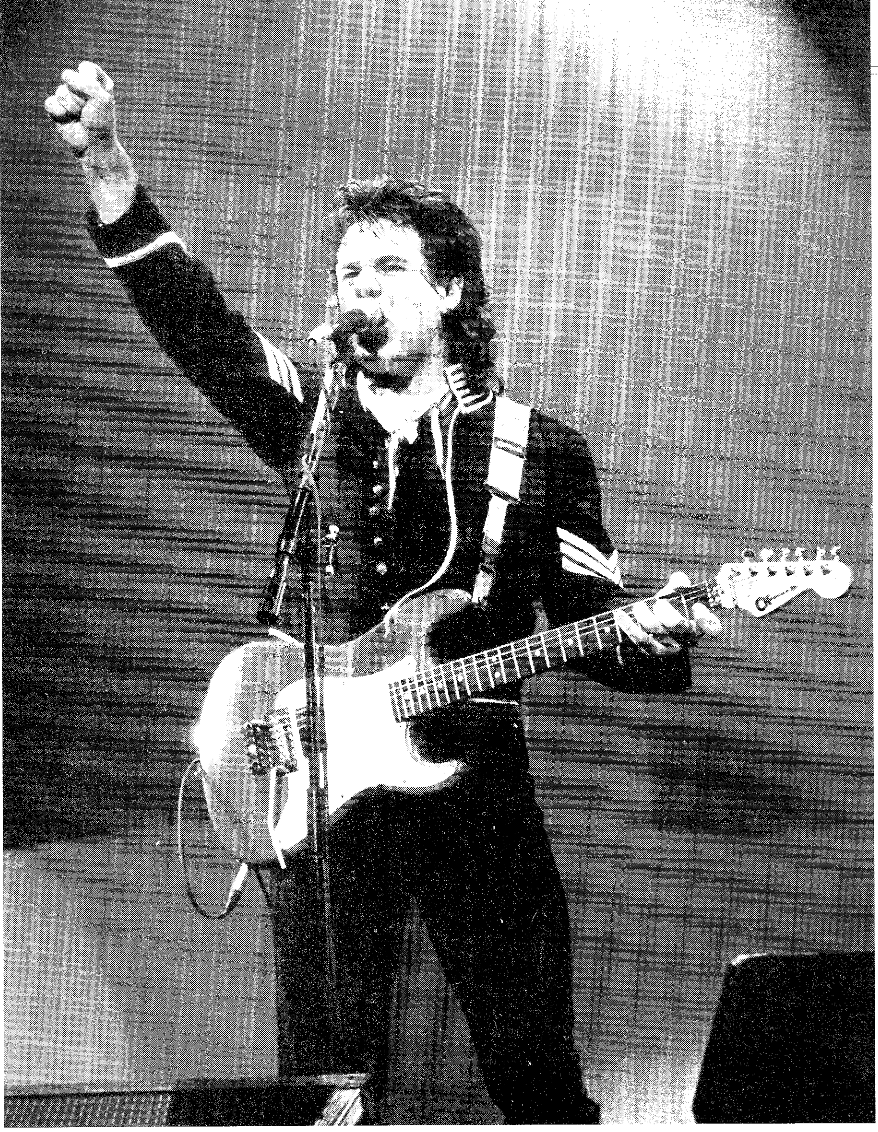
付録CD連動の奏法解説
Stage 1◆エクササイズ・フレーズ集
Stage 2◆トータル・シミュレーション・リック

全国の書店、書籍お取扱の楽器店・CDショップなどでお買い求めいただけます。店頭に無い場合は小売店にお取寄せをお申し出ください。

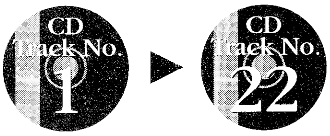
インターネットまたはEメールでご購入が出来ます **http://www.shinko-music.co.jp** 〈送料全国一律210円〉 e-mail:dm@shinko-music.co.jp

Eメールでご注文の場合：購入希望商品名／冊数／名前（フリガナ）／届け先郵便番号／住所／電話番号を記入の上、ご送信下さい。
※ご注文商品は代金引換でお届けします。送料は全国一律210円。電話でのご注文はできません。

営業部／通販係 TEL：03-3295-4191 株式会社シンコーミュージック・エンタテイメント


pic : Hiroyuki Yoshihama

Stage 1



ゲイリー奏法のエッセンスが学び取れる 珠玉のエクササイズ・フレーズ集

野性味溢れるロック・スタイルで難関フレーズを鬼神のごとくキメるゲイリー・ムーア――
ここStage 1では、そんな彼のギター・スタイルをリアルに体感してもらうべく、
リフ、コード・ワーク、ソロといった各プレイ・タイプにおける
特徴的なフレージングやアプローチに基づいてエクササイズ譜例を構成してみた。
付録CDのデモ音源を参考にしながら練習を重ねてみよう。

Stage 1（Ex-1〜Ex-13）の譜例解説は付録CDのTrack No.1〜22に連動しています。
各自のニーズとレヴェルに合わせて譜面とリンクさせながら活用してください。

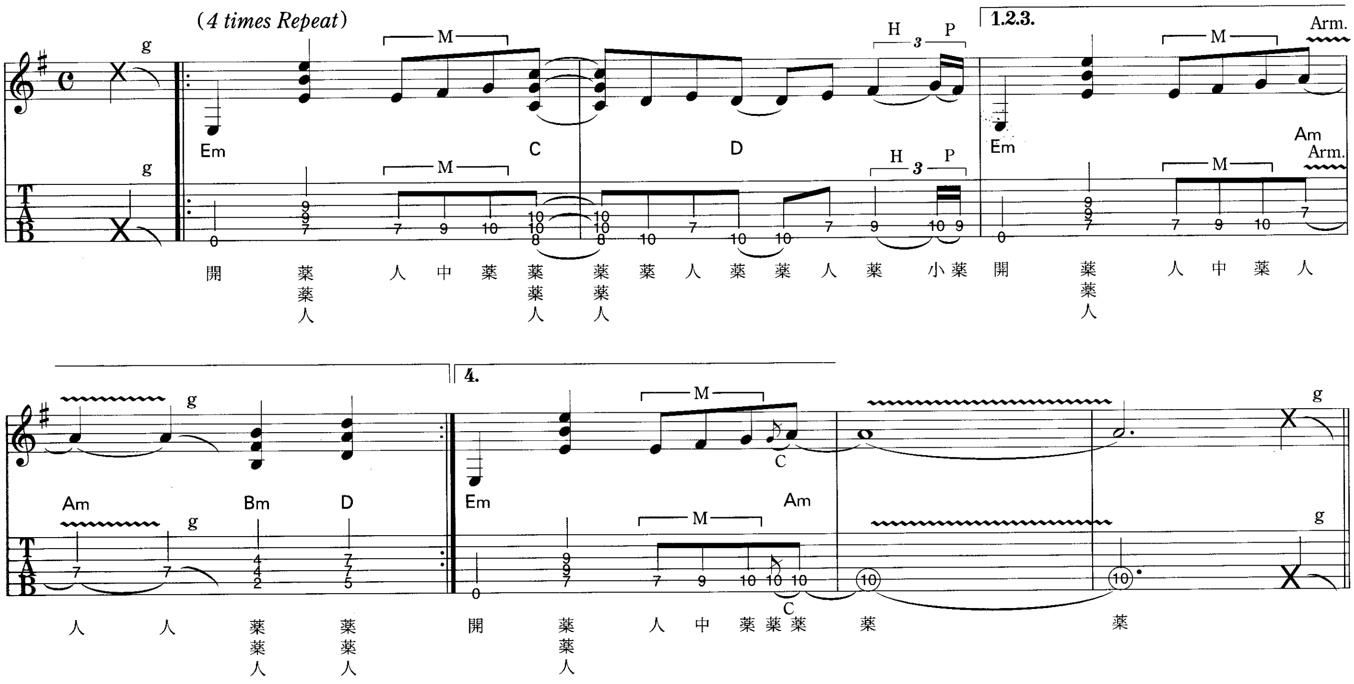
RIFF exercise I

CD Track No. 1

Ex-1は、［1度＋5度］のパワー・コードと単音ラインを組み合わせたリフ・エクササイズ。1小節目の5弦の単音ラインは、軽いブリッジ・ミュートを掛けながらプレイして、フレーズにメリハリを付けよう。肝となるのは、やはり2小節目4拍の3連符部分で、小指による素速いH＆Pを入れるのがポイント。リズムは若干取りにくいが、本来8分と16分で構成され「タンタタ」となるフレーズの8分音符が、タメを効かせたことによって長めになった…と解釈してプレイして問題ない。小指に弱点を抱えている人も多いと思うので、重点的に克服しよう。

Ex-1 単音ライン＆小指使いが肝となるリフ・エクササイズ

CD Track No.1 ▶ノーマル・テンポ



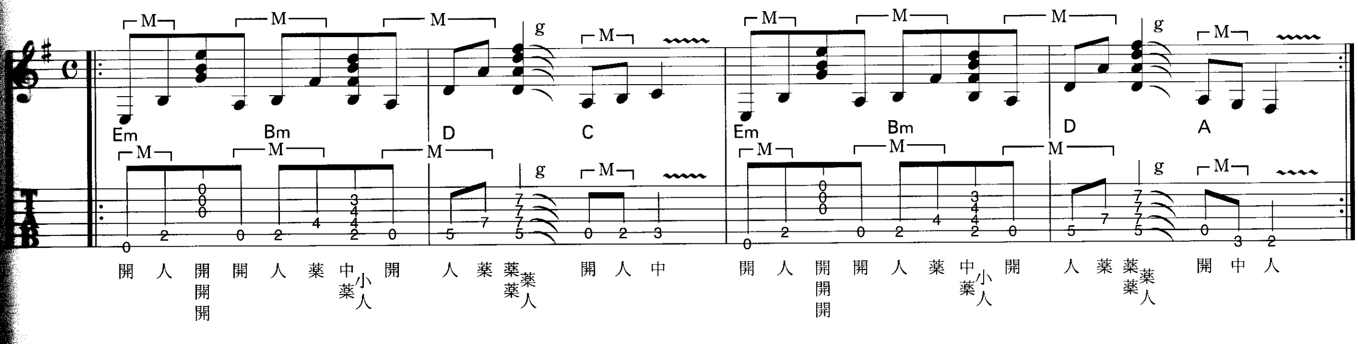
RIFF exercise II

CD Track No. 2

リフ・エクササイズEx-2は、フレーズの構造に要注目。ドラムのスネアが入るタイミングと同じの各小節の偶数拍は、ミュートを外して強く弾くことにより、ドラム・パートをフォローしているのだ。また、ルート＆アプローチ・ノート（Bm前のA音など）も弾いているためベースの要素も入っており、ギター1本で他のパートを補うフレーズと言える。1＆3小節目のEmでは、1～3弦の開放を鳴らした後のミュートが重要。続く5弦開放を弾く時に、5弦のブリッジ・ミュートを効かせると同時に人差指で1～3弦に触れて確実にミュートすること。

Ex-2 コード構成音を巧みに使用したリフ・エクササイズ

CD Track No.2 ▶ノーマル・テンポ



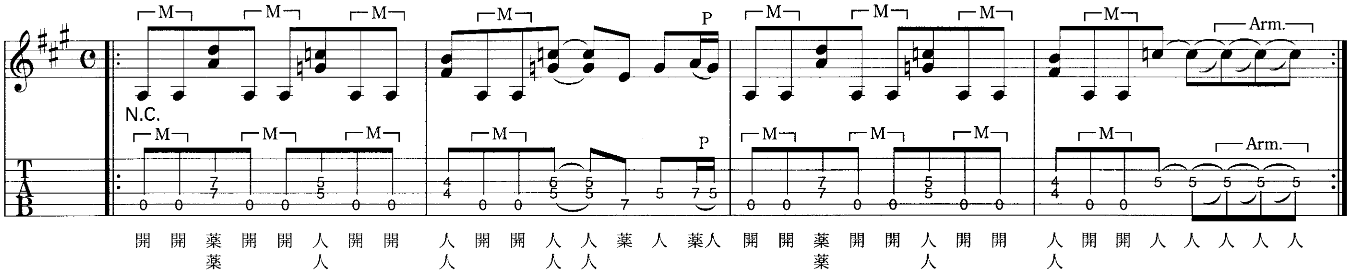
RIFF exercise III

CD Track No. 3

リフ・エクササイズ**Ex-3**はかなり高速なので、まずはブリッジ・ミュートとノン・ミュートの和音のメリハリに気を配ろう。2小節目4拍の単音ラインは、少しピッキング・ハーモニクス気味のピッキングでトレブリーなサウンドにして、フレーズを際立たせよう。意外に難易度が高いのが、4小節目のアーミング。3弦5fの音を伸ばしてアーム・リターンを連発するだけなのだが、このテンポでノリの良い8分音符を感じさせるには、アーム・バーを「押して戻す」のではなく、8分音符に合わせて「叩く」ようにするのがコツだ。

Ex-3 ダウン・ピッキングを鍛えるリフ・エクササイズ

CD Track No.3 ▶ノーマル・テンポ



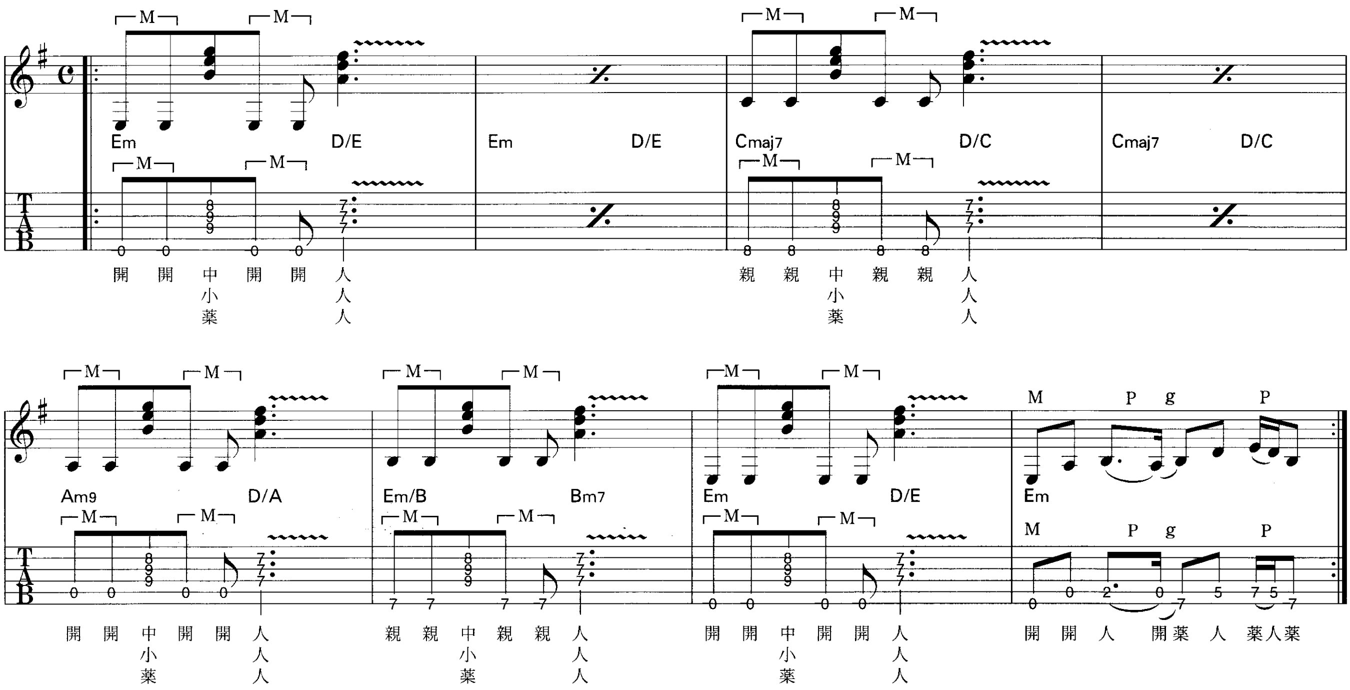
RIFF exercise IV

CD Track No. 4

Ex-4は、EmとDのトライアド（三和音）に対してルートを変化させることでコード進行を形成したリフ・エクササイズ。ルート音のみが変化していくため2～4弦の押弦フォームに変化はないが、低音弦の押弦には注意したい。開放弦以外は親指を使って押さえることとなるわけだが、完全に握り込むフォームとなるため、和音がきちんと鳴らなかったり、音が切れてしまいがち。また、ネックを握る力を入れ過ぎると、6弦を始め4～2弦もピッチがシャープ気味になってしまうので、プレイする時にはそれらの点に気を付けよう。

Ex-4 親指使用の分数コードが決め手となるリフ・エクササイズ

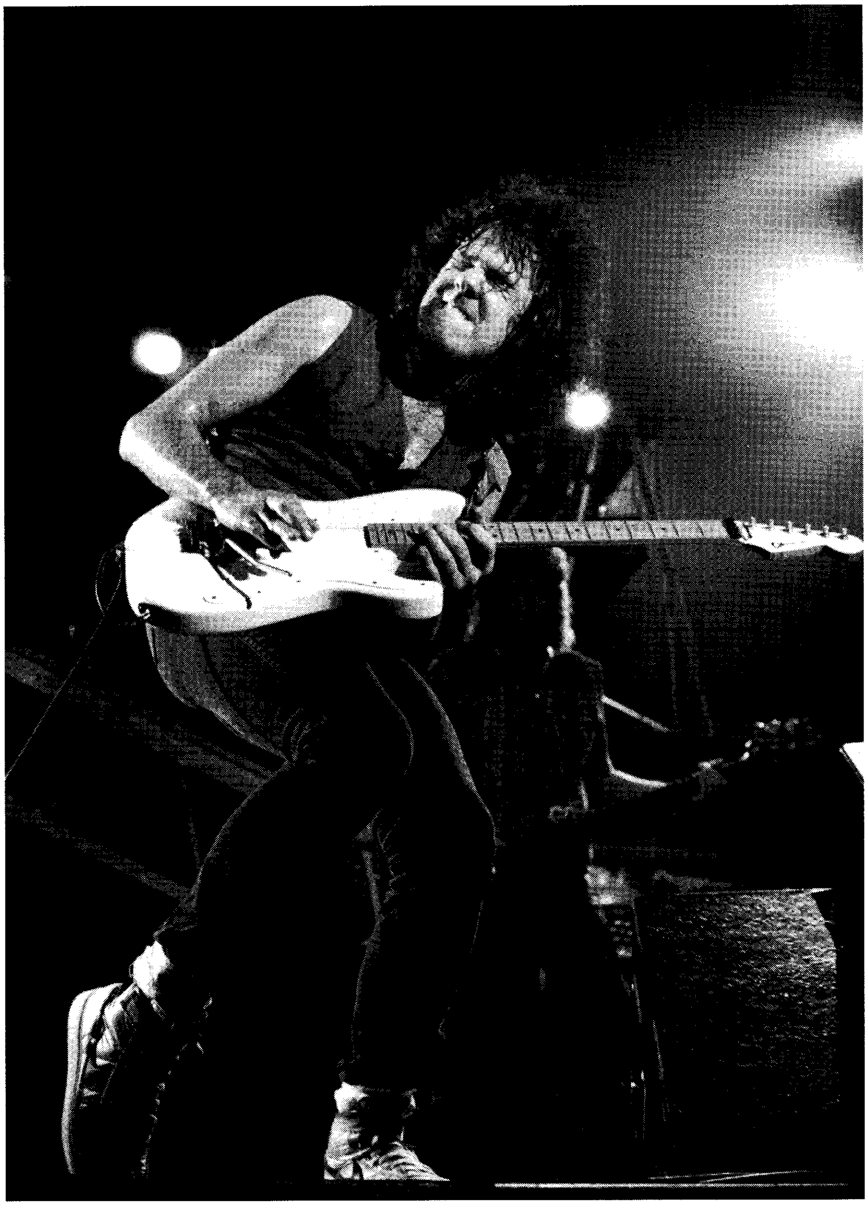
CD Track No.4 ▶ノーマル・テンポ



SOLO exercise I

CD Track No. 5　CD Track No. 6

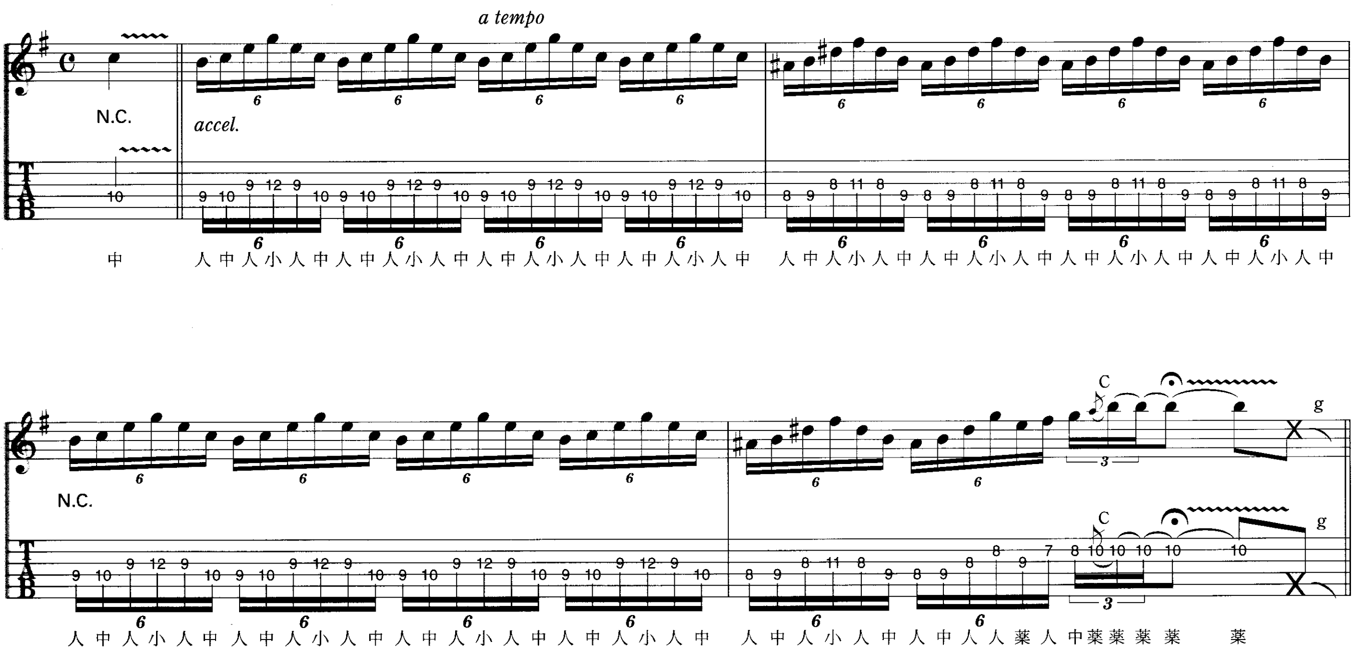
ソロ・エクササイズEx-5は、フル・ピッキングによる速弾きフレーズ。1～3小節目は1小節目のフレーズを平行移動しているだけなので、まずは1小節目1拍の6連フレーズをモノにしてしまおう。6連の6個の音は、均一な強さのピッキングでクリアに鳴らすことができるように。これを3小節に渡ってキープしなければならないので、ゲイリー流を体得するには、とにかく繰り返しの練習がモノを言うだろう。4小節目2拍は、同じ6連で突然音使いが変化するので要注意。この1拍だけなら、エコノミー・ピッキングを入れてコナした方が弾きやすいが、前からのつながりを考えるとオルタネイトの方がスムーズだろう。



pic : Kohichiro Hiki

Ex-5 ゲイリー十八番の6連エクササイズ①

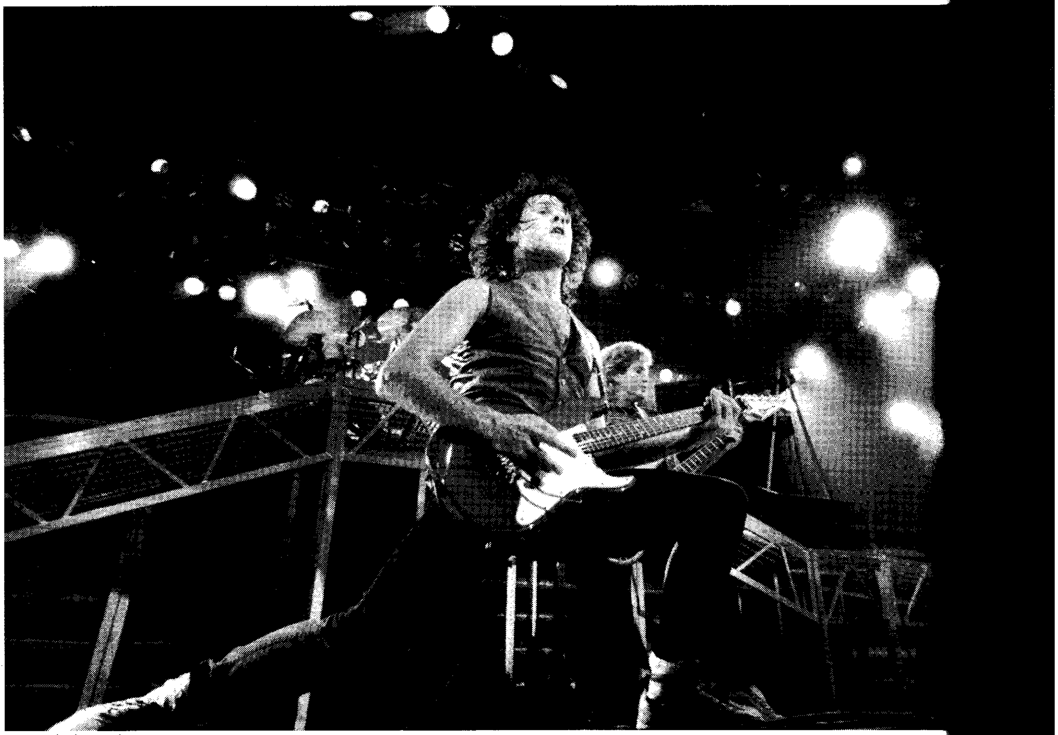
CD Track No.5▶ノーマル・テンポ　CD Track No.6▶スロー・テンポ



SOLO exercise II

CD Track No. 7　CD Track No. 8

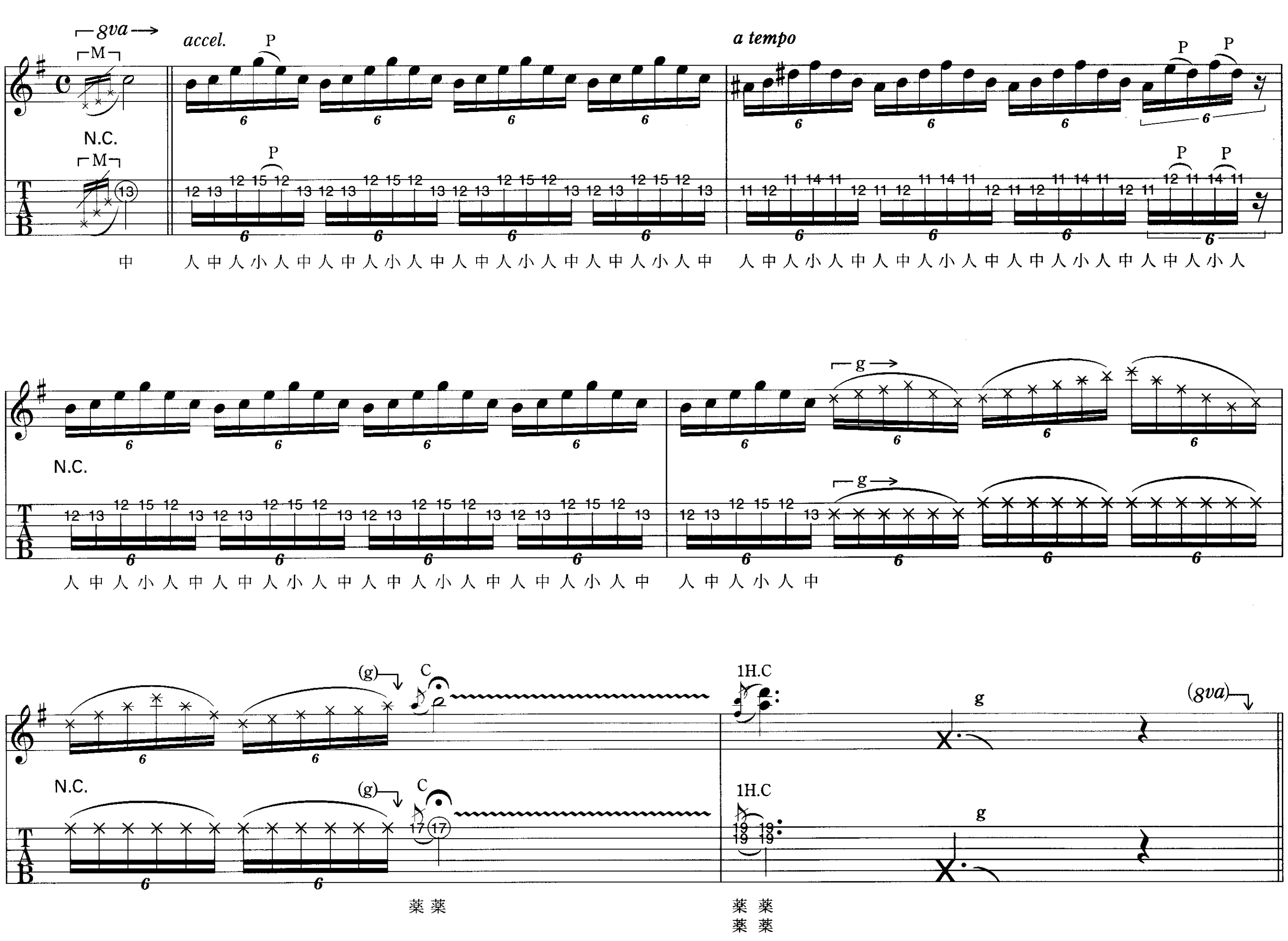
Ex-6は、Ex-5のフレーズを１＆２弦に移動したソロ・エクササイズ。中音弦と高音弦ではピッキングやフィンガリングの感覚が微妙に違ってくるが、プレイする時のポイントはEx-5と同様だ。２小節目４拍は最後に休符が入ってくるが、前のフレーズと同じように、２弦12ｆを弾いてしまうように解釈すれば一気に弾きやすくなるはずだ。４～５小節目は、６連符でのピッキングをピッキング・トリル的にキープしながら、左手は２弦or１弦を適当にグリス・アップ＆ダウンするだけ。とは言え、アップ＆ダウンする音程の雰囲気はしっかり聴き取って再現しよう。最後のチョーキングは力勝負。少なくとも１弦はしっかり１音半上げること。



pic : Kohichiro Hiki

Ex-6 ゲイリー十八番の６連エクササイズ②

CD Track No.7 ▶ノーマル・テンポ　CD Track No.8 ▶スロー・テンポ

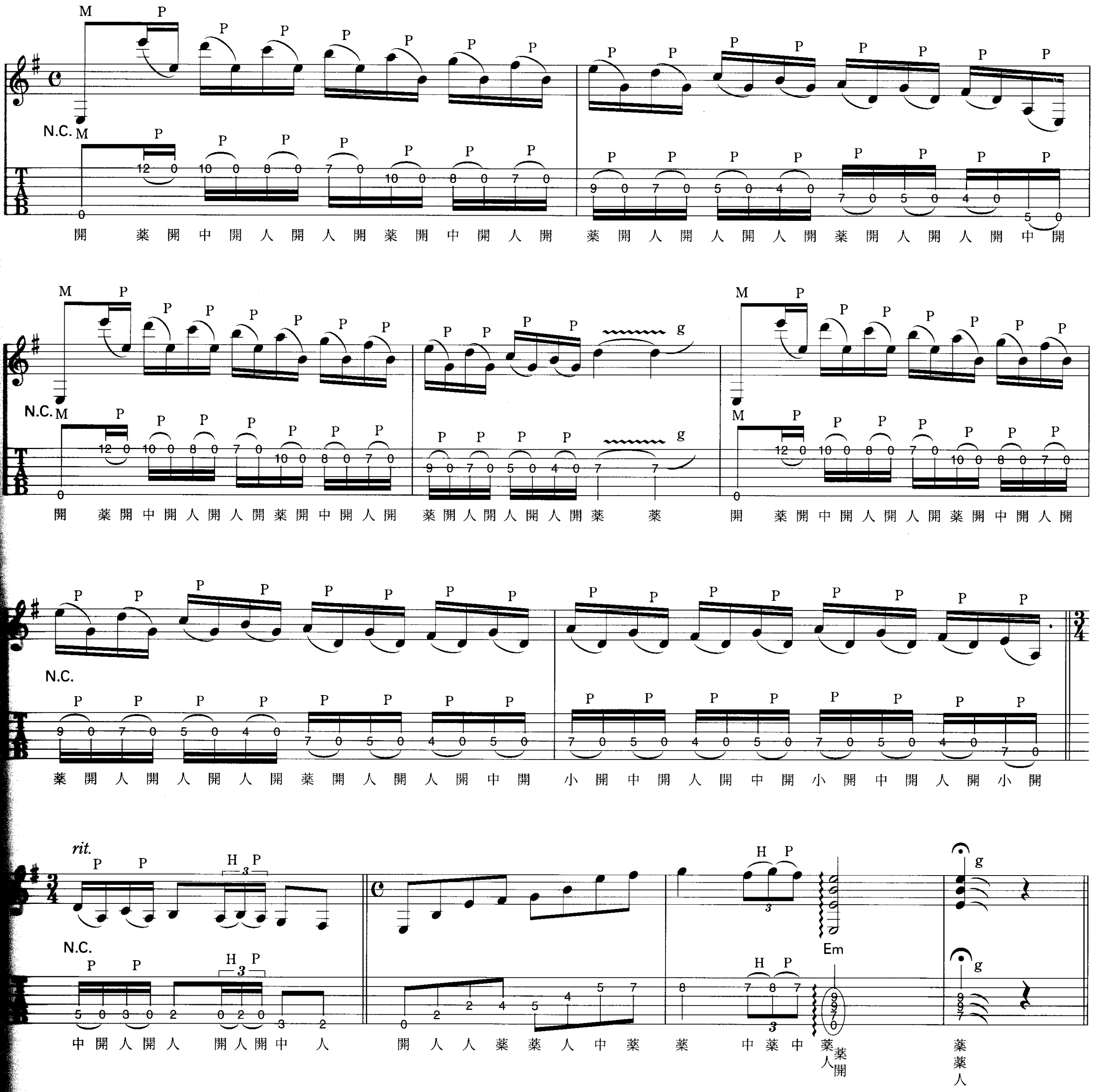


SOLO exercise III

CD Track No. 9 CD Track No. 10

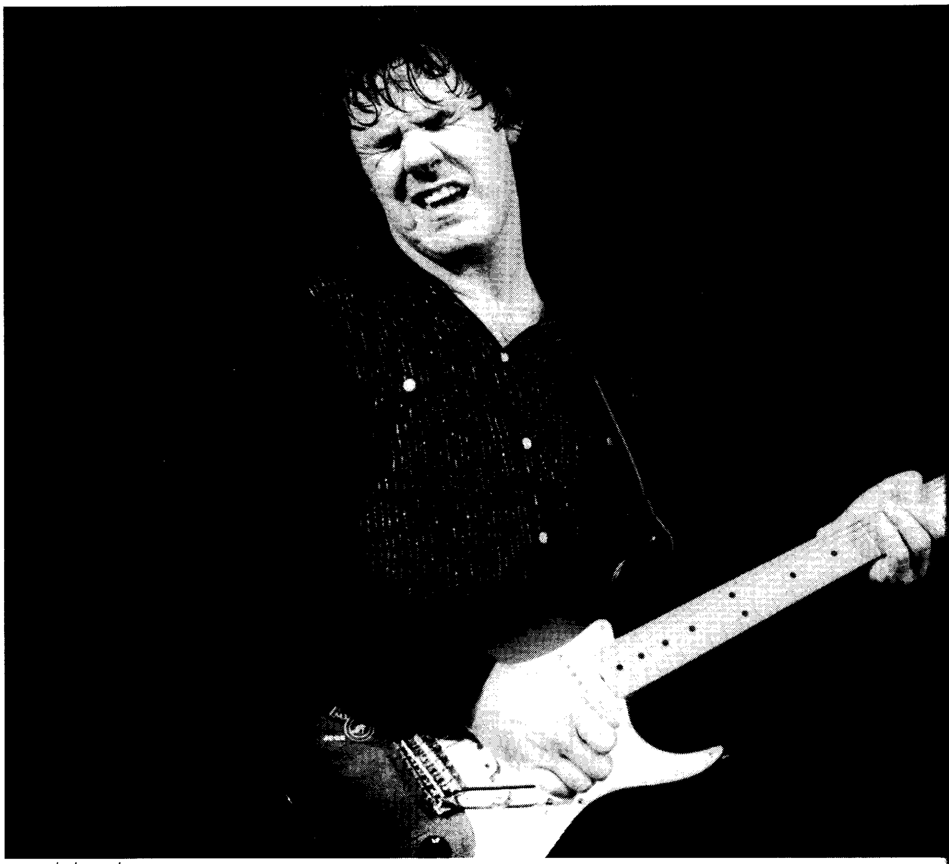
ソロ・エクササイズEx-7は、開放トリルの発展形フレーズ。指板を超ワイドに用い、Eナチュラル・マイナー・スケールを下降していくこのエクササイズは、指板全体のEナチュラル・マイナー・スケール構成音を把握するのにも最適だ。逆に言えば、スケール構成音を把握していないとミスにつながる…とも取れるが、とにかく丸々暗記してしまいたい。プレイ的には、プリング後の余弦のノイズ対策が最重要。正確に弦をピッキングするのは当然だが、プリングする時に弦を引っかき過ぎると、高音弦まで鳴ってしまう危険があるので要注意だ。プリングする弦より低い弦は、右手の腹を使ってミュートしておく。スピード・アップはそれからだ。

Ex-7 開放弦プリングを交えたスケール下降エクササイズ

CD Track No.9►ノーマル・テンポ CD Track No.10►スロー・テンポ

SOLO exercise IV

CD Track No. 11　CD Track No. 12

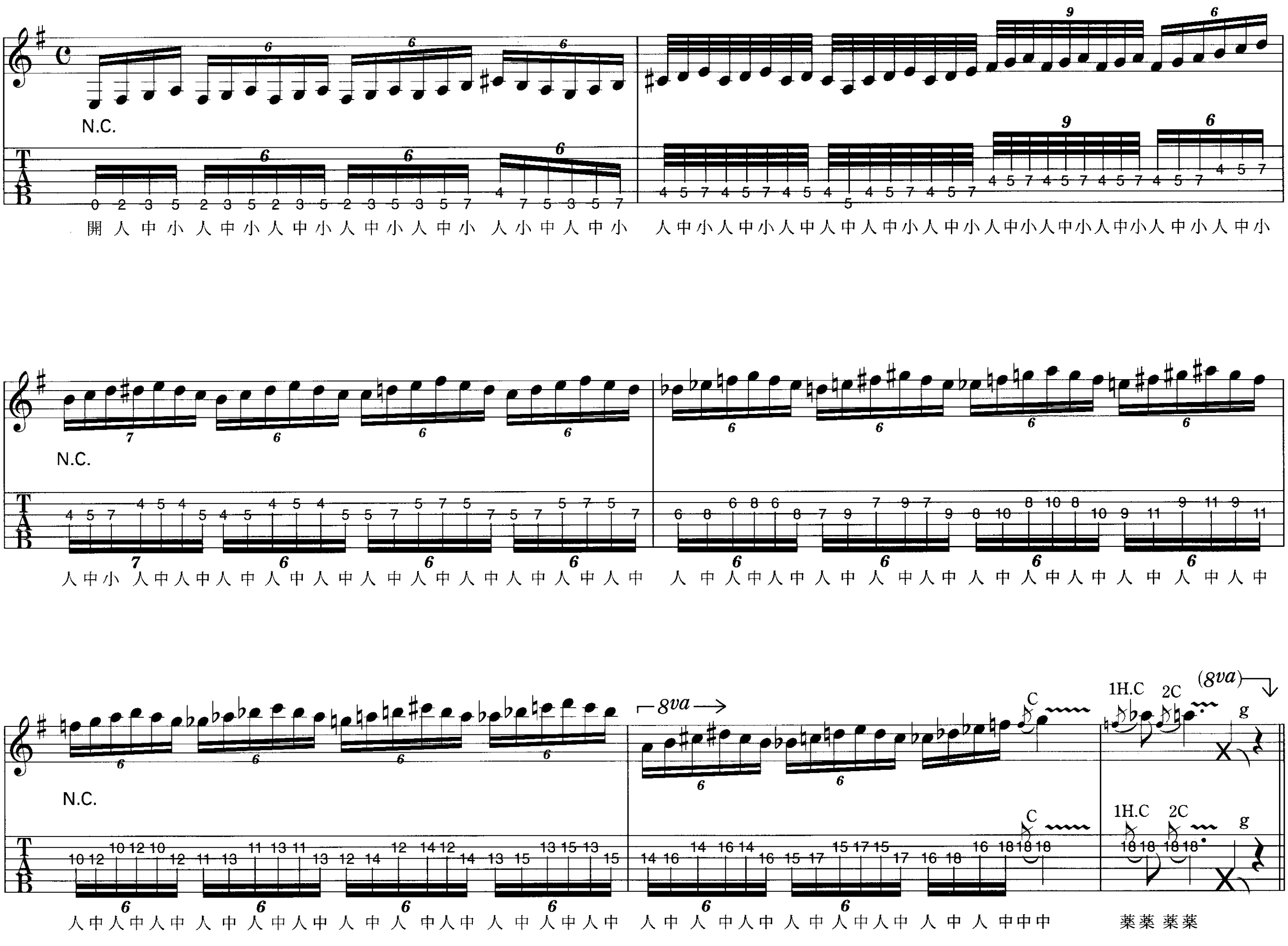
Ex-8は、フル・ピッキングを鍛えるソロ・エクササイズ。強力でスピーディーなピッキング＆フィンガリングのためかなり難関だが、譜面をよく見るとフィンガリングは意外にシンプルなことに気付くはず。最初は6弦上で2、3、5fを連発、続いて3、5、7fのちょっと変則パターン、5弦に移って4、5、7の連発…と、2小節目までは微妙な変化を除けば、シンプルな3音パターンをひたすら繰り返しているだけなのだ。3小節目アタマも少々変則だが、3拍目以降は同じシェイプを1fずつ上昇させているだけ。ここはスピードを80%程度に減速すれば、意外に簡単に攻略できるだろう。あとは地道な反復練習で速度アップだ。



pic : Kohichiro Hiki

Ex-8 ゲイリー十八番の6連エクササイズ③

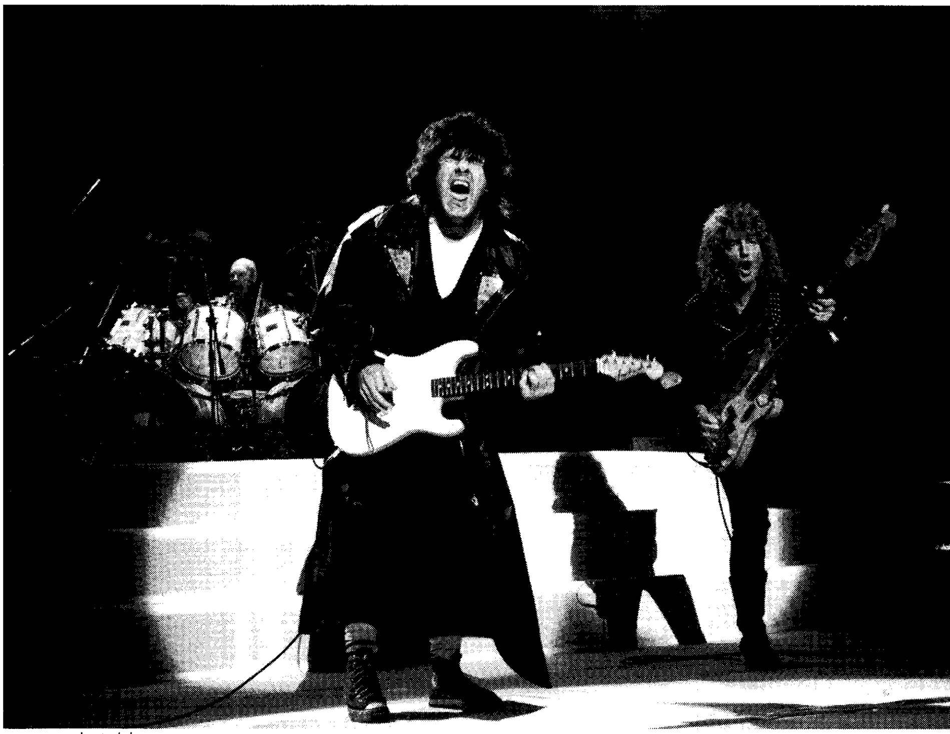
CD Track No.11 ▶ノーマル・テンポ　CD Track No.12 ▶スロー・テンポ



SOLO exercise V

CD Track No. 13　CD Track No. 14

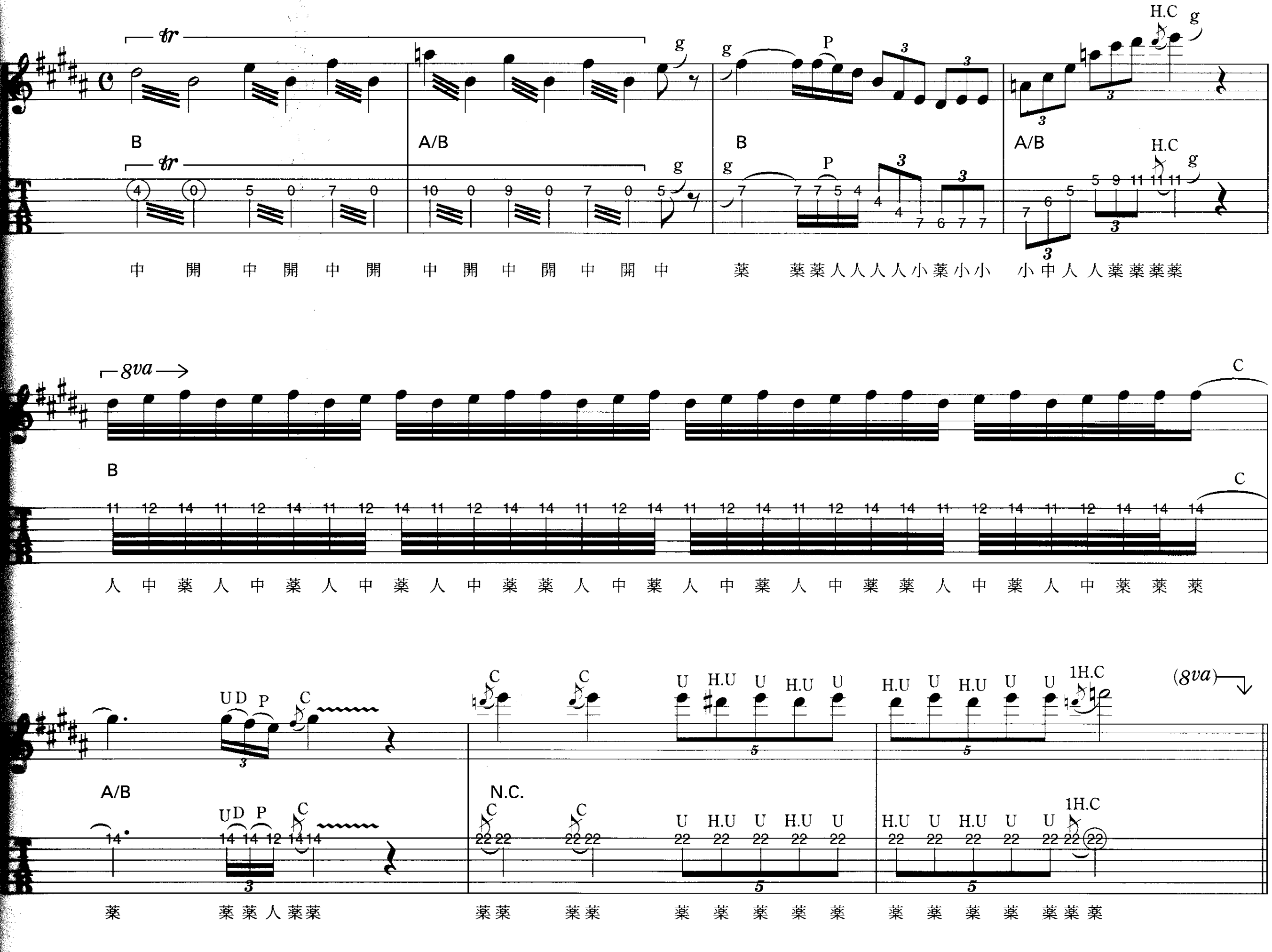
Ex-9は、ゲイリーの十八番リックをシミュレーションしたソロ・エクササイズ。1、2小節目にある典型的な開放トリルは、中指でコナすのがゲイリー流だが、もちろんそれ以外の指を使っても構わないので、得意な（持久力のある）指を見付けて集中的に鍛えよう。3小節目はBメジャー・アルペジオ＋11th音、4小節目はAメジャー・アルペジオのヴァリエーションとして憶えておきたい。5小節目は、最初の3音リックを基本としてひたすら高速度で繰り返すのみ。ピッキング・トリル風のフォームに切り替えると良いだろう。7、8小節目はチョーク・アップ（U）後の半音アップ（H.U）のピッチが乱れがちなので、正確な音程になるよう気を配ろう。



pic : Hiroyuki Yoshihama

Ex-9 **連続トリルが難関のソロ・エクササイズ**

CD Track No.13►ノーマル・テンポ　CD Track No.14►スロー・テンポ



SOLO exercise VI

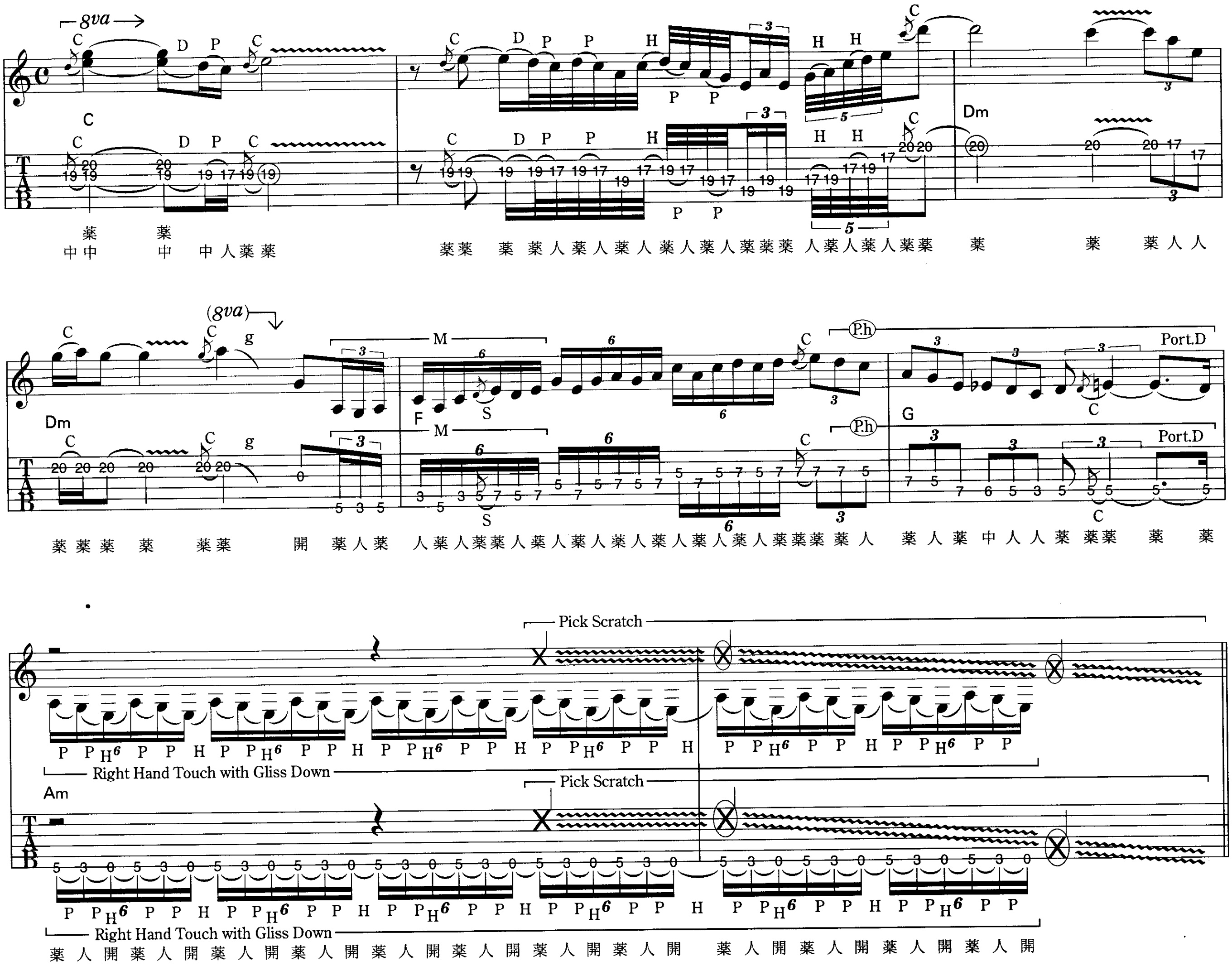
CD Track No. 15 CD Track No. 16

Ex-10は、ベーシックなペンタトニックを使用して構成されている。1小節目は3弦のみ1音チョーキングするハーモナイズド・チョーキングだが、アーム付きのギターでは2弦のピッチが下がってしまうので、2弦も少し押し上げて正確な音程の2和音にする癖を付けよう。2、5小節目は、スローで弾くとオーソドックスなペンタトニック・フレーズを高速化したものであることが分かるはず。半拍3連や半拍5連を含む部分はリズムが乱れやすいので、拍毎に区切って自分が弾ける速さで練習を重ねよう。7、8小節目は、左手で開放トリルを連発しながら右手の手刀を軽く6弦に当ててハーモニクスを出すというトリッキーな奏法だ。

pic : Kohichiro Hiki

Ex-10 基本ペンタトニック・ポジションを使用したソロ・エクササイズ①

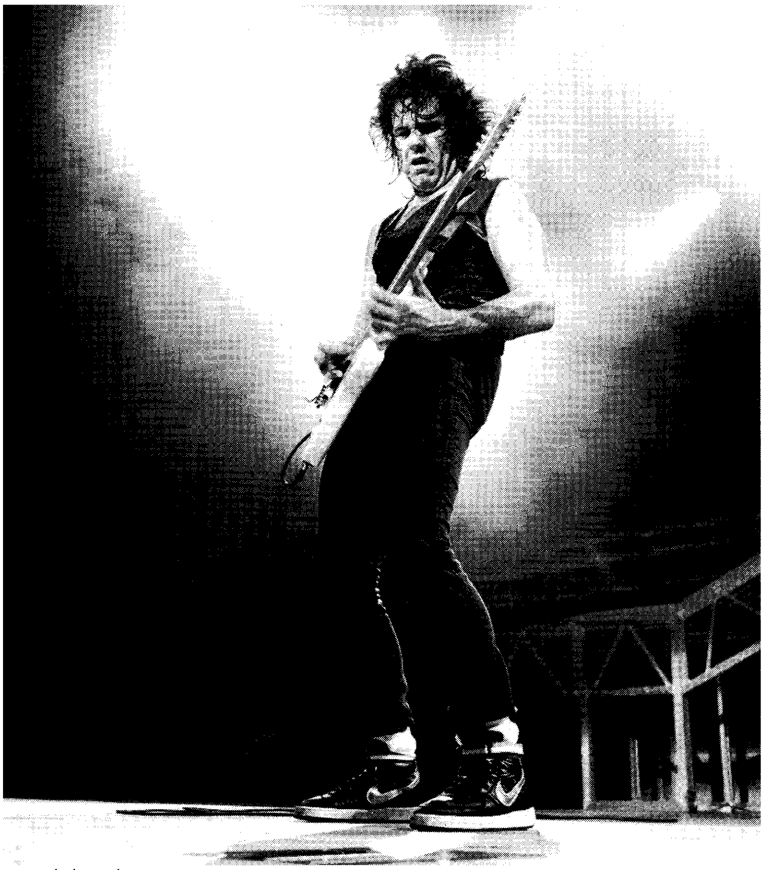
CD Track No.15▶ノーマル・テンポ　CD Track No.16▶スロー・テンポ



SOLO exercise VII

CD Track No. 17　CD Track No. 18

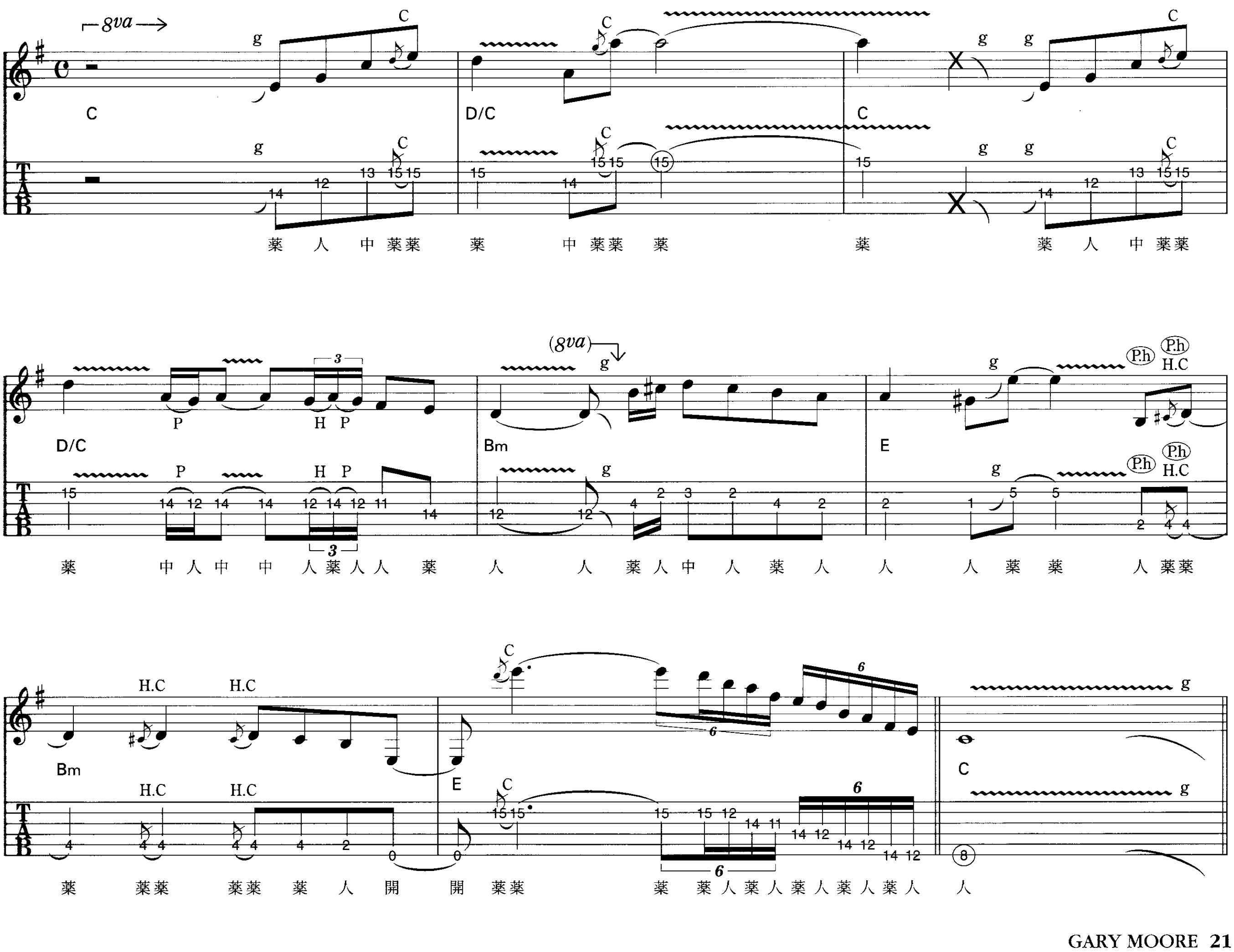
Ex-11は、コード進行を意識したフレーズ・メイクに注目。1～2小節目はコード・トーンのみでフレーズを作っているが、単なるアルペジオにせず、ギターらしいポジショニングとテクニックを使っているところが肝だ。4～5小節目は単純なDメジャー・スケールではあるが、5小節目ではバックのコードBmのコード・フォームを意識したフレージングとなっている。テクニック面ではチョーキングの音程がチェック・ポイント。2小節目の1弦15fや7小節目の5弦4fはそれぞれコード・トーンへのチョーキングなので、ピッチのズレが即ハーモニー崩壊の要因となる。特に、7小節目は引き下げチョーキングなので、速さとピッチに注意しよう。



pic : Kohichiro Hiki

Ex-11 大ポジション移動を伴うソロ・エクササイズ

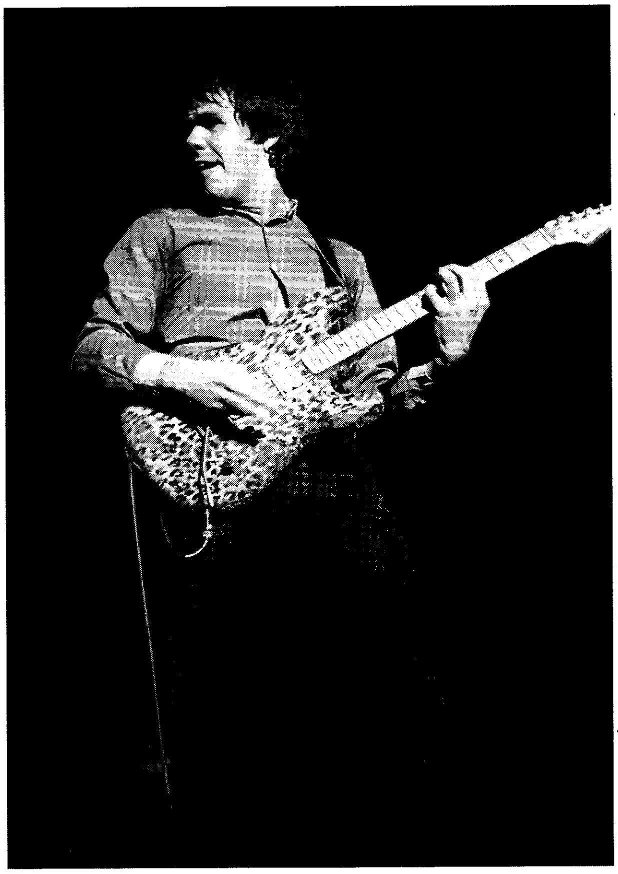
CD Track No.17 ▶ノーマル・テンポ　CD Track No.18 ▶スロー・テンポ



SOLO exercise VIII

CD Track No. 19 / CD Track No. 20

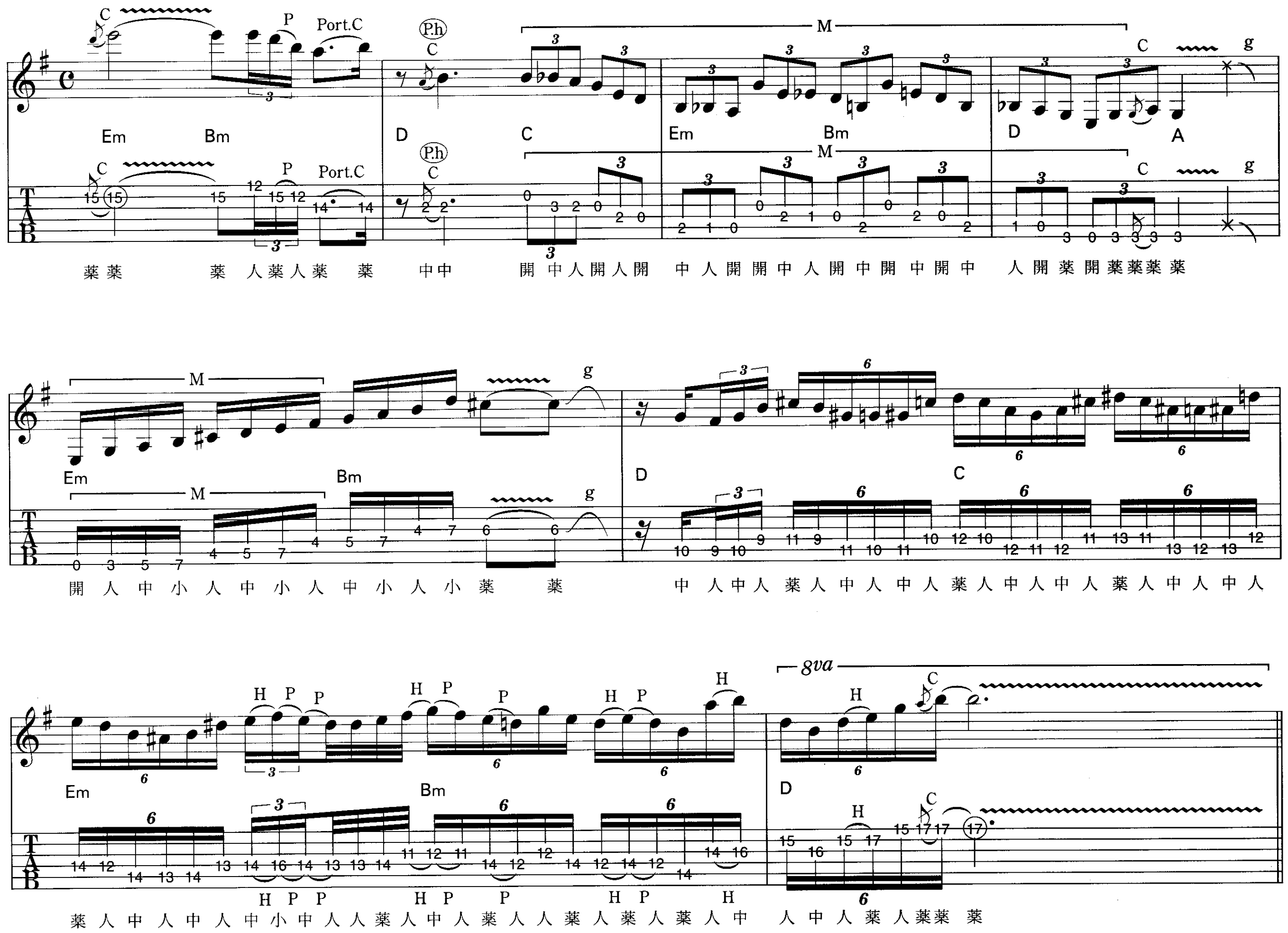
Ex-12の最初のポイントは、2小節目からの3連フレーズ。これをコナすには、まずいかなる時でも3連符を正確に繰り出してキープできるリズム感が必要。その上で♭5th音を含むペンタトニック・スケールをどこからでも始められるフィンガリング・テクニックが身に付いていれば、リズムの乱れもなく弾き切れるはずだ。慣れていない人は、これを機に開放弦を含むEマイナー・ペンタのポジションを憶えてしまおう。6小節目2拍以降は定型シェイプの平行移動パターンなので、2拍目のフレーズを集中練習しよう。7小節目2拍は、6連符に移行する直前に音を叩き込む感じなので、3拍目アタマからきちんと6連にシフトできるように。



pic : Watal Asanuma

Ex-12 リズム・キープが難のソロ・エクササイズ

CD Track No.19▶ノーマル・テンポ　CD Track No.20▶スロー・テンポ



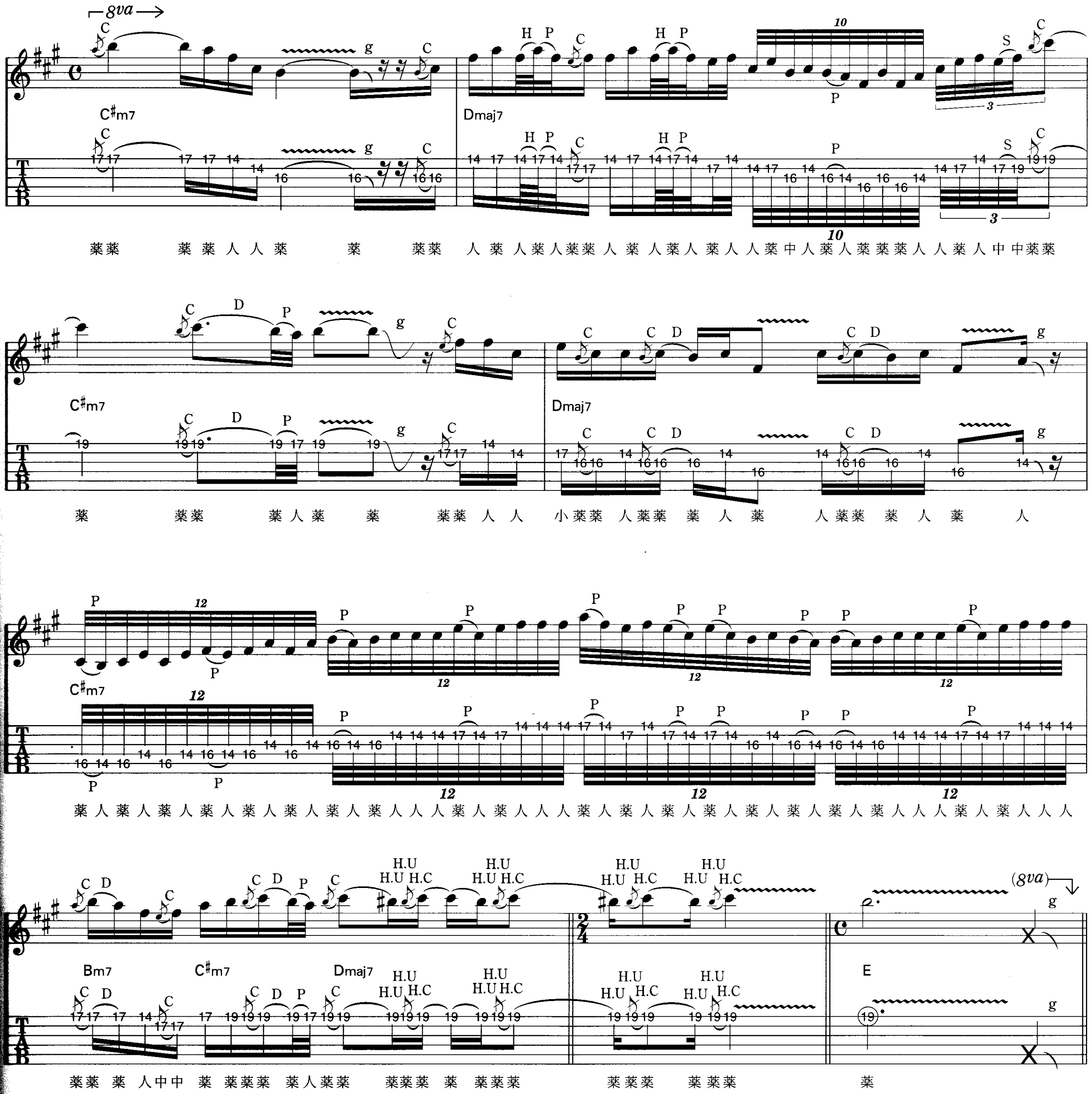
RIFF exercise IX

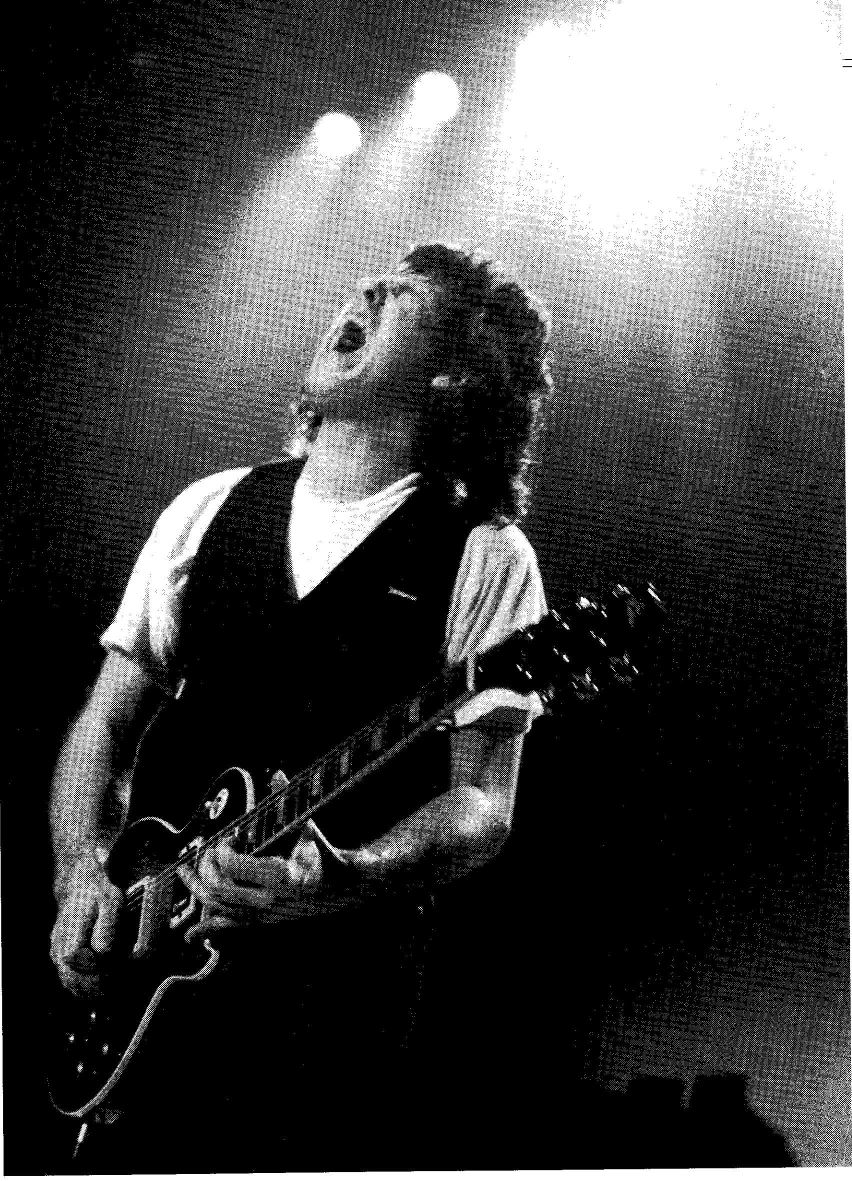
CD Track No. 21 / CD Track No. 22

Ex-13は、2＆5小節目の譜割が難解だが、2小節目1～2拍は、譜面を見る前に音をじっくり聴けば自然にタイミングが掴めるはず。3～4拍目は、4拍目ウラのチョーキングに向かって手癖的なペンタ・フレーズを叩き込んだ感じなので、まず10連フレーズをスロー・テンポで練習して、指に憶えさせてしまおう。5小節目はペンタトニックのオーソドックスな上昇＆下降パターンなので、ベーシック・エクササイズのつもりで完璧にマスターしよう。6小節目3拍からのチョーキング・フレーズは、まず1音チョーキングした後、ダウンして半音アップにし、その状態を保ったままピッキングして半音アップ（計1音）にする…といったプレイだ。

Ex-13 基本ペンタトニック・ポジションを使用したソロ・エクササイズ②

CD Track No.21 ▶ノーマル・テンポ　CD Track No.22 ▶スロー・テンポ





pic : Hiroyuki Yoshihama

Stage 2

CD Track No. 23 ▶ CD Track No. 35

ゲイリー流HRアプローチが学び取れる例題エクササイズ

Stage 2では、ゲイリー流ならではのワイルドでアグレッシヴなギター・スタイルが学び取れる例題音源を挙げて、フレージング・アプローチのサンプルを提示してみた。この例題素材をフル活用し、ゲイリー奏法の完全攻略を目指して欲しい。

Stage 2（Ex-1〜Ex-7）の譜例解説は付録CDのTrack No.23〜35に連動しています。
各自のニーズとレヴェルに合わせて譜面とリンクさせながら活用してください。
※付録CD音源で聴けるEx-1〜4は、6弦のみ1音下げチューニングでプレイしています。

CHORD PROGRESSION

CD Track No. 35

躍動感を感じさせるコード進行には要注目。リハーサル・マークAからCまではほぼDm一発だが、BはDm上で和音を動かしてダイナミックに仕上げている。一転してCはワン・コードらしさに徹して淡々と進む。Dはダイアトニック・コード中心で2小節単位の進行となり、これだけで1段階確実に盛り上がる。Eもコードの使い方はオーソドックスだが、今度は1小節単位のコード進行へとさらにシフト・アップすることで最大の盛り上がりを作っているのだ。ブリッジ部分となるHは、サブドミナントで始まるコード進行で浮遊感を演出。

[A]
| Dm | | | | | | | | ||
└ Ex-1 →

[B]
| Dm | | | | ||
(Ex-1)

[C]
||: Dm | | | | Dm/C | | | | ||
└ Ex-2&Ex-4 →

[D]
| C | | B♭ | | Gm | | A | B♭ C ||
(Ex-2&Ex-4)

𝄋①
[E]
| Dm | F | C | B♭ | Dm | F | (to 𝄌①) B♭ | C ||
└ Ex-3 →

𝄋②
[F]
| Dm | F | C | B♭ | (to 𝄌②) G | A ||

1.
[G]
| Dm | | | :||
(Ex-3)

2.
[H]
| B♭add9 | | Dmadd9 | | B♭add9 | | Dmadd9 | |
| B♭add9 | | Dmadd9 | | F | G | A | ||
└ Ex-5 →

[I]
| Dm | | | | | | | | ||

[J]
| Dm | | | | Dm/C | | | | ||
(Ex-5)

[K]
| C | | B♭ | | Gm | | A | B♭ C ||
└ Ex-6 →

[L]
| Dm | | | | | | | |
| Dm | | | | G | A ||
(Ex-6)
D.S. ①

𝄌 Coda ①
| C | B♭ ||
D.S. ②

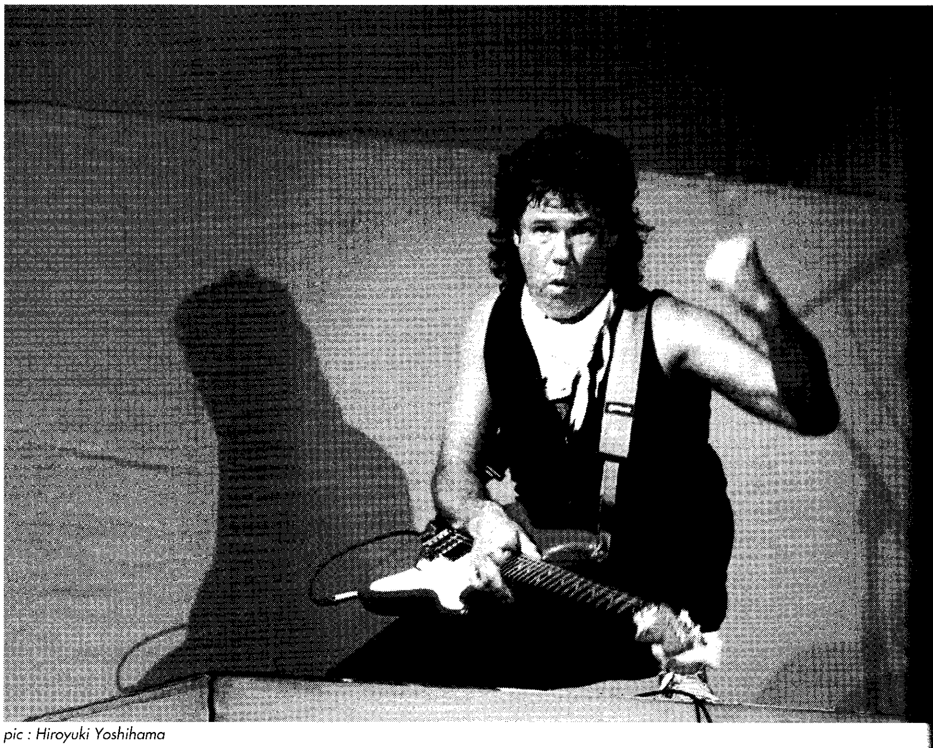
𝄌 Coda ②
| Dm | F | C | B♭ ||
└ Ex-7 →

[M]
| Em11 | | | Dadd9 | | | D ||

RIFF exercise I

CD Track No.23 CD Track No.34 CD Track No.35

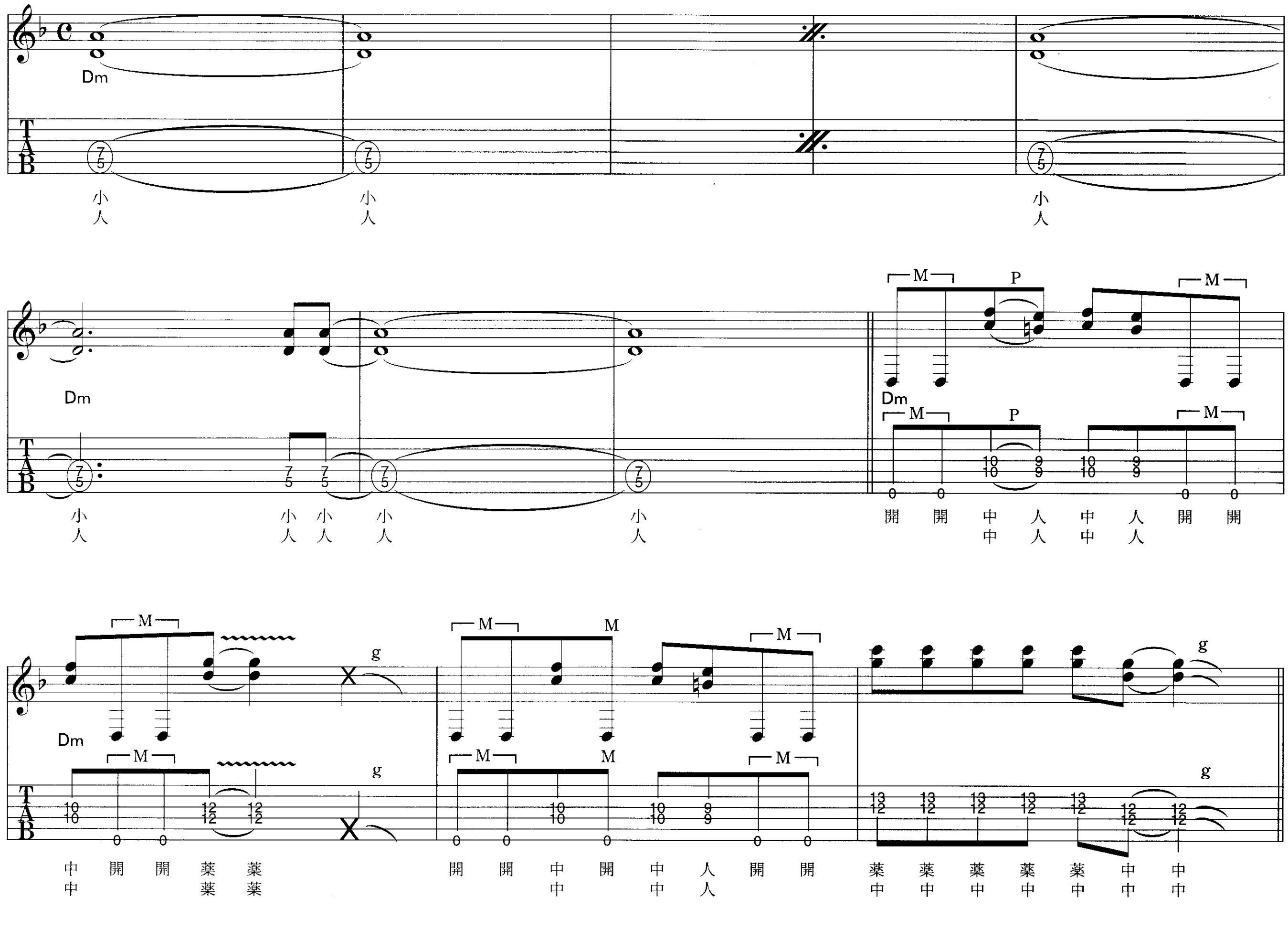
Ex-1前半のシロタマは、Dmというやや高音のコードをパワフルに響かせることが重要。たった2和音のパワー・コードだが、ピッキングの仕方次第でサウンドは大きく変化するので、最も太いサウンドになるピッキング・フォーム＝ピックと弦が平行なフラット・アングルで、力強くピッキングする（力んでしまうと弦がしなって逆効果）。また、リズム隊と完全に一体となることも重要だ。9小節目からは、やはりルートをパワフルに響かせることが大切だが、ここはやや順アングルに切り替えて、アタック音にエッジを加えると良い。



pic : Hiroyuki Yoshihama

Ex-1 ［6弦＝D］のダウン・チューニングによるリフ・エクササイズ

CD Track No.23▶ノーマル・テンポ　CD Track No.34▶オール・パート（Ex-1～Ex-7）のギター・マイナス・カラオケ（スロー・テンポ）
CD Track No.35▶オール・パート（Ex-1～Ex-7）のギター・マイナス・カラオケ（ノーマル・テンポ）



BACKING exercise I

CD Track No. 24　CD Track No. 34　CD Track No. 35

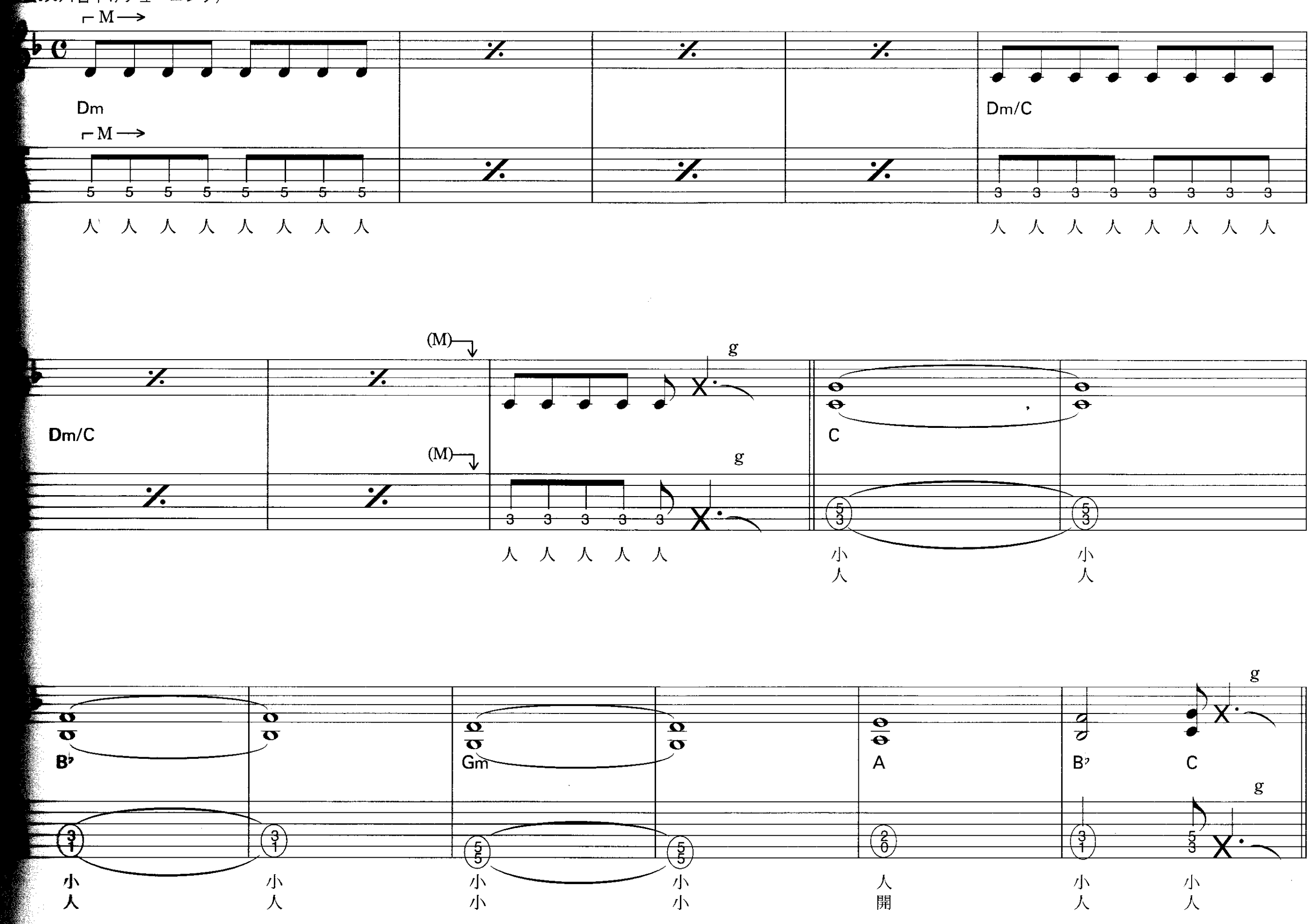
バッキング・エクササイズEx-2は、ごくシンプルなルートの連打だが、高い完成度でプレイするのは意外なほど難しい。まずはリズム。ベースとユニゾンになるフレーズなので、ベーシストとともに完全なジャストを8小節間キープする。フレーズが単調なだけに、わずかな突っ込み／モタリも許されない。ブリッジ・ミュートを深めに掛けつつ、パワフルかつ均一なサウンドで［8音×7小節＝56音］を弾き切ることが重要。すべてダウンでパワフルに、しかし軽々とピッキングするのだ。順アングルで「ゾリッ」という摩擦音を適度に含ませよう。

pic : Kohichiro Hiki

Ex-2 単音ミュート使用のバッキング・エクササイズ

CD Track No.24▶ノーマル・テンポ　CD Track No.34▶オール・パート（Ex-1〜Ex-7）のギター・マイナス・カラオケ（スロー・テンポ）
CD Track No.35▶オール・パート（Ex-1〜Ex-7）のギター・マイナス・カラオケ（ノーマル・テンポ）

（6弦のみ1音下げチューニング）



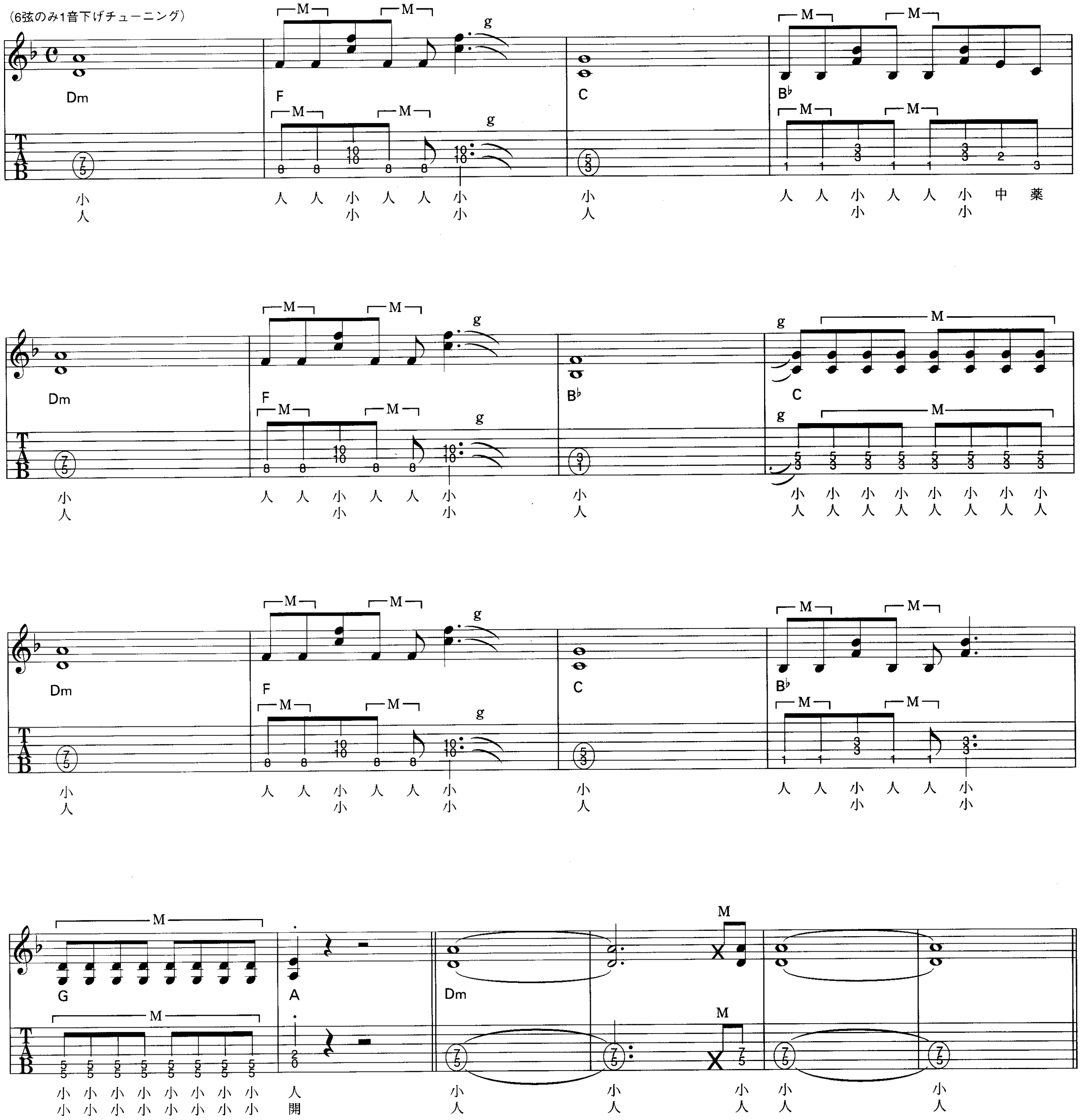
BACKING exercise II

CD Track No. 25　CD Track No. 34　CD Track No. 35

Ex-3は、ハード・ロックに頻出のベーシックなバッキング・エクササイズ。このフレーズはハイ・フレットとロー・フレットを行き来するのがポイントで、現代的なヘヴィ・ロックの観点では、コードFは6弦1fルートにポジション移動しがちなのだが、あえて高い5弦8fポジションでプレイすることによりアクセントを付けている。アクセントやメリハリという点では、1、3小節目のようなシロタマ部分や、ブリッジ・ミュートも重要。シロタマはできるだけ音を伸ばし、ブリッジ・ミュートはEx-2同様深めに掛けてプレイしよう。

Ex-3 ハード・ロックの手本的バッキング・エクササイズ

CD Track No.25▶ノーマル・テンポ　CD Track No.34▶オール・パート（Ex-1〜Ex-7）のギター・マイナス・カラオケ（スロー・テンポ）
CD Track No.35▶オール・パート（Ex-1〜Ex-7）のギター・マイナス・カラオケ（ノーマル・テンポ）

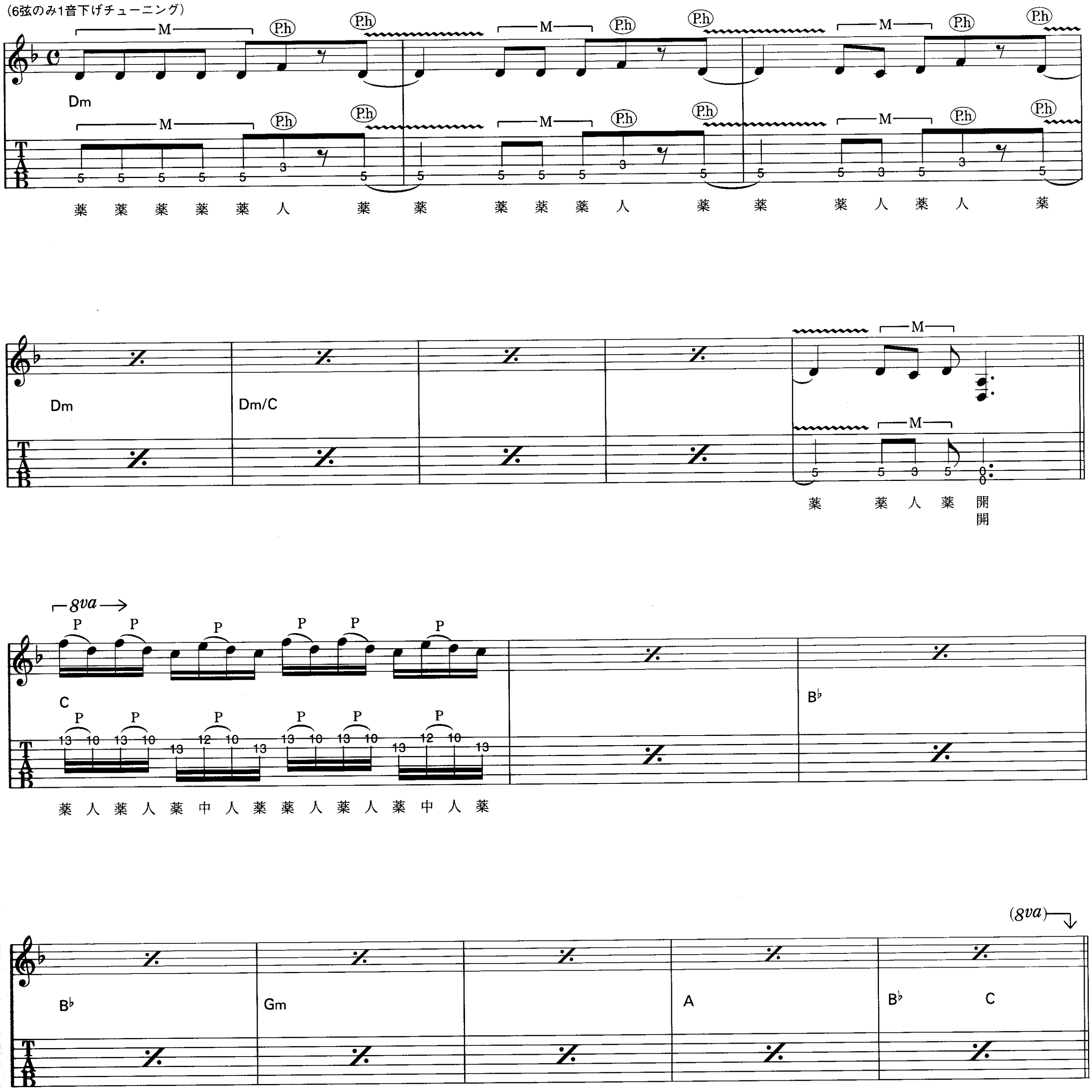


BACKING exercise III

CD Track No. 26　CD Track No. 34　CD Track No. 35

Ex-4は、Ex-2と同じ場面でのバッキング・エクササイズだが、フレーズに変化を持たせているのが胆。前半はピッキング・ハーモニクスを連発するが、あくまでバッキングなので、すべてのハーモニクスを均一にすることが大切。ピッキング・ポジションとフォームのキープ力を養おう。後半は、シンセサイザー&シーケンサーが担当するようなシーケンス・フレーズ。従って、これも2拍単位のフレーズを一糸乱れぬサウンドでメカニカルに弾き切らなければならない。そのためにも、自分なりのピッキング・パターンを決めてから取り組もう。

Ex-4　ピッキング・ハーモニクスが鍵を握るバッキング・エクササイズ

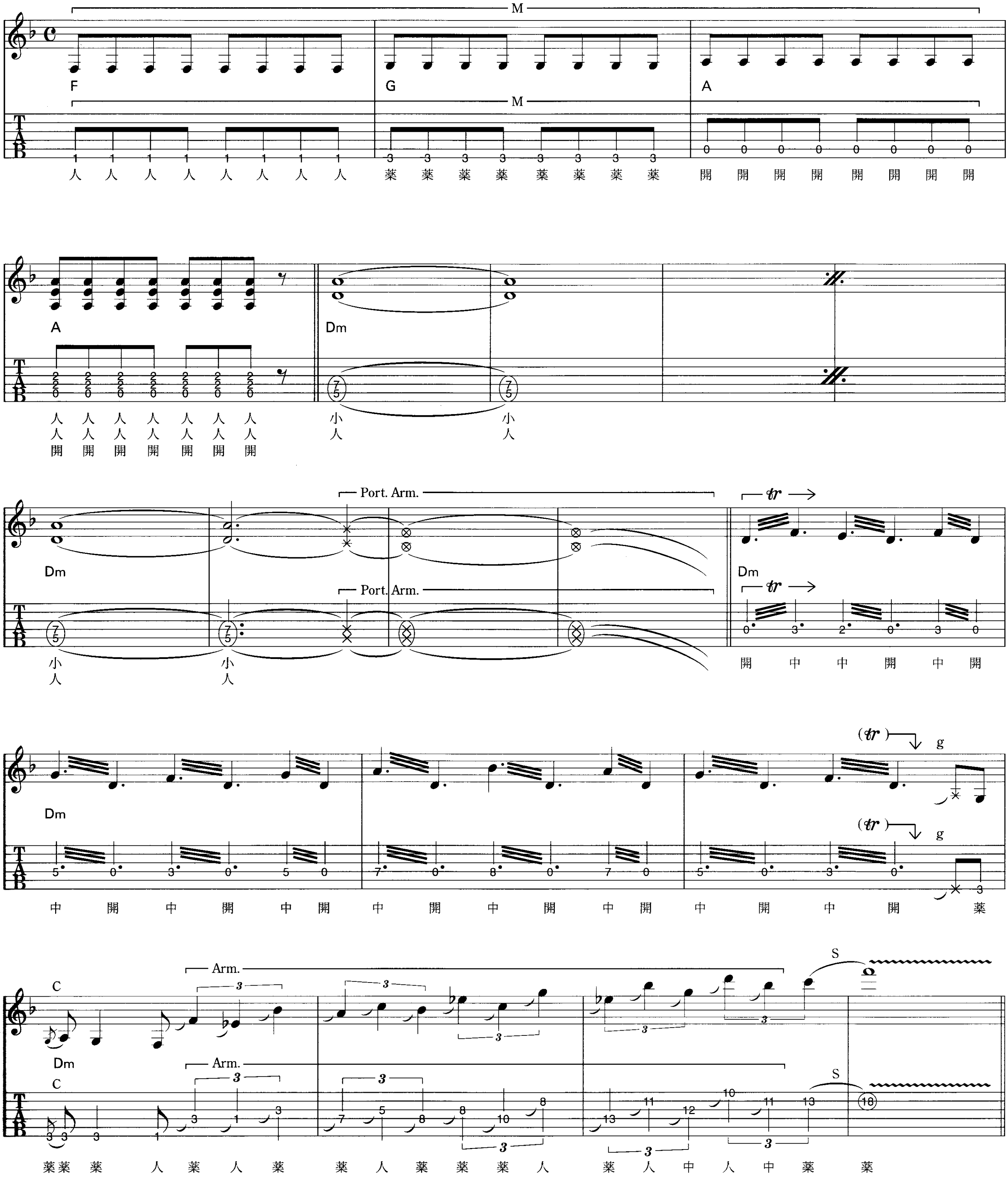
CD Track No.26▶ノーマル・テンポ　CD Track No.34▶オール・パート (Ex-1～Ex-7) のギター・マイナス・カラオケ (スロー・テンポ)
CD Track No.35▶オール・パート (Ex-1～Ex-7) のギター・マイナス・カラオケ (ノーマル・テンポ)

SOLO exercise I

CD Track No. 27 / CD Track No. 28 / CD Track No. 32 / CD Track No. 33

Ex-5は、[高速連続トリル→アームによるトリッキー技]という流れのソロ・エクササイズ。ソロ前半は、開放トリルの中で大きなメロディーをプレイするという意識で望みたい。トリルを超高速に行なってソロとしての聴き応えを出しつつ、リズムに注意してメロディーの動きもはっきりと表現しよう。後半のアーム連発フレーズは、各音ともアーム・ダウン状態でピッキングし、その直後にアームをリターンする。瞬時に、しかも完全にリターンし切らないとメロディーが音痴になってしまうので要注意だ。2拍3連すべてを均等な間隔にすることも重要で、そのためには身体で常に4分音符を刻みながら、2拍3連を連発する練習が欠かせない。

Ex-5 トリル&アーミングを駆使したソロ・エクササイズ

CD Track No.27▶ノーマル・テンポ　CD Track No.28▶スロー・テンポ（13小節目以降）　CD Track No.32▶ソロ・パート（Ex-5～Ex-6）のギター・マイナス・カラオケ（スロー・テンポ）
CD Track No.33▶ソロ・パート（Ex-5～Ex-6）のギター・マイナス・カラオケ（ノーマル・テンポ）



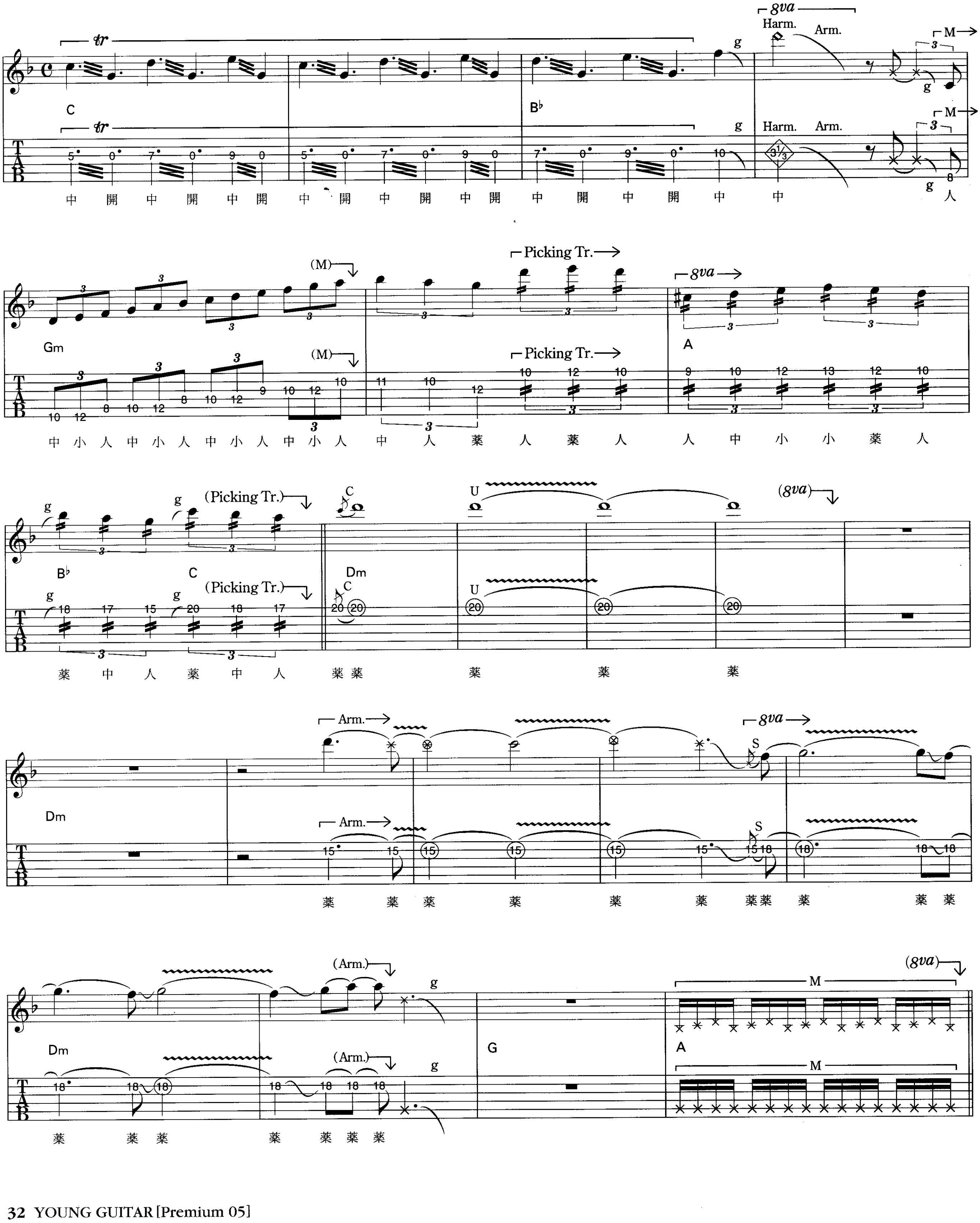
pic : Kohichiro Hiki

SOLO exercise II

CD Track No. 29　CD Track No. 30　CD Track No. 32　CD Track No. 33

ソロ・エクササイズ**Ex-6**はEx-5に続くもので、最初の3小節はEx-5でプレイしたフレーズをモチーフとして展開した形。こういったモチーフの展開はソロを強く印象付ける効果があり、フレーズを高い音域に移動することによってソロをダイナミックに盛り上げることもできるのだ。5小節目は単なるDマイナー・スケールの上昇フレーズだが、前後の速弾きフレーズを結び付けるという目的を持っており、3連のリズムにすることによってインパクトを強くしている。6～8小節目のピッキング・トリルを含む2拍3連も、Ex-5のフレーズを強く意識したもの。1弦上のポジションを把握して、正確かつスピーディーにキメられるように。

Ex-6 右手&左手の持久力が要のソロ・エクササイズ

CD Track No.29▶ノーマル・テンポ　CD Track No.30▶スロー・テンポ（1～12小節）　CD Track No.32▶ソロ・パート（Ex-5～Ex-6）のギター・マイナス・カラオケ（スロー・テンポ）
CD Track No.33▶ソロ・パート（Ex-5～Ex-6）のギター・マイナス・カラオケ（ノーマル・テンポ）

BACKING exercise IV

CD Track No. 31　CD Track No. 34　CD Track No. 35

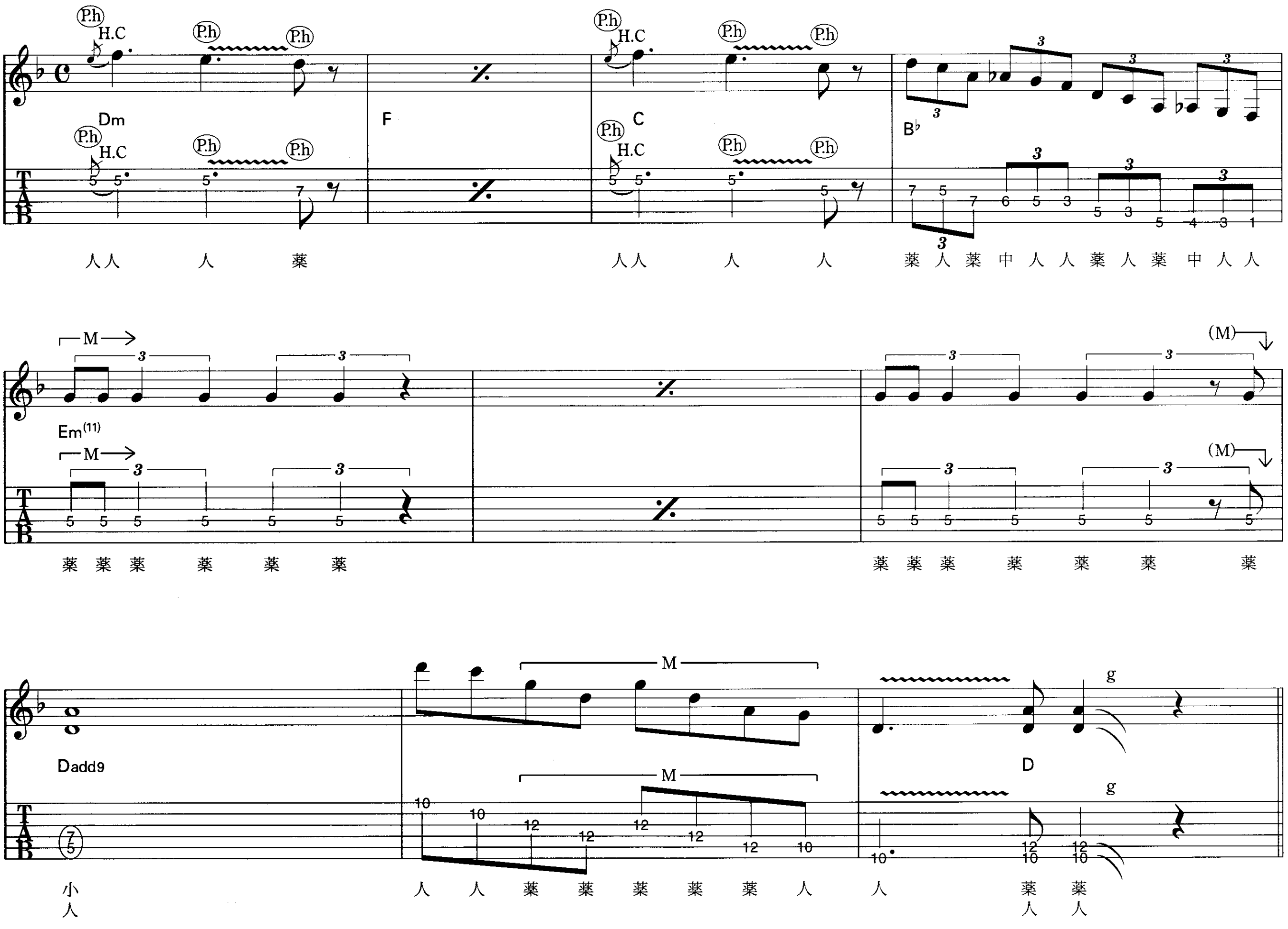
pic : Kohichiro Hiki

Ex-7は、いわゆるアウトロに相当するフレーズ。ピッキング・ハーモニクスは、できるだけ強く、高い音程を確実に出せるポイントを探しておきたい。4小節目のDマイナー・ペンタ＋♭5th音による3連下降フレーズも、ピッキング・ハーモニクス気味のピッキングでブライトな音色になるようプレイ。ここでは人差指移動が要となり、2拍単位でオクターヴ移動しているので、リックの1つとして憶えてしまうのが得策だ。

5小節目からはエンディングの大キメで、2拍3連のリズムの中に、常に1拍3連が感じられれば問題なく合わせられるだろう。

Ex-7 典型的なハード・ロック手法によるバッキング・エクササイズ

CD Track No.31►ノーマル・テンポ　CD Track No.34►オール・パート (Ex-1〜Ex-7) のギター・マイナス・カラオケ (スロー・テンポ)
CD Track No.35►オール・パート (Ex-1〜Ex-7) のギター・マイナス・カラオケ (ノーマル・テンポ)

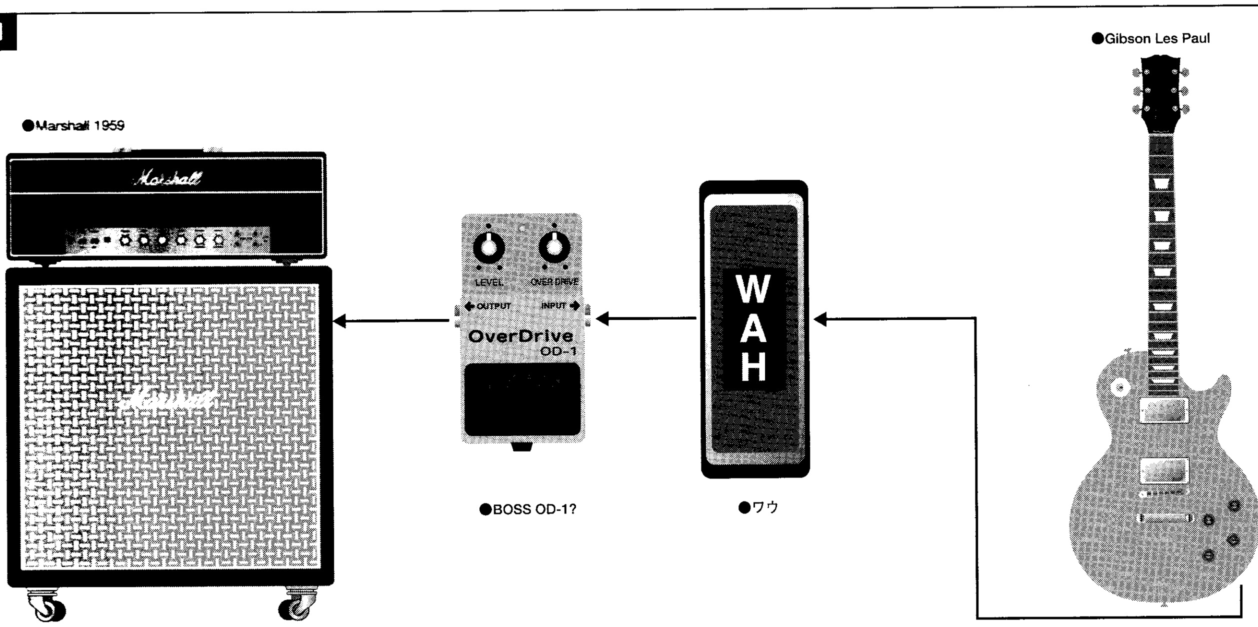


ゲイリー・ムーア本人のサウンド・メイク分析（図1）

ソロ前半部分のディレイは約1拍遅れが目安

ハムバッカーP.U.のサウンドでアームを使っていないことから、レスポールでプレイされたものと思われる。アンプはスタック風のボトムを持っているので恐らくマーシャルだが、バッキングでもオーヴァードライヴなどの歪み系エフェクターを併用しているようだ。しかし、イントロのシーケンス・フレーズや間奏の前半（ワウ）ではアンプ本体の歪みが強く感じられる。バッキングはトレブルを絞り気味にした中域の強いサウンドで、センターのパートと、20ms程度のショート・ディレイ（ダブリング）でステレオにしたパートの2本をダビング。イントロのリードにも40ms程度のショート・ディレイを掛けている。ソロ前半のディレイは約1拍遅れでステレオに。後半のツイン・リードはワウのペダルを固定したミッド・ブースト・サウンドだ。

図1



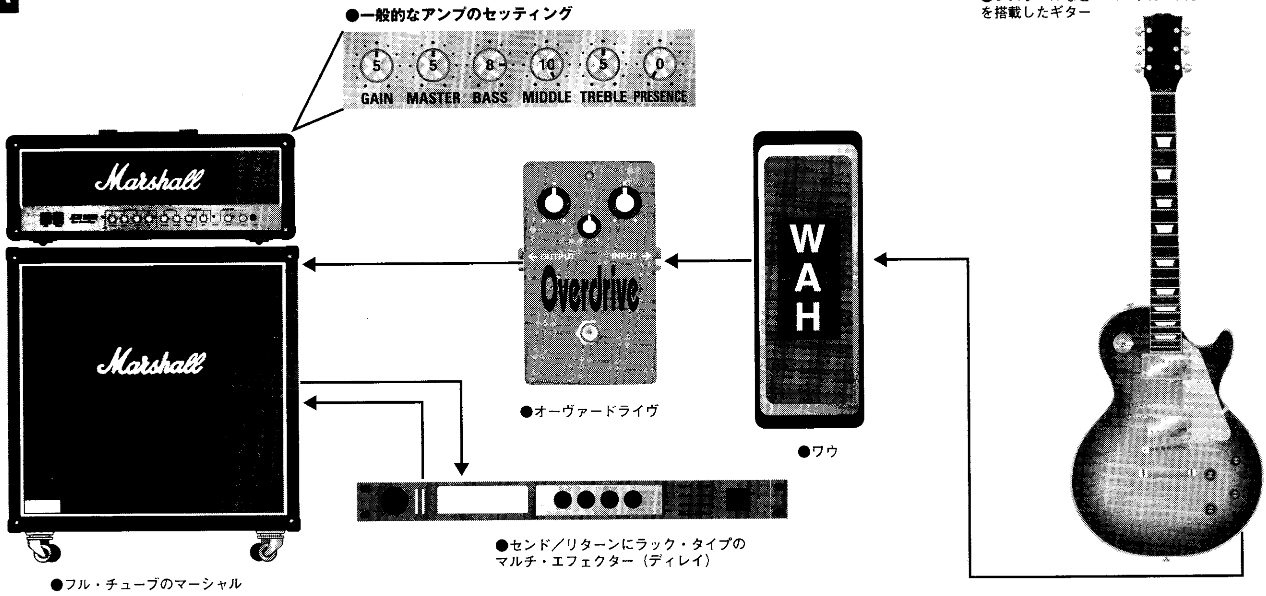
●BOSS OD-1?
●ワウ

サウンド・メイク・シミュレーション（図A）

音色プリセッターとして歪みペダルを活用

ハムバッカーP.U.を搭載したギターとスタック・タイプのマーシャルがあれば、近いサウンドを作れそうだ。歪み系エフェクターは歪みを加えると言うより、オン／オフによってトーンを変化させる目的で使う。つまり、アンプはイントロや間奏のリード・サウンド用に比較的フラットなセッティングにしておき、歪み系エフェクターのトーンを絞り気味にすることによってバッキングのミドルっぽいサウンドを作るわけだ。ディレイは間奏のロング・ディレイだけで充分だろう。アンプをディストーション・セッティングにするので、ラック・タイプのマルチなどライン入力対応の機種をアンプのセンド／リターンに接続するのが基本となるが、アンプをクランチ程度に止めてエフェクターの歪みを活かせば、アンプ前段にコンパクトを接続することもできる。

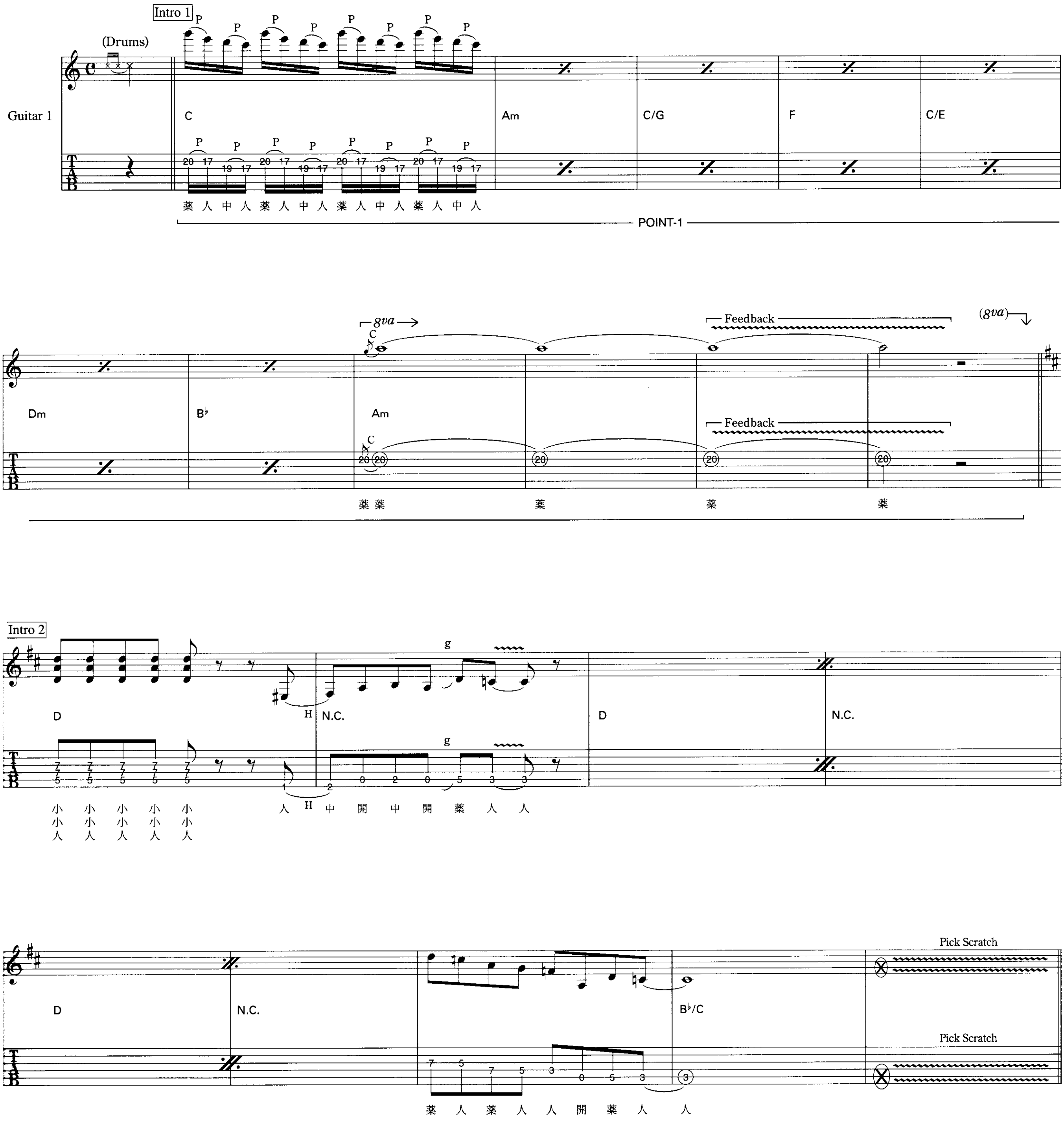
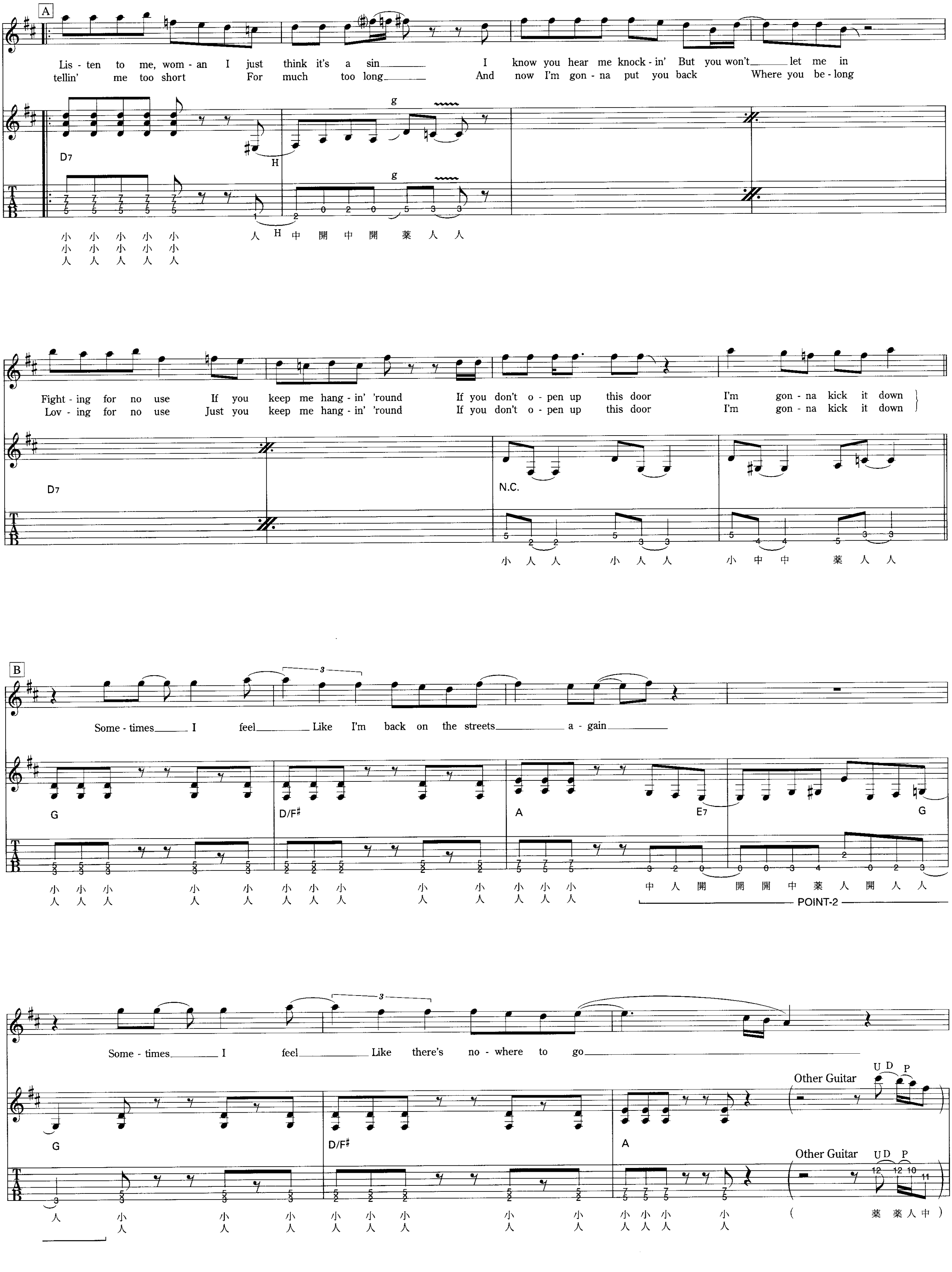
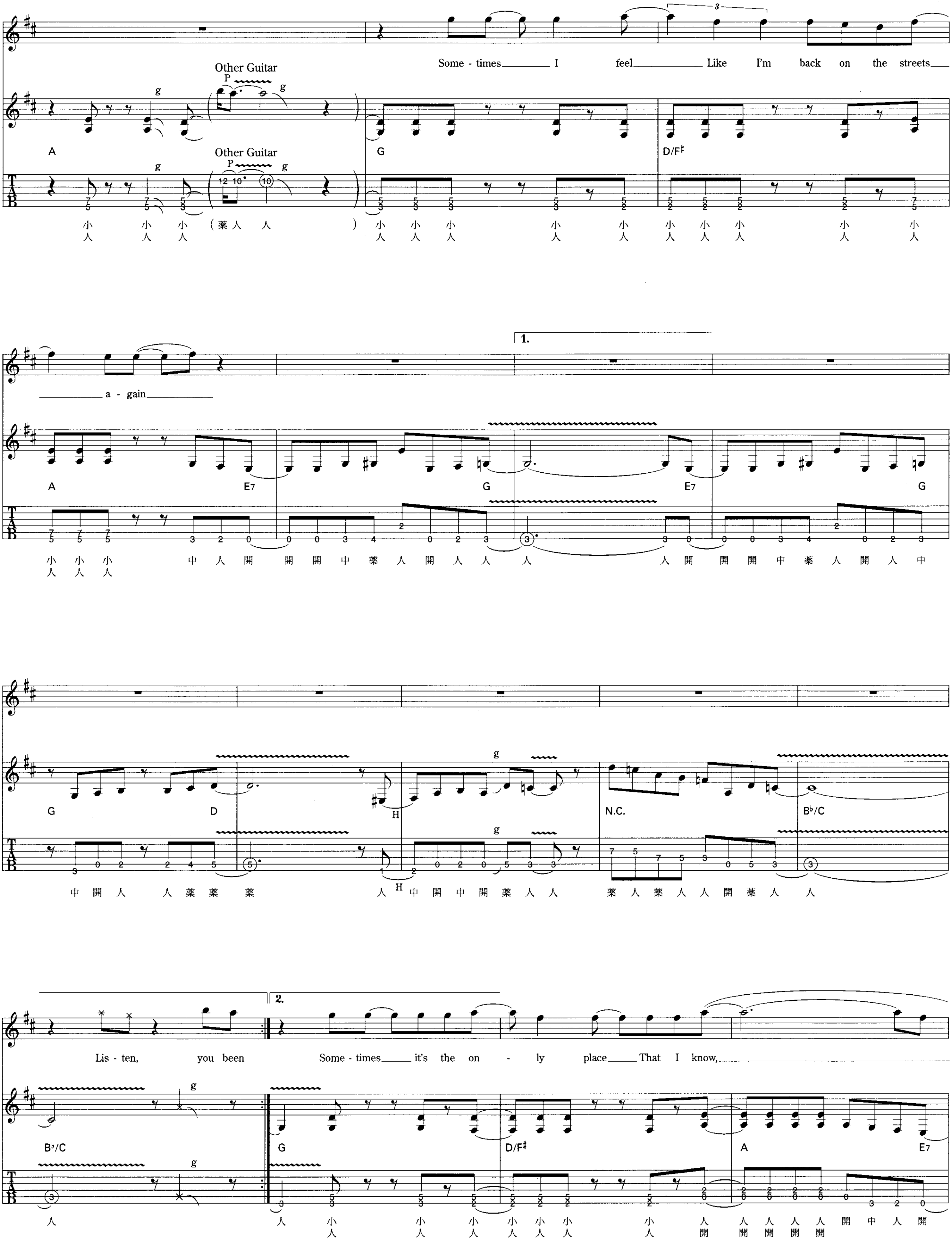
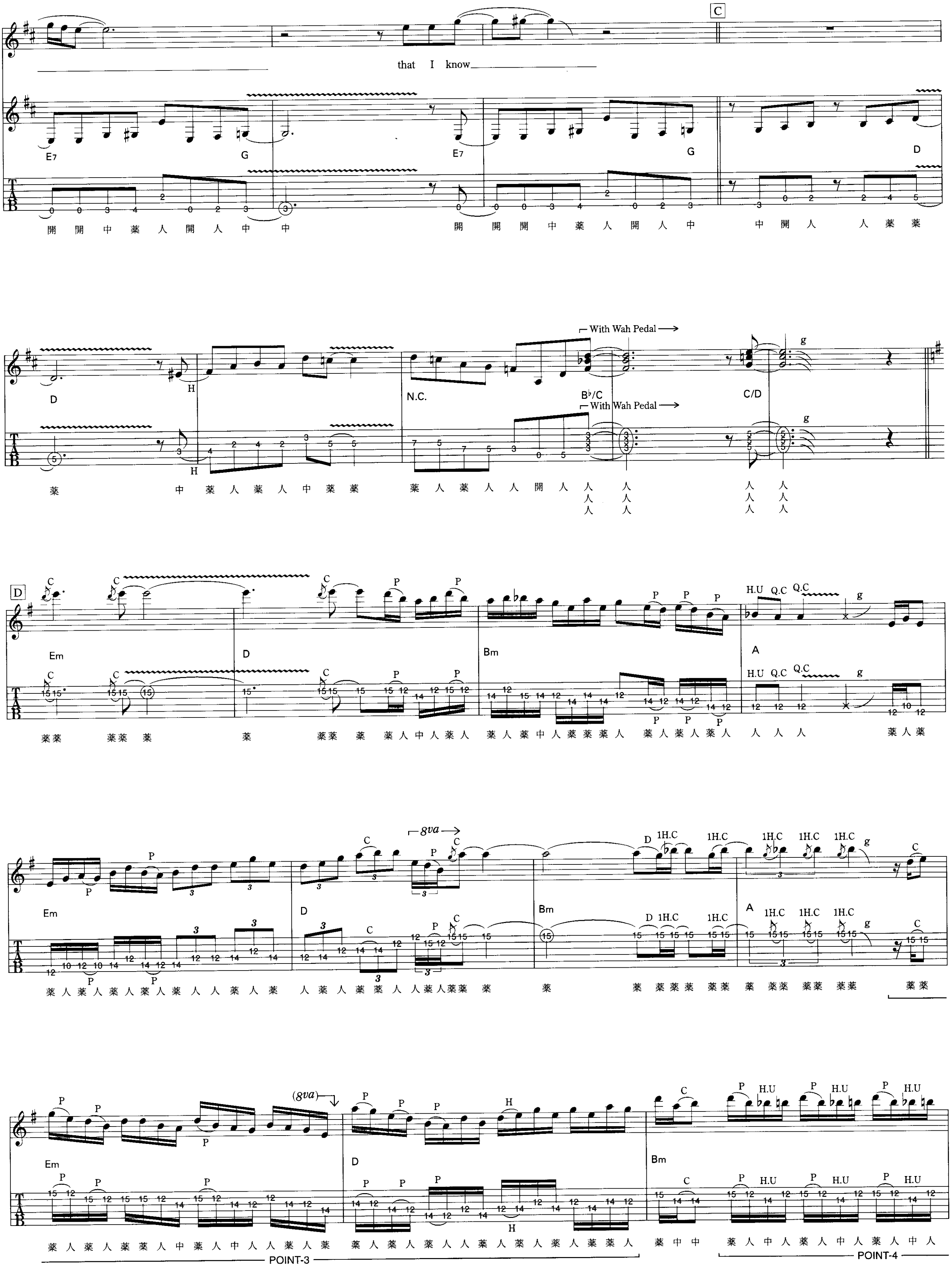
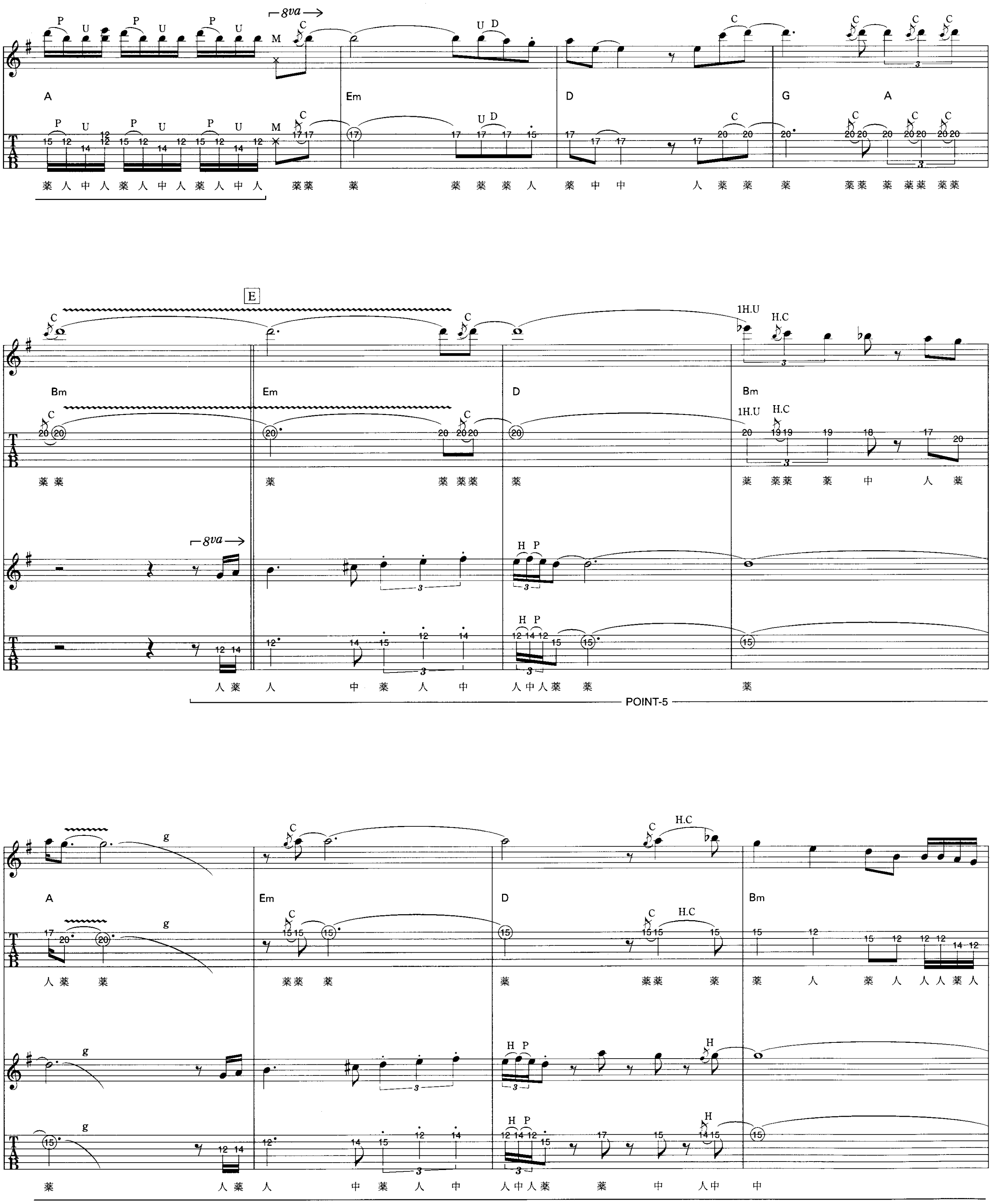
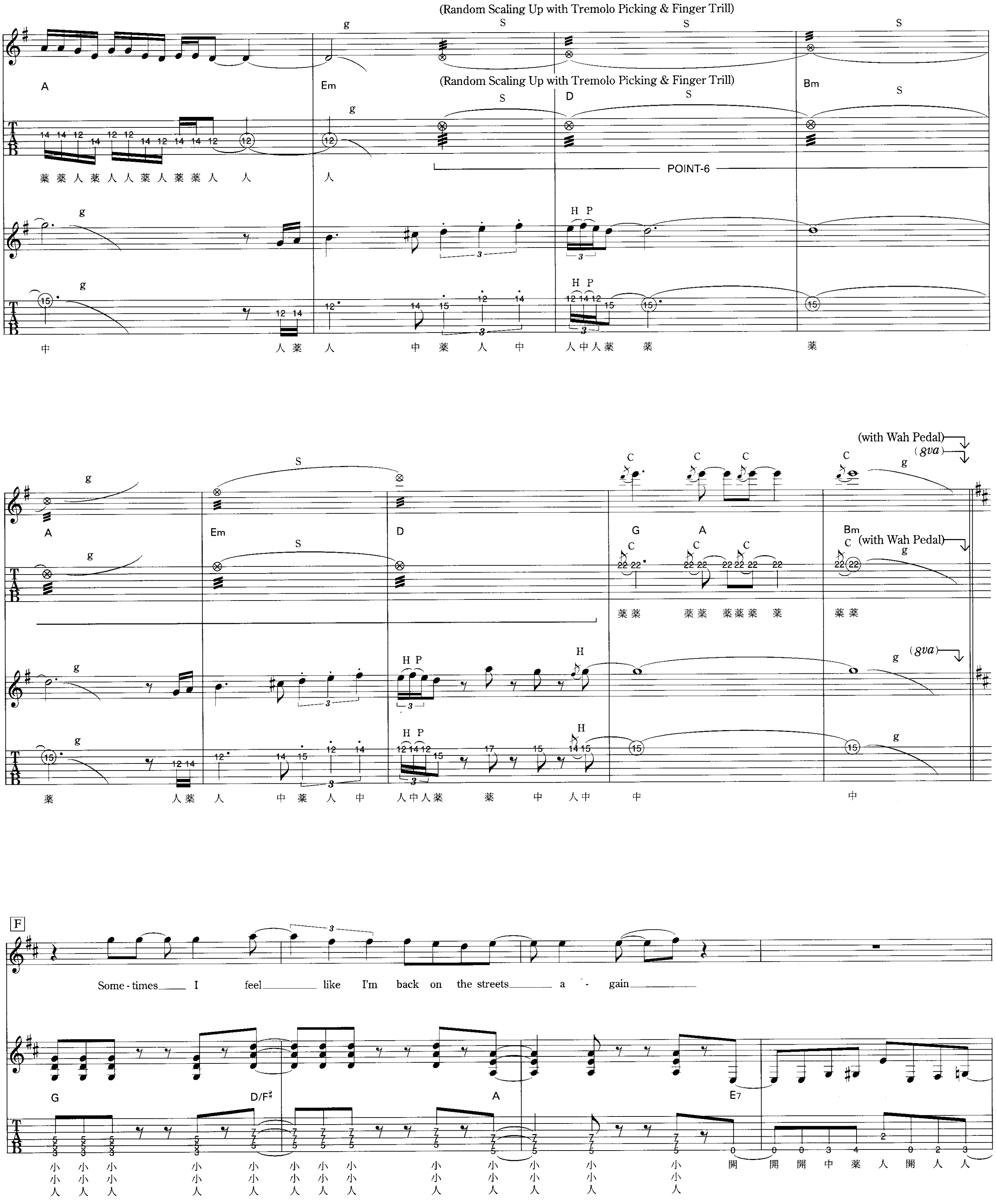
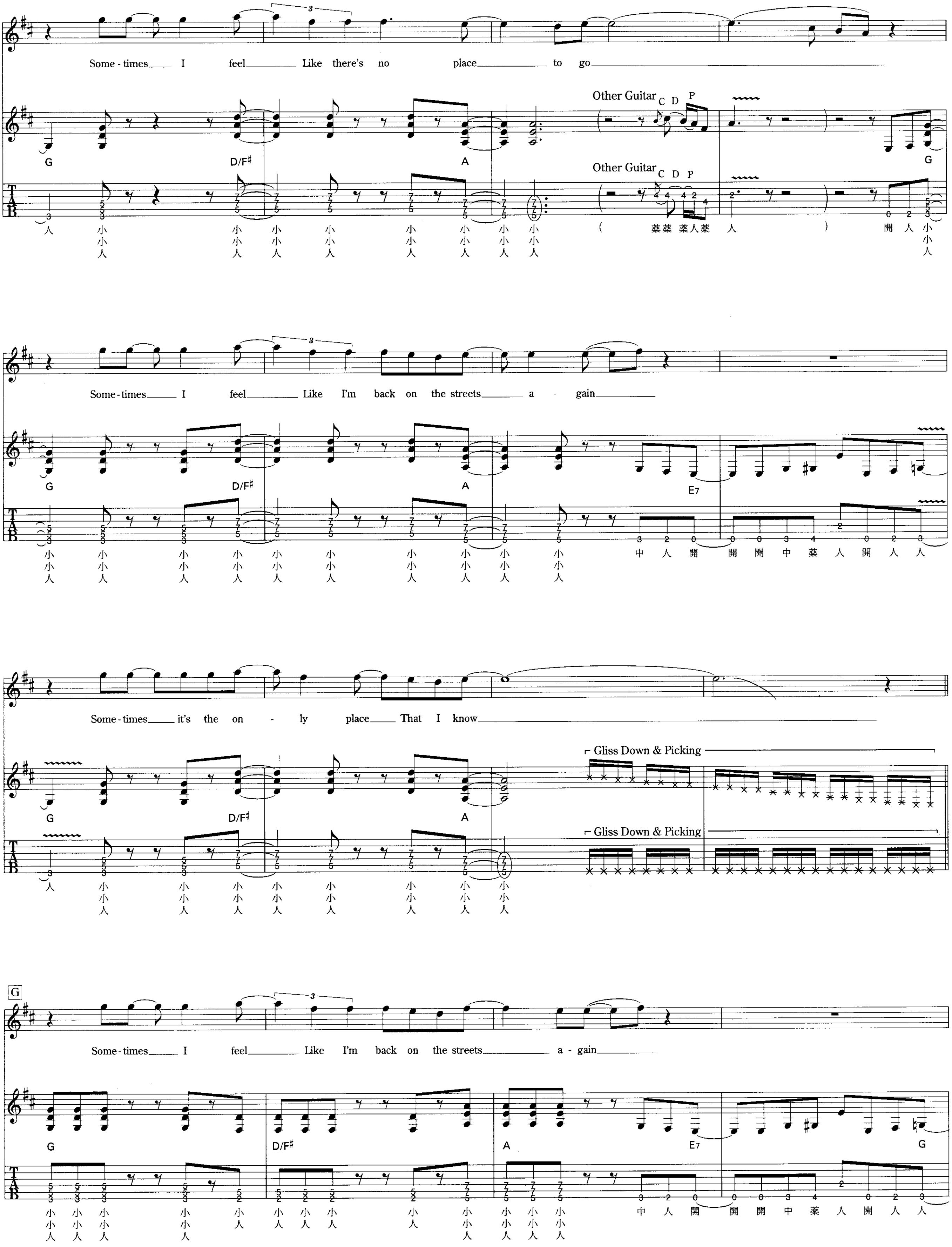
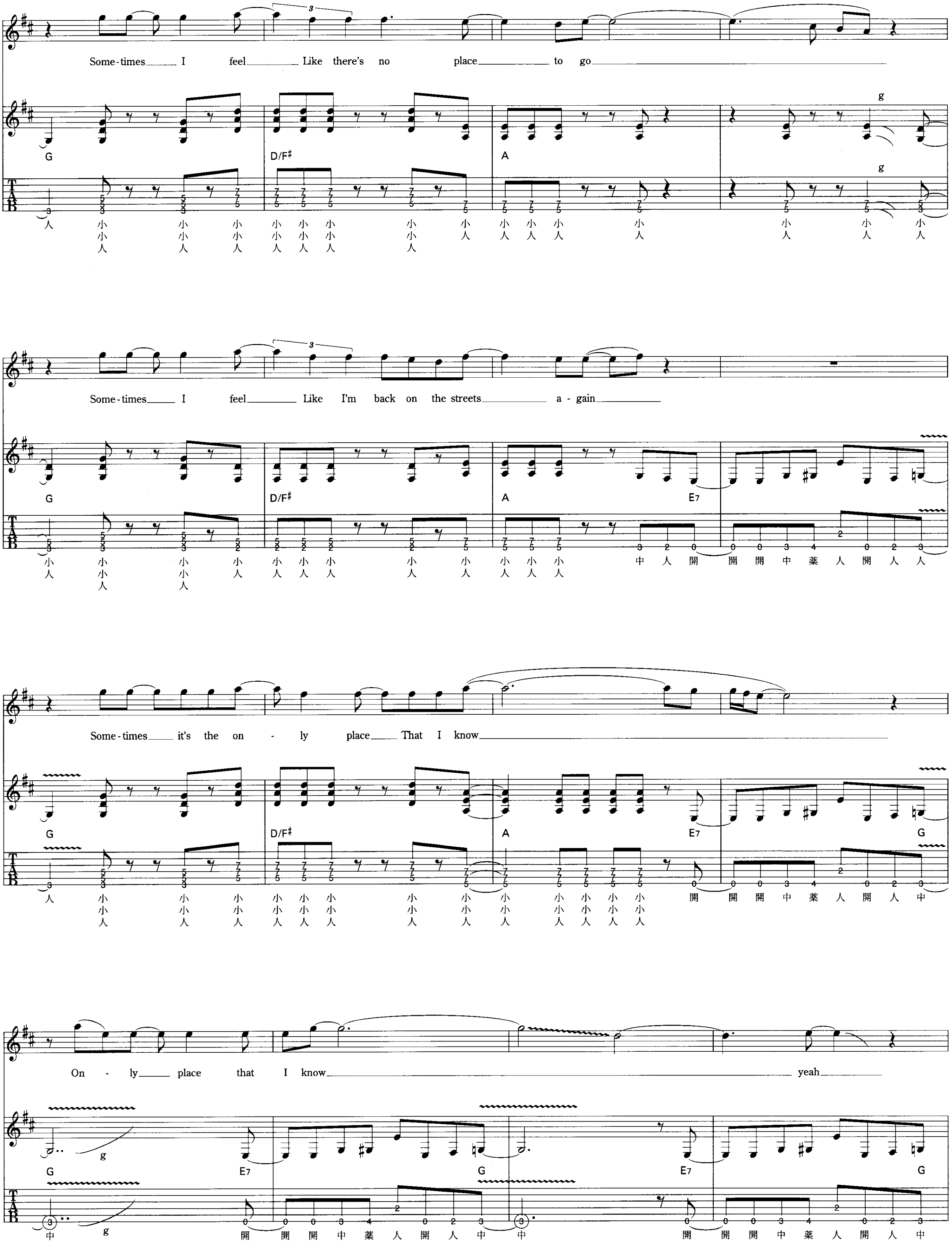
図A

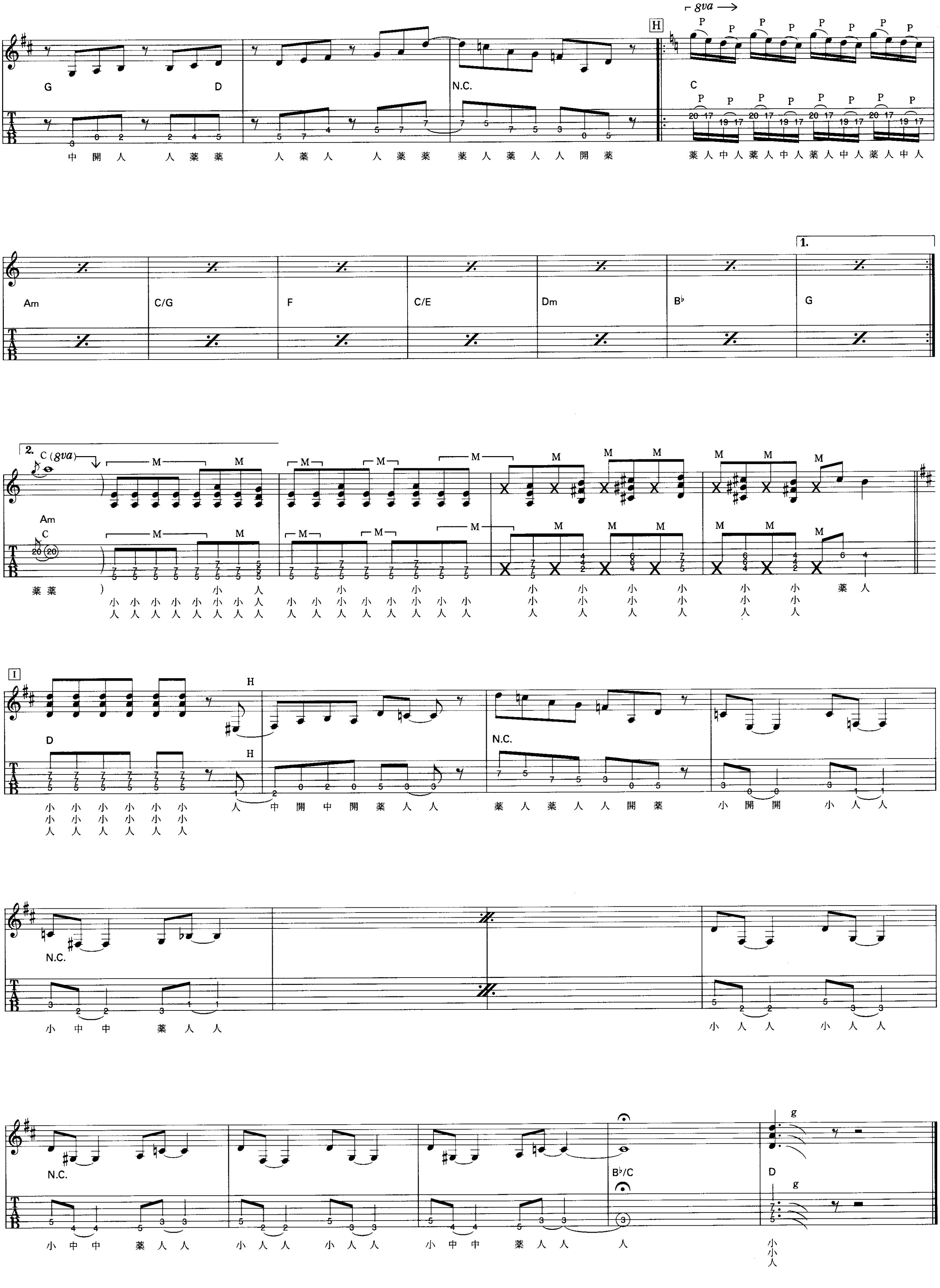


●オーヴァードライヴ
●ワウ
●センド／リターンにラック・タイプのマルチ・エフェクター（ディレイ）
●フル・チューブのマーシャル

Back On The Streets

by Gary Moore

©Maxwood Music Ltd. Rights for Japan assigned to Watanabe Music Publishing Co., Ltd.

A
Lis - ten to me, wom - an I just think it's a sin I know you hear me knock - in' But you won't let me in
tellin' me too short For much too long And now I'm gon - na put you back Where you be - long
D7
Fight - ing for no use If you keep me hang - in' 'round If you don't o - pen up this door I'm gon - na kick it down
Lov - ing for no use Just you keep me hang - in' 'round If you don't o - pen up this door I'm gon - na kick it down
D7
N.C.
B
Some - times I feel Like I'm back on the streets a - gain
G
D/F♯
A
E7
G
POINT-2
Some - times I feel Like there's no - where to go
G
D/F♯
A
Other Guitar

Some - times I feel Like I'm back on the streets
Other Guitar
Other Guitar
A G D/F♯
a - gain
1.
A E7 G E7 G
G D N.C. B♭/C
Lis - ten, you been
2.
Some - times it's the on - ly place That I know,
B♭/C G D/F♯ A E7

C
that I know
E7
G
E7
G
D
D
H
N.C.
With Wah Pedal
B♭/C
C/D
D
Em
D
Bm
A
Em
D
Bm
A
Em
D
Bm
POINT-3
POINT-4

8va
A
Em
D
G
A
E
Bm
Em
D
Bm
8va
POINT-5
A
Em
D
Bm

(Random Scaling Up with Tremolo Picking & Finger Trill)
A
Em
D
Bm
POINT-6
(with Wah Pedal)
(8va)
G
A
F
Sometimes I feel like I'm back on the streets a - gain
G
D/F♯
A
E7

Some-times I feel Like there's no place to go
Other Guitar
G
D/F♯
A
Some-times I feel Like I'm back on the streets a - gain
E7
Some-times it's the on - ly place That I know
Gliss Down & Picking
G
Some-times I feel Like I'm back on the streets a - gain

Some-times I feel Like there's no place to go
G D/F♯ A
Some-times I feel Like I'm back on the streets a-gain
G D/F♯ A E7
Some-times it's the on - ly place That I know
G D/F♯ A E7 G
On - ly place that I know yeah
G E7 G E7 G

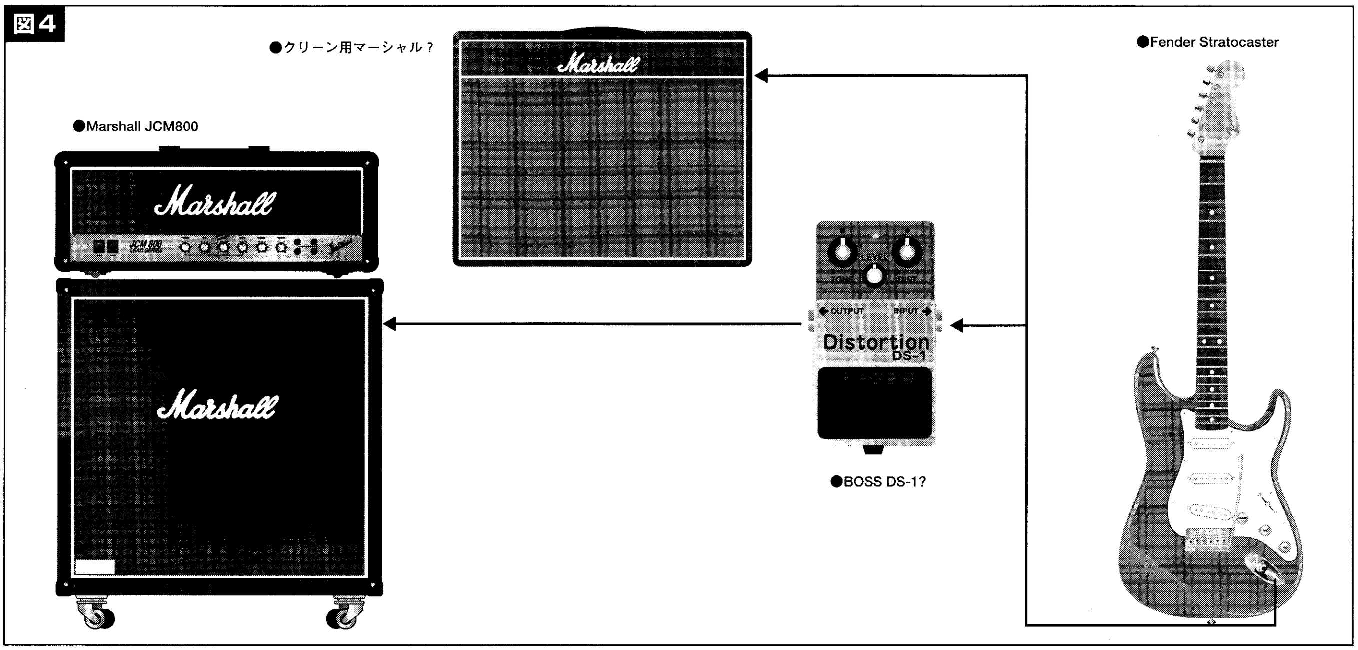

8va
H
G
D
N.C.
C
1.
Am
C/G
F
C/E
Dm
B♭
G
2.
C (8va)
Am
C
I
D
N.C.
B♭/C
D

ゲイリー・ムーア本人のサウンド・メイク分析（図4）

ヴォリューム操作による多彩な音色変化に注目！

ギターはストラトキャスターではないかと思われる。アンプは恐らくマーシャルJCM800で、BOSS製DS-1等のディストーションで歪みを加えているようだ。左側のリードは曲全体に同じセッティングで、完全なクリーン・サウンドではディストーションをオフにしているが、それ以外はギター・ヴォリュームを駆使してクランチからリードのハイ・ゲイン・サウンドまで多彩に変化させている。付点8分と2拍3連の中間程度の長さのディレイを掛け、ディレイ音はセンターに定位。中間部のクリーン・サウンドはアンプそのものかセッティングを大きく変えており、フロントとセンターP.U.のハーフトーンでプレイしているのだろう。コンプレッサーを深めに掛け（恐らくマイク側で）、1.8秒程度のホール・リヴァーブをあっさりと加えている。

図4

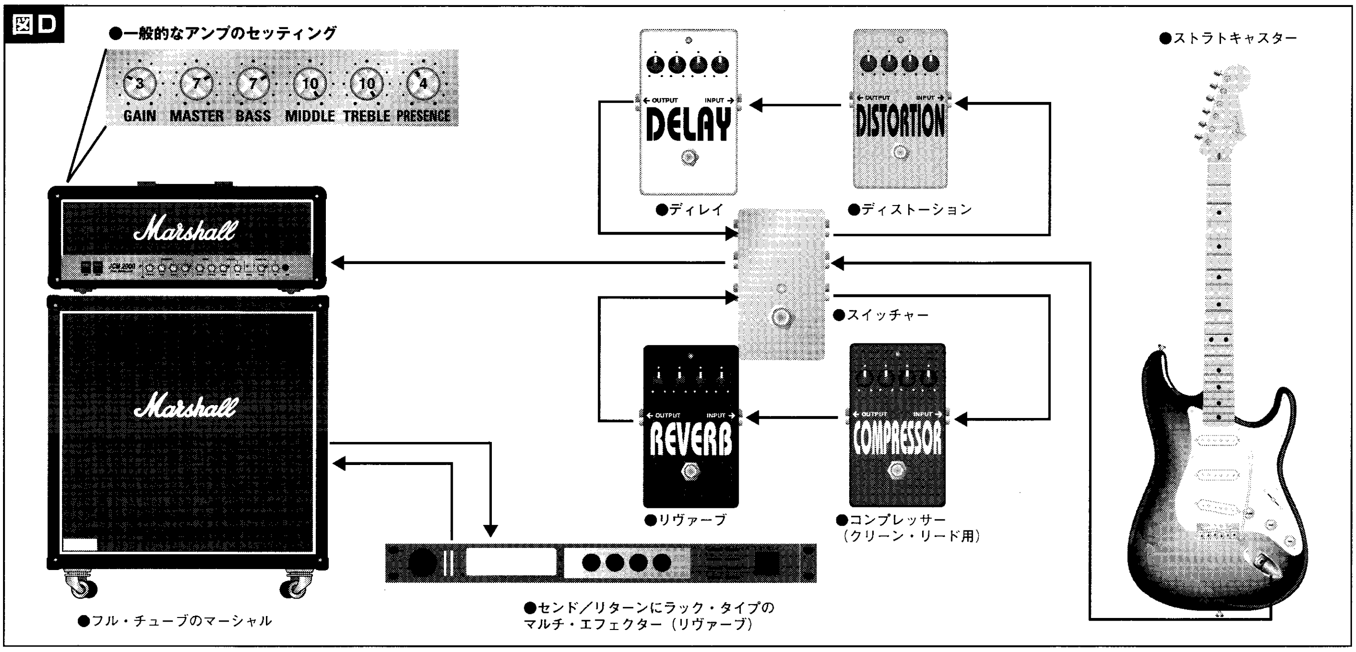


サウンド・メイク・シミュレーション（図D）

ストラト＋マーシャルの組み合わせが基本

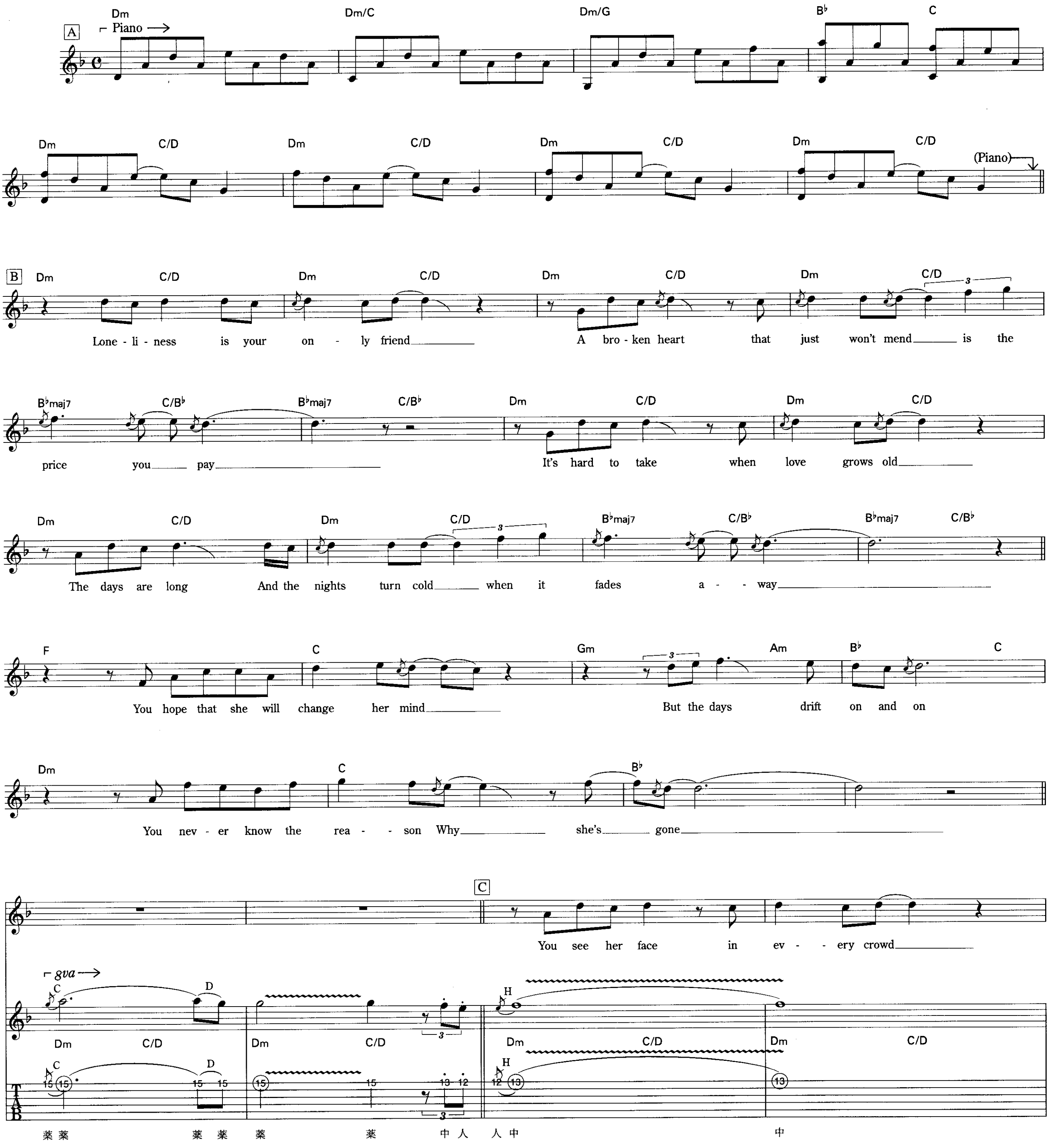
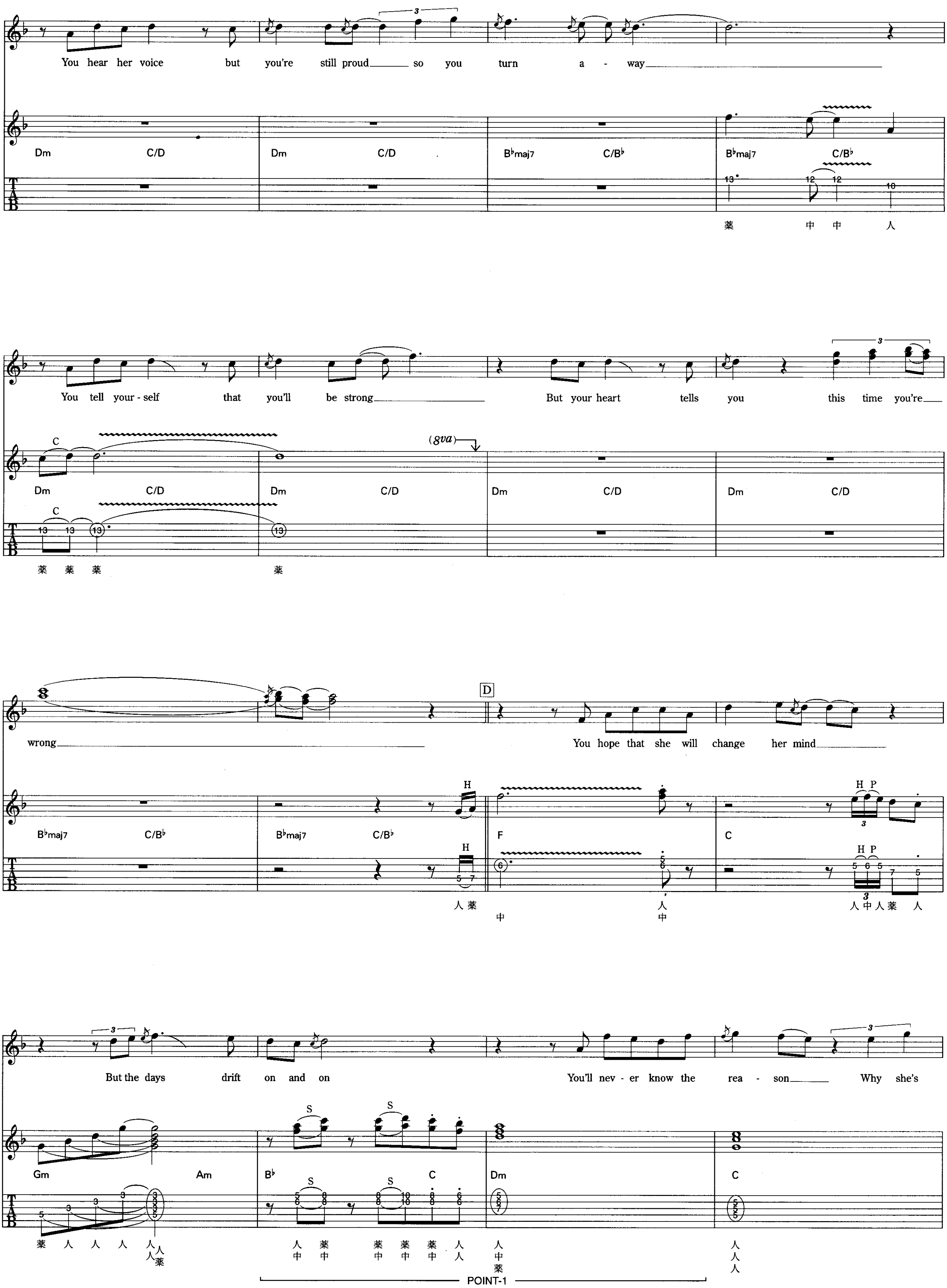
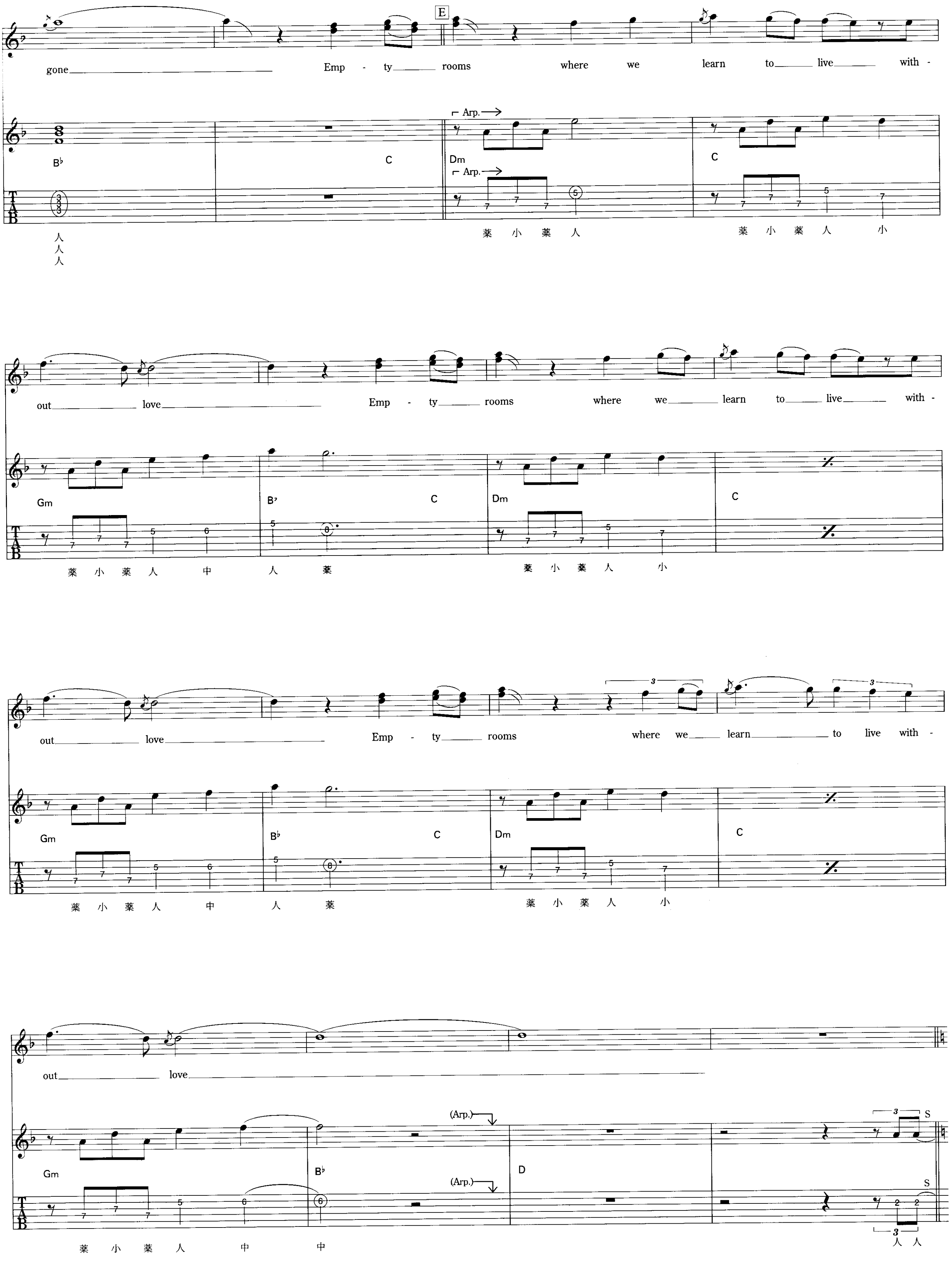
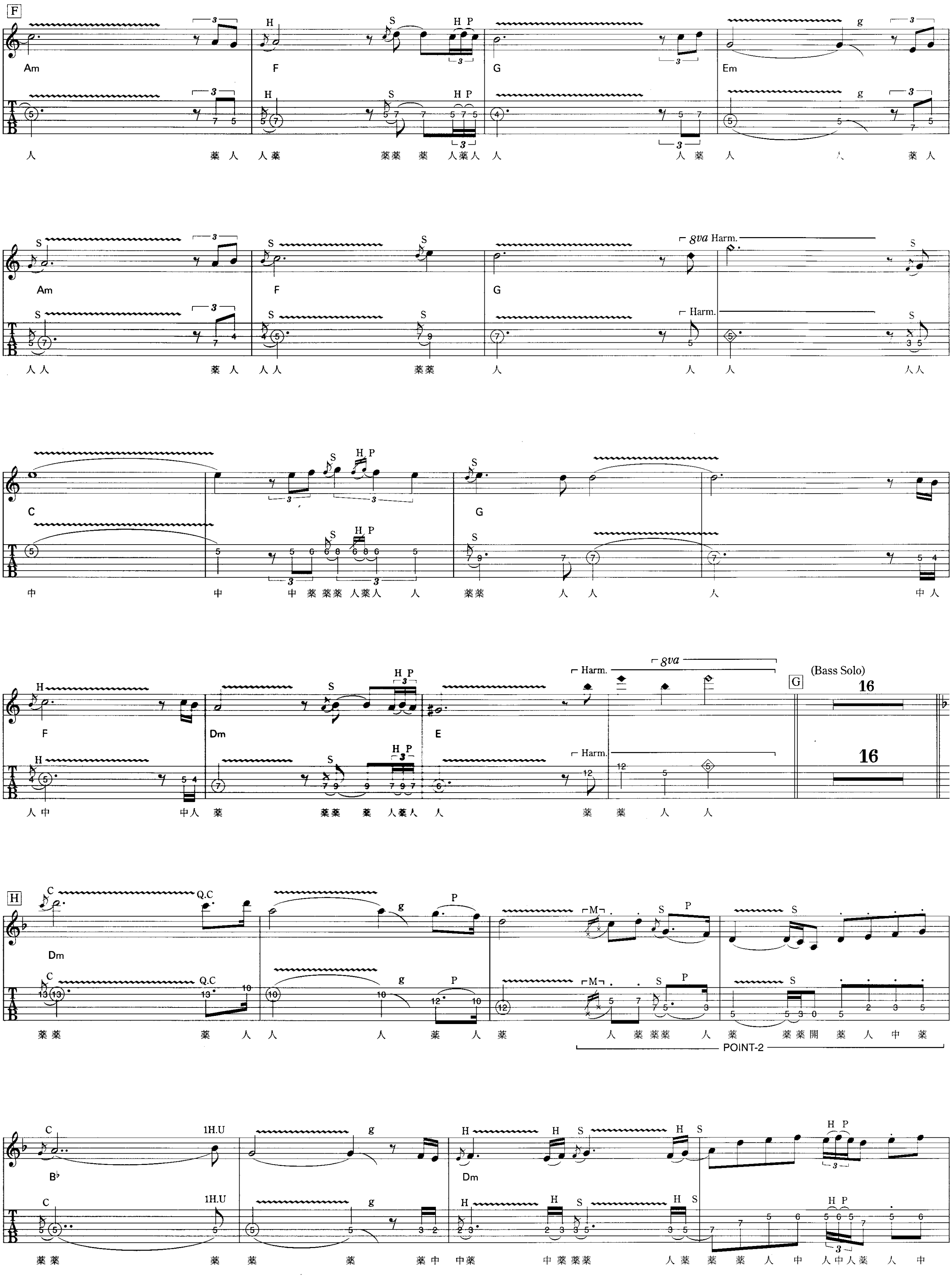
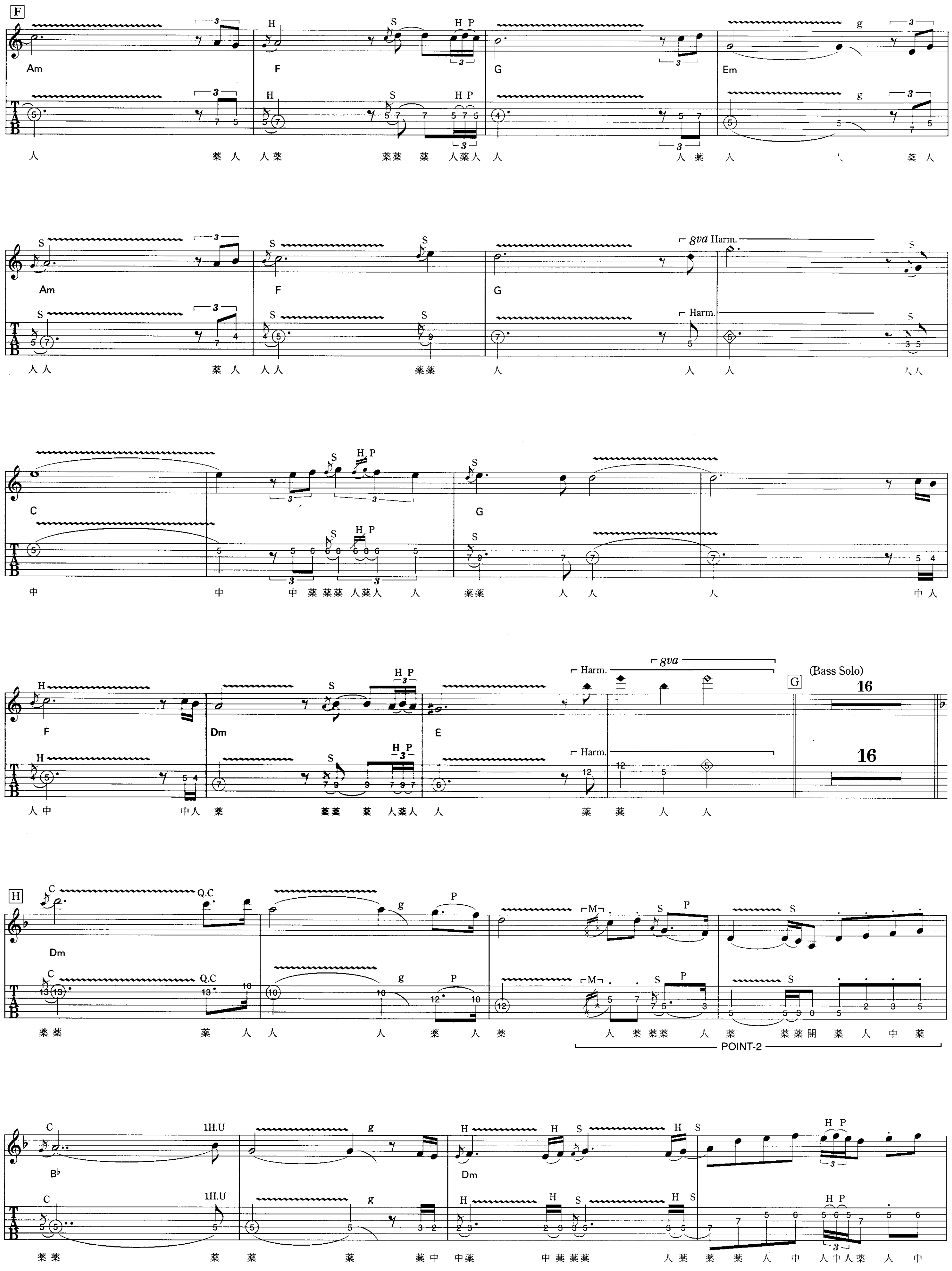
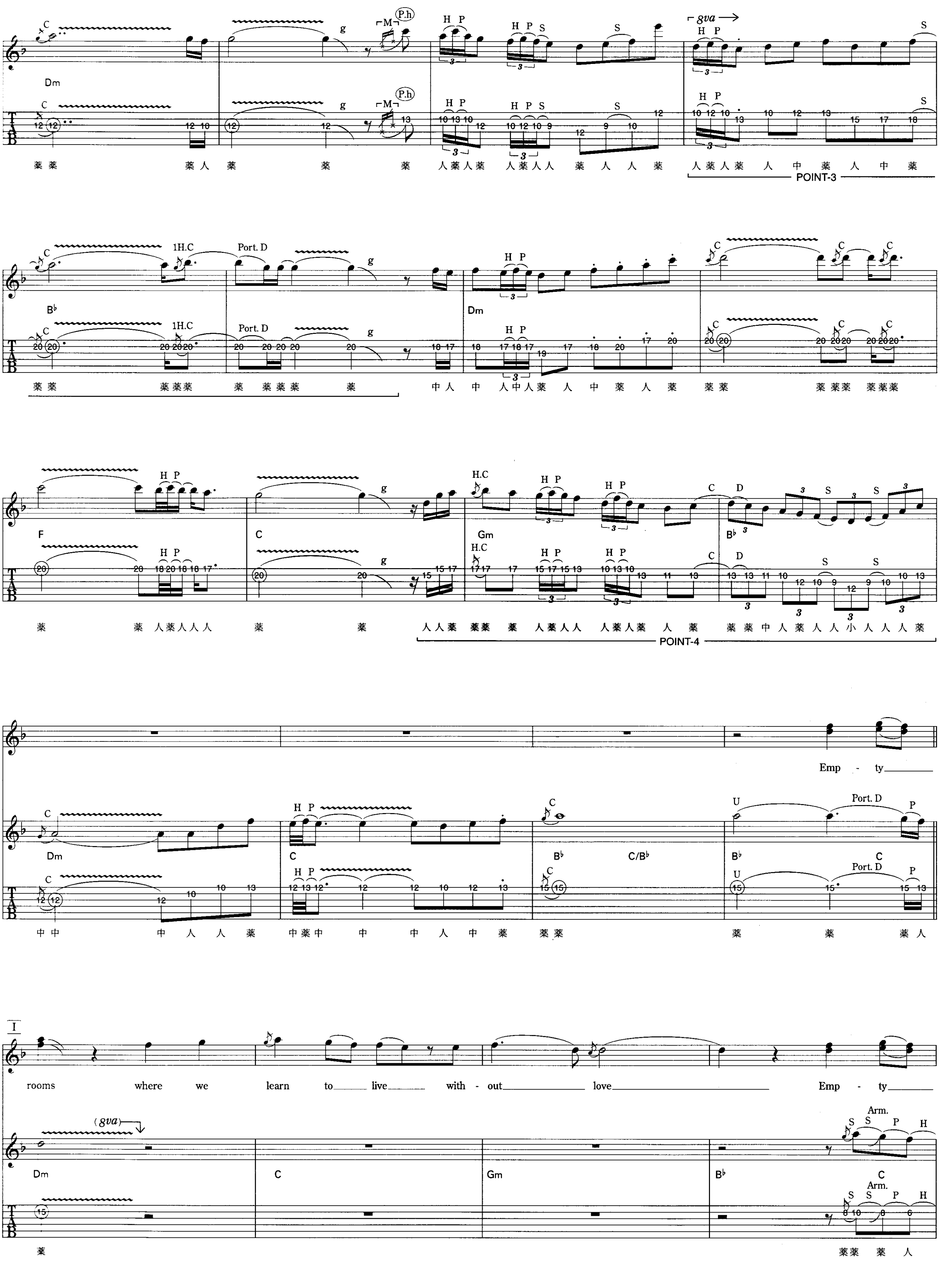
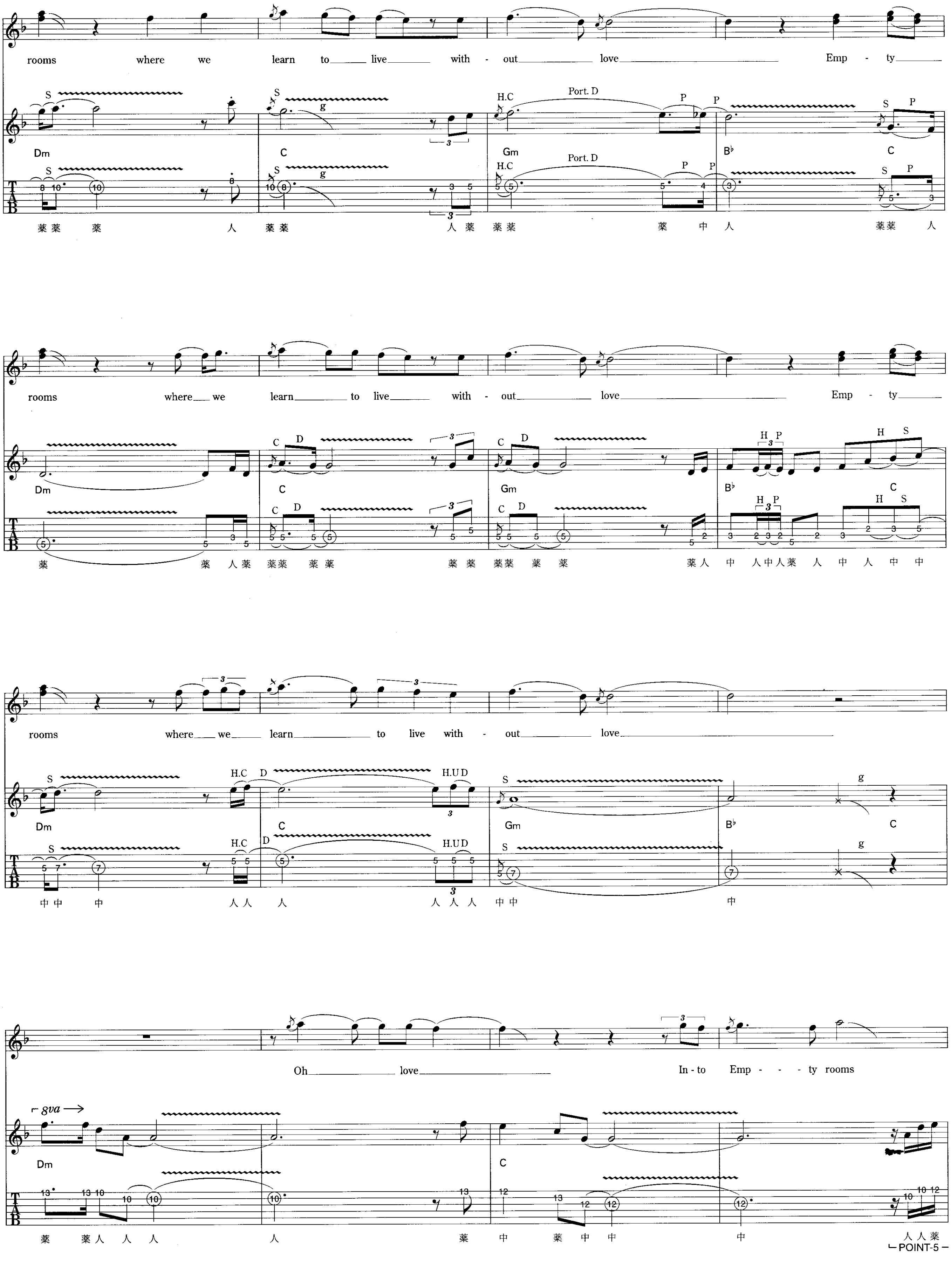
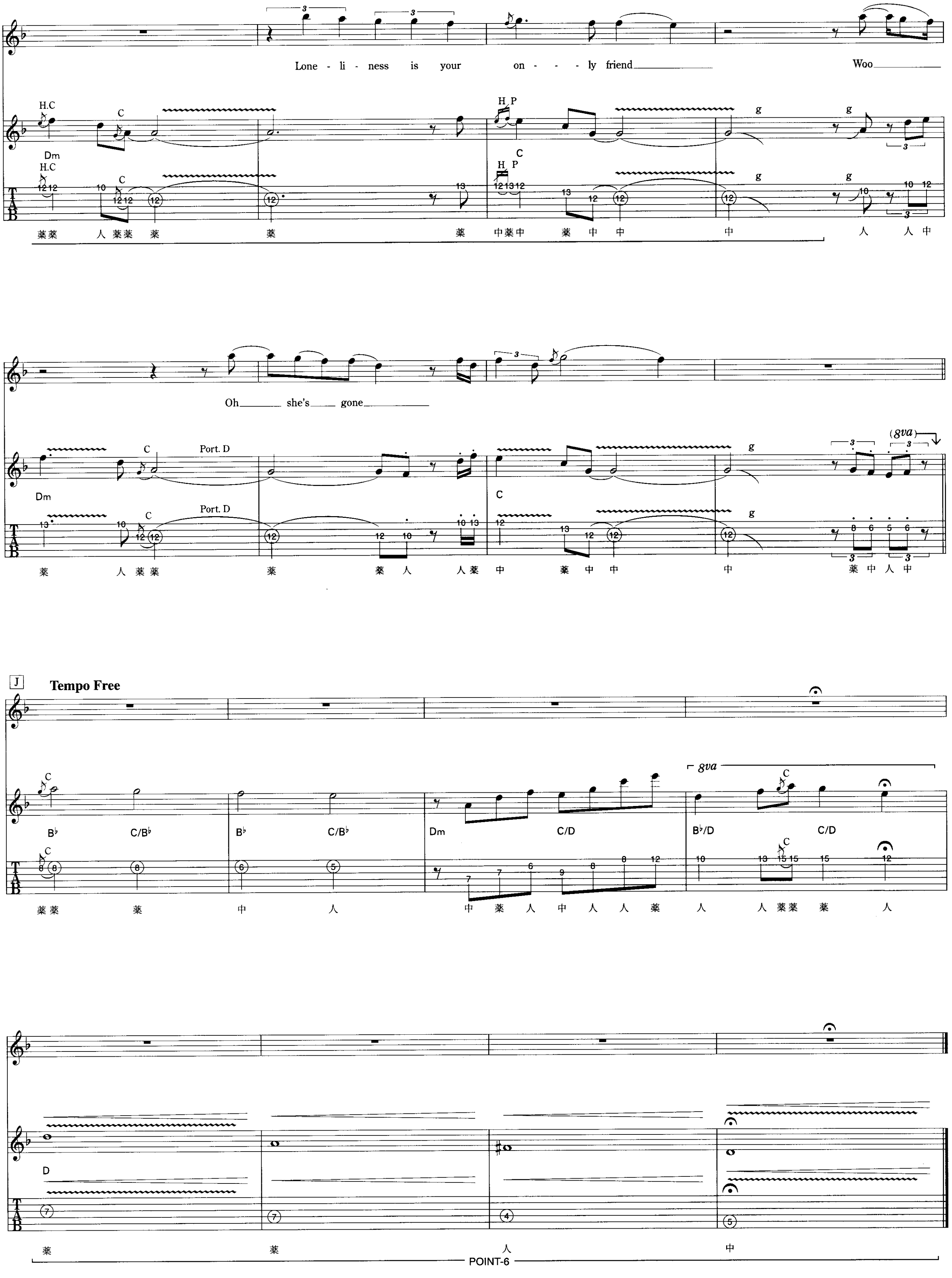
基本的にストラトキャスターとマーシャルでOKだろう。クリーン／ディストーションを切り替えるので、アンプをクリーンに設定してディストーション・ペダルで歪みを作るセッティングとなる。従って、ディレイ＆リヴァーブはアンプの前段に接続しても問題ない。ただし、このセッティングでは間奏時のクリーン音色のレヴェルが小さくなるので、コンプレッサーでサステインを稼ぎつつレヴェルも大きめにセッティングしよう。ストラトキャスターをディストーションで深く歪ませるとノイズが問題になることがあるが、ギター・ヴォリュームを操作するのでノイズ・リダクション類を掛ける場合はスレッショルドを充分に下げておくこと。できればギター本体のアース対策をしっかりと行ない、良質のシールドを使うなどして元からノイズを防ぎたい。

図D



Empty Rooms

by Gary Moore, Neil Carter

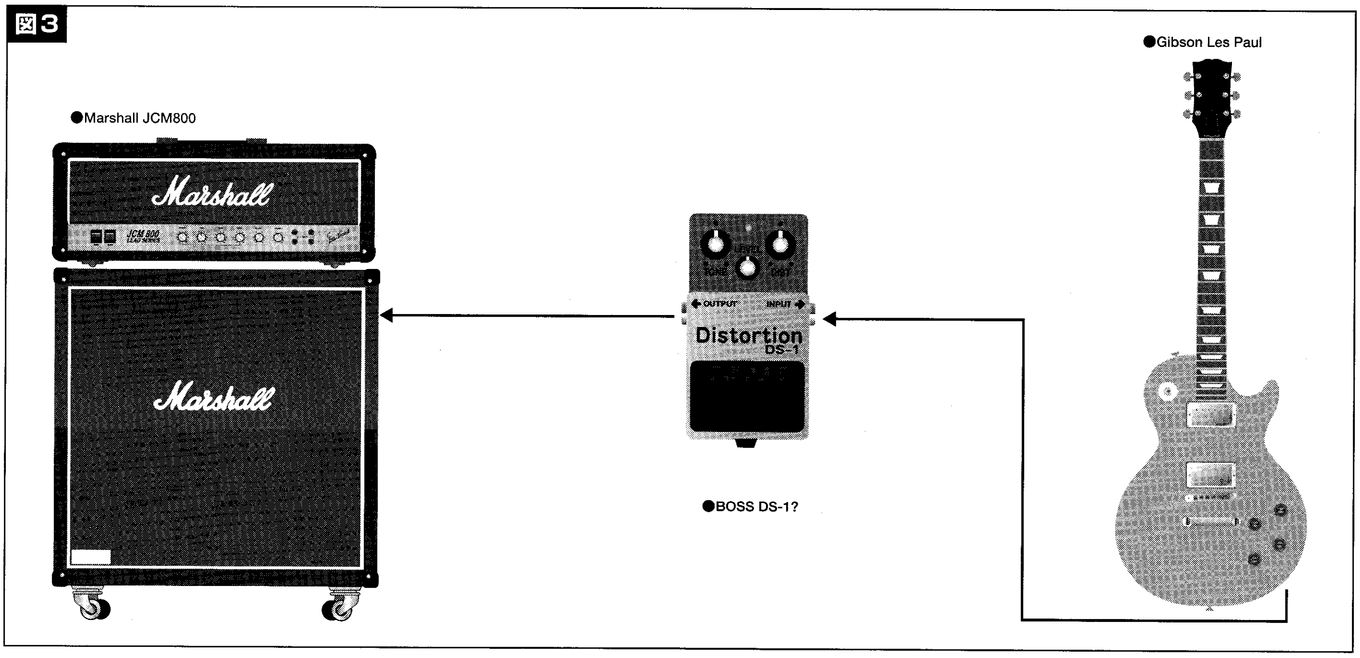
©EMI 10 MUSIC LTD. and ORIONSTAR LTD. Permission granted by Virgin Music Japan Ltd. Authorized for sale only in Japan.

You hear her voice but you're still proud so you turn a - way
Dm C/D Dm C/D B♭maj7 C/B♭ B♭maj7 C/B♭
You tell your - self that you'll be strong But your heart tells you this time you're
(8va)
Dm C/D Dm C/D Dm C/D Dm C/D
D
wrong You hope that she will change her mind
B♭maj7 C/B♭ B♭maj7 C/B♭ F C
But the days drift on and on You'll nev - er know the rea - son Why she's
Gm Am B♭ C Dm C
POINT-1

E
gone Emp - ty rooms where we learn to live with -
Arp.
B♭ C Dm C
out love Emp - ty rooms where we learn to live with -
Gm B♭7 C Dm C
out love Emp - ty rooms where we learn to live with -
Gm B♭ C Dm C
out love
(Arp.)
Gm B♭ D
S

F
Am
F
G
Em
Am
F
G
8va Harm.
Harm.
C
G
F
Dm
E
Harm.
8va
G
(Bass Solo)
16
H
Dm
Q.C
POINT-2
B♭
1H.U
Dm

F
Am
F
G
Em
Am
F
G
8va Harm.
C
G
F
Dm
E
Harm.
8va
G
(Bass Solo)
16
H
Dm
Q.C
POINT-2
B♭
1H.U
Dm

8va
POINT-3
Dm
Port. D
1H.C
B♭
Dm
F
C
Gm
H.C
POINT-4
B♭
Emp - ty
Dm
C
B♭ C/B♭
B♭ C
Port. D
I
rooms where we learn to live with - out love
Empty
(8va)
Dm
C
Gm
B♭ C
Arm.

rooms where we learn to live with - out love Emp - ty
Dm C Gm B♭ C
S g H.C Port. D P P S P
rooms where we learn to live with - out love Emp - ty
Dm C Gm B♭ C
C D H P H S
rooms where we learn to live with - out love
Dm C Gm B♭ C
S H.C D H.U D g
Oh love In - to Emp - - - ty rooms
8va
Dm C
POINT-5

Lone - li - ness is your on - - - ly friend
Woo
Oh she's gone
Tempo Free
J
Dm
C
Bb
C/Bb
C/D
Bb/D
D
H.C
H P
Port. D
8va
POINT-6

ゲイリー・ムーア本人のサウンド・メイク分析（図3）

ヌケの良いトレブリーなバッキング音色

レスポールを使ったようだが、使用しているアンプは不明。当時のライヴではマーシャル製JCM800をメインにしていたが、JCM800のサウンドにしては、ボトムの「ズンズン」した感じが弱く、高音のエッジもアンプの特性より高い周波数に寄っている感じ。BOSS製DS-1等のディストーションで歪みを作ったか、スタック・タイプのマーシャル以外のアンプを使っている可能性もある。バッキングは非常に抜けが良くトレブリーなサウンド。歪み系エフェクターの歪みをかなり加えているようだ。全体に1.6秒前後のホール・リヴァーブを掛けている。右側のオブリガートもほぼ同じセッティングだろう。リードはさらにゲインが上がっているが、アンプ&エフェクターは同じものを使用しているようだ。1拍のディレイとリヴァーブを掛けている。

図3

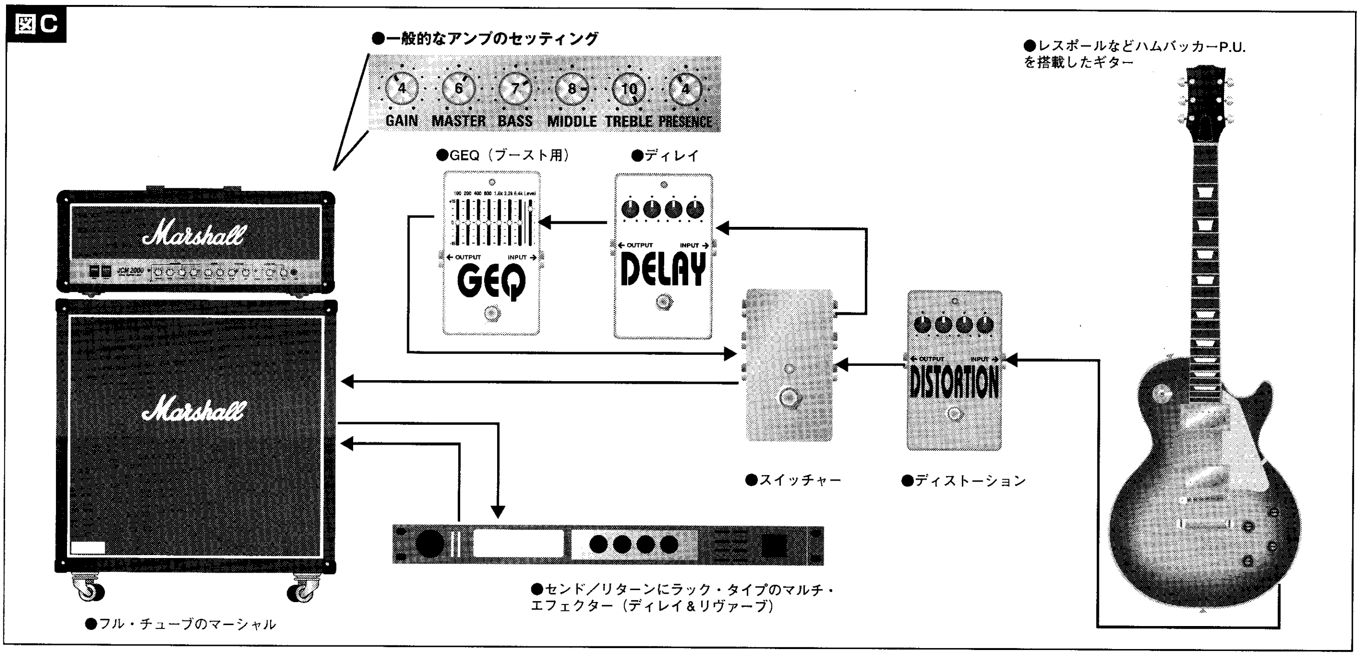


サウンド・メイク・シミュレーション（図C）

音色の切り替えはブースターかグライコを起用

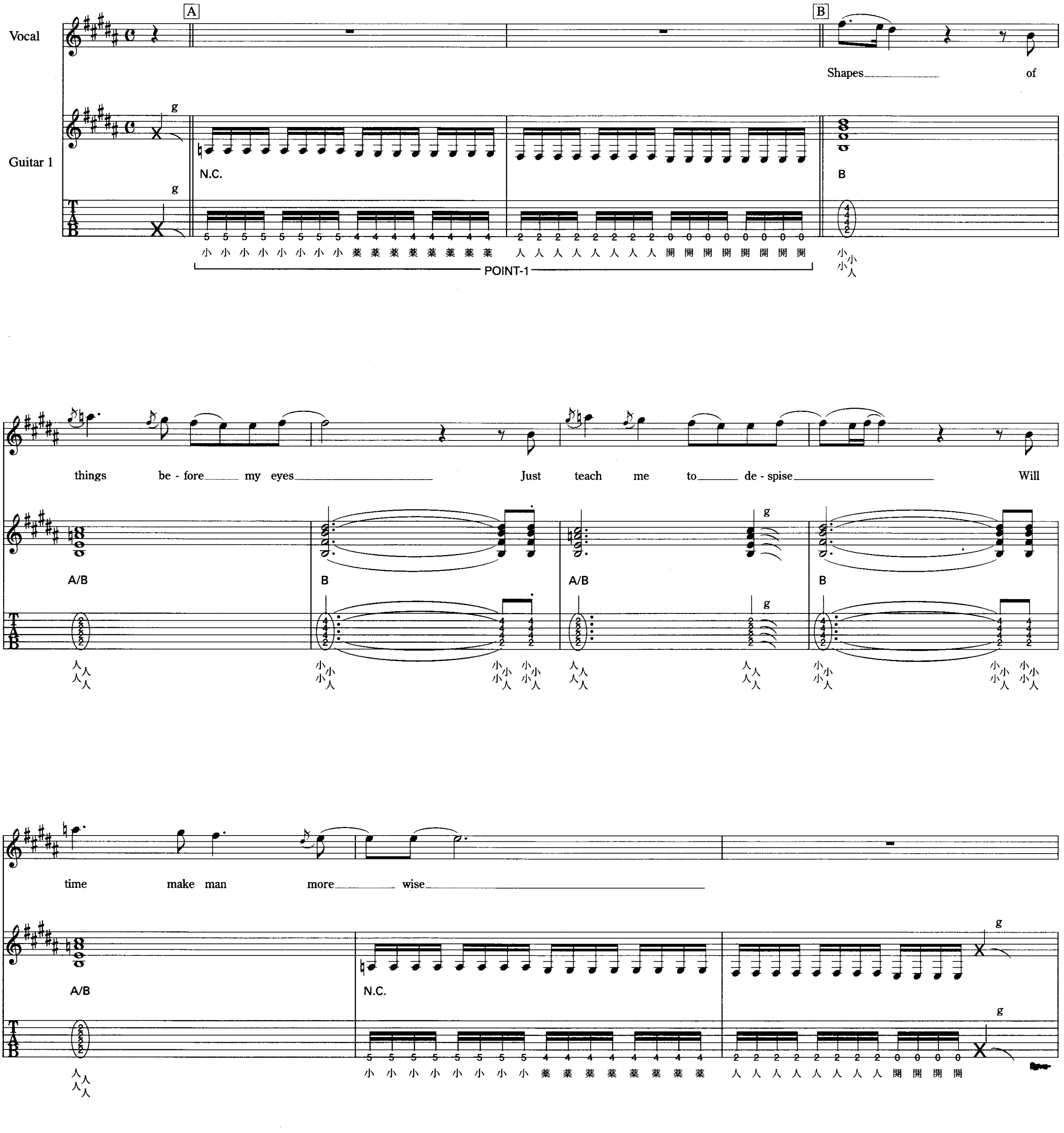
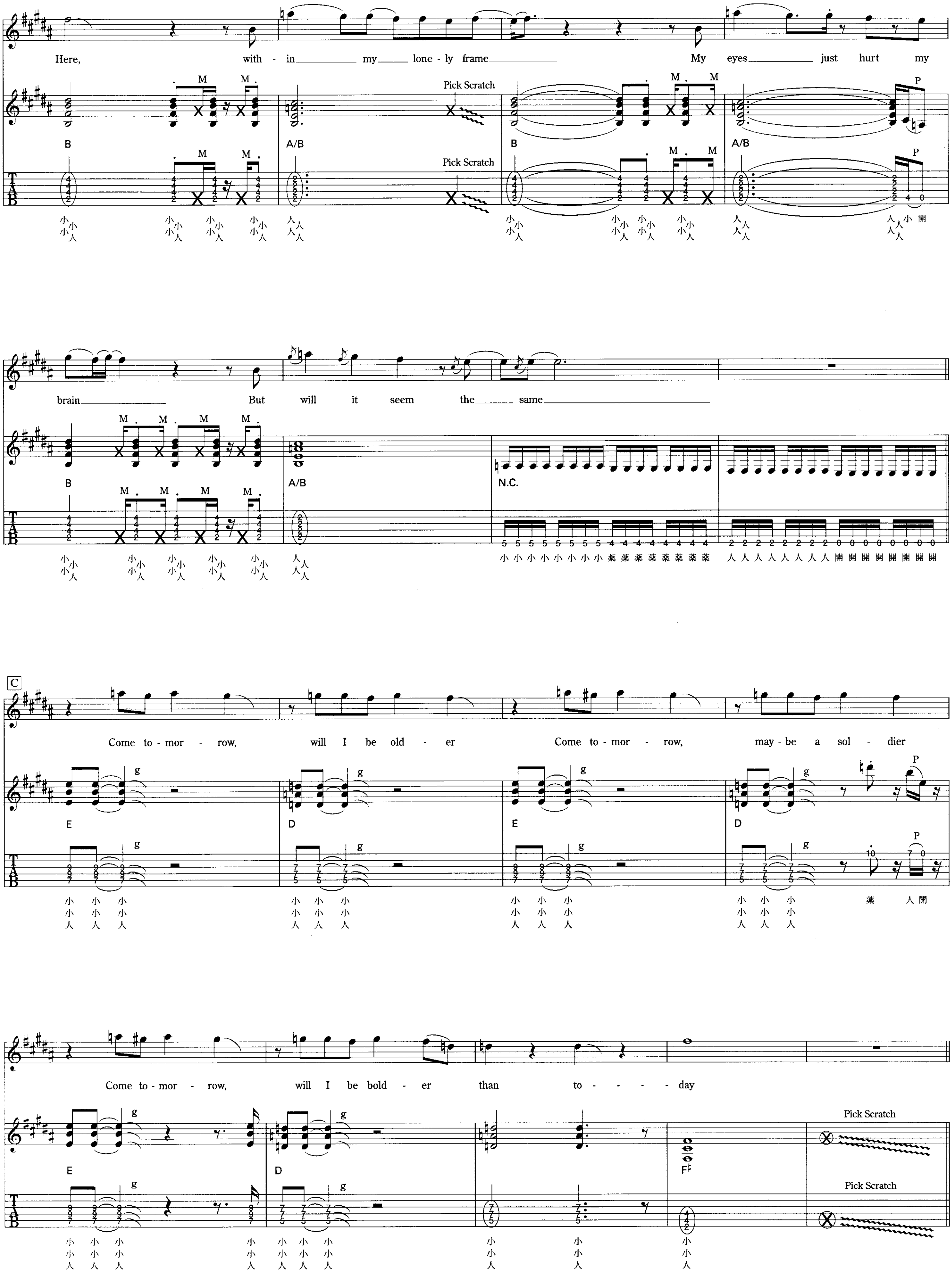
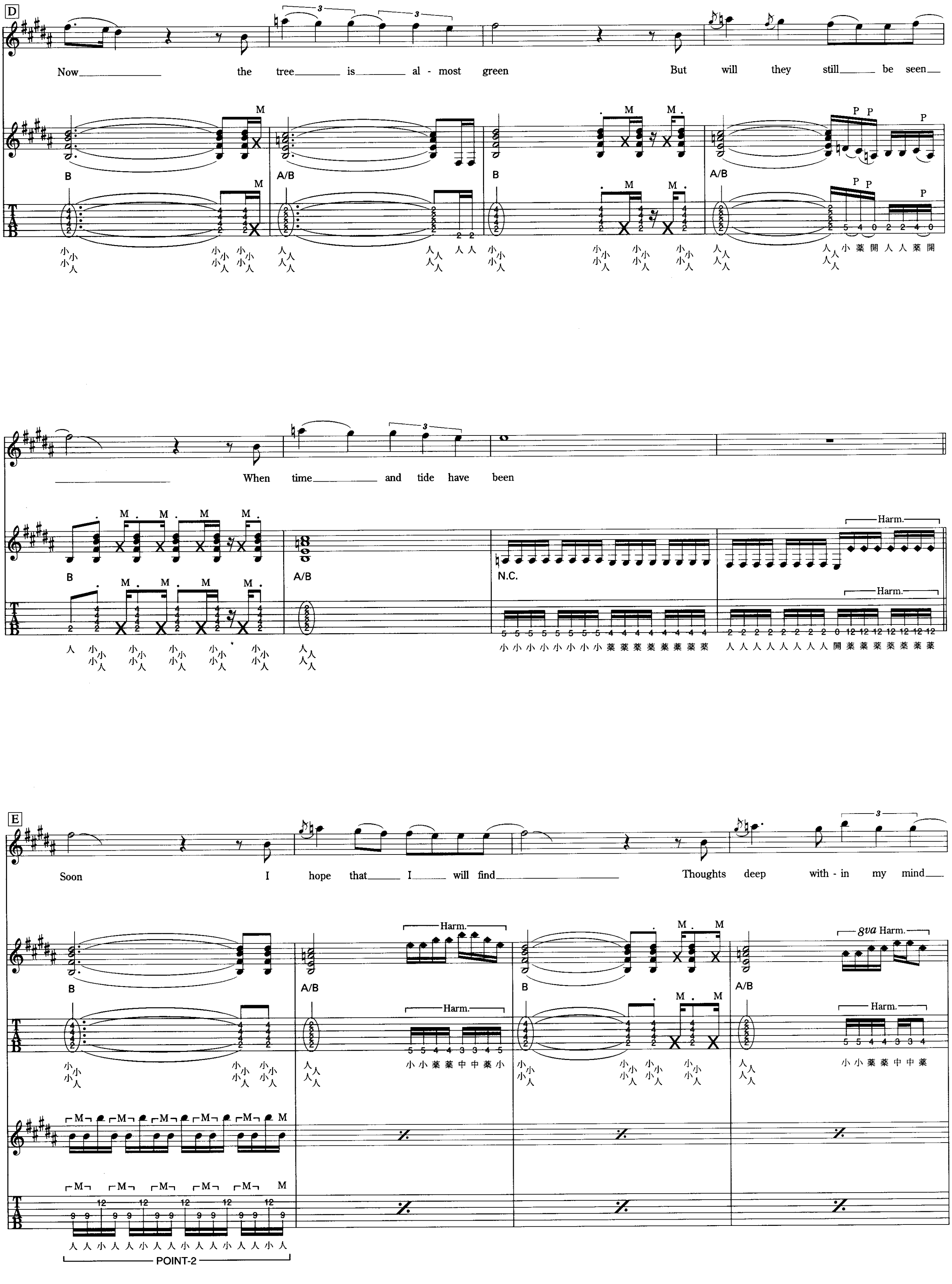
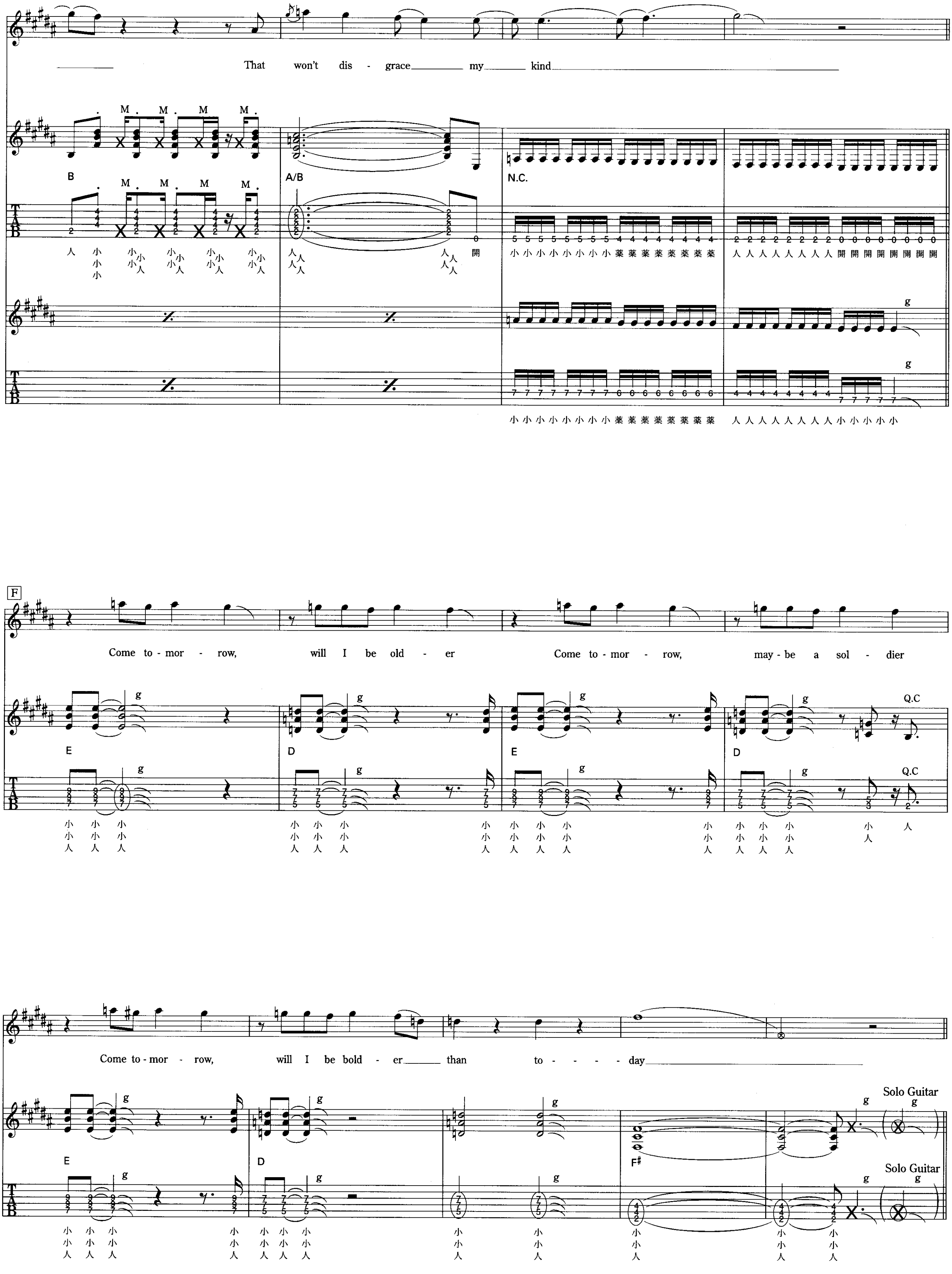
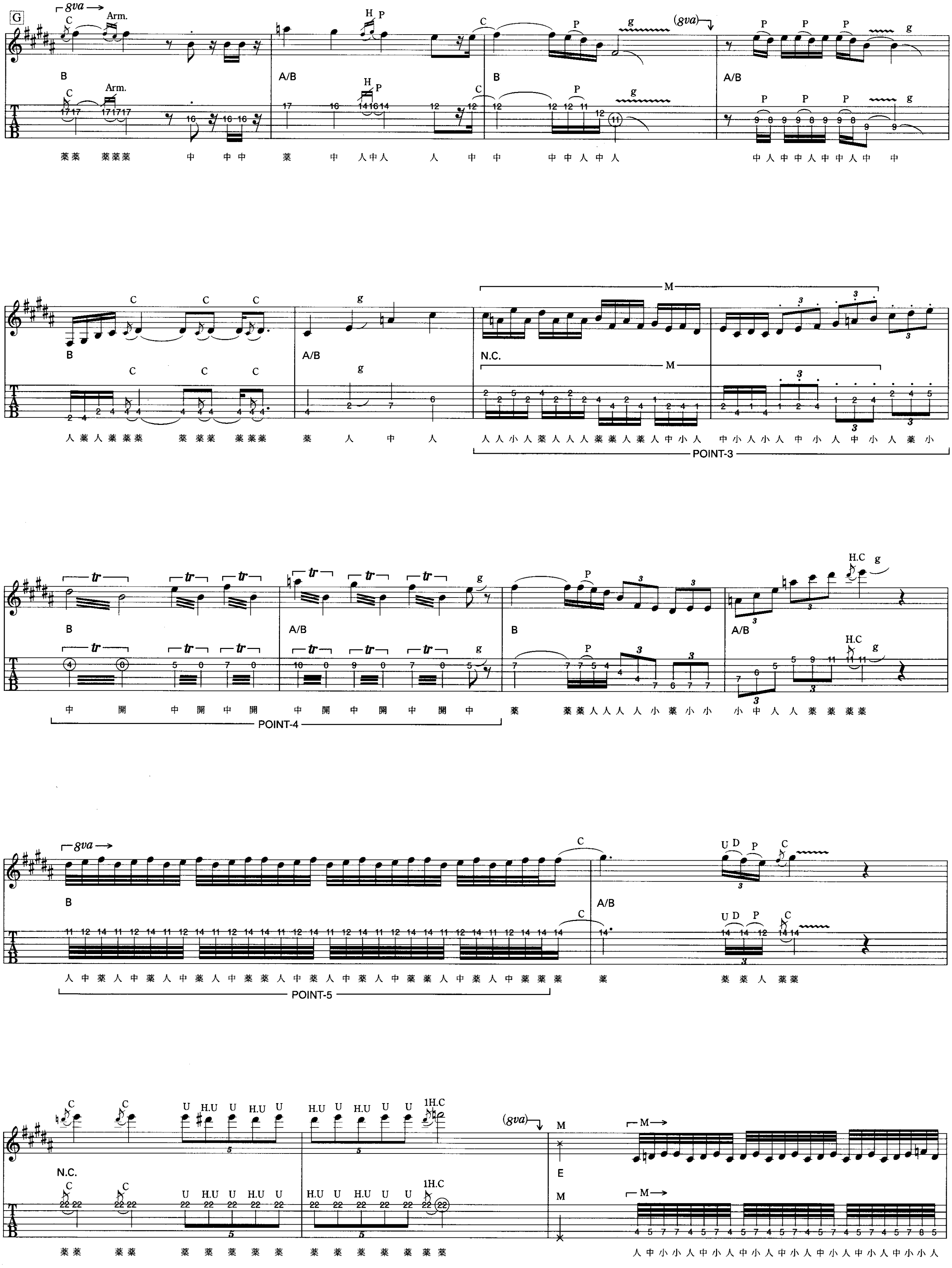
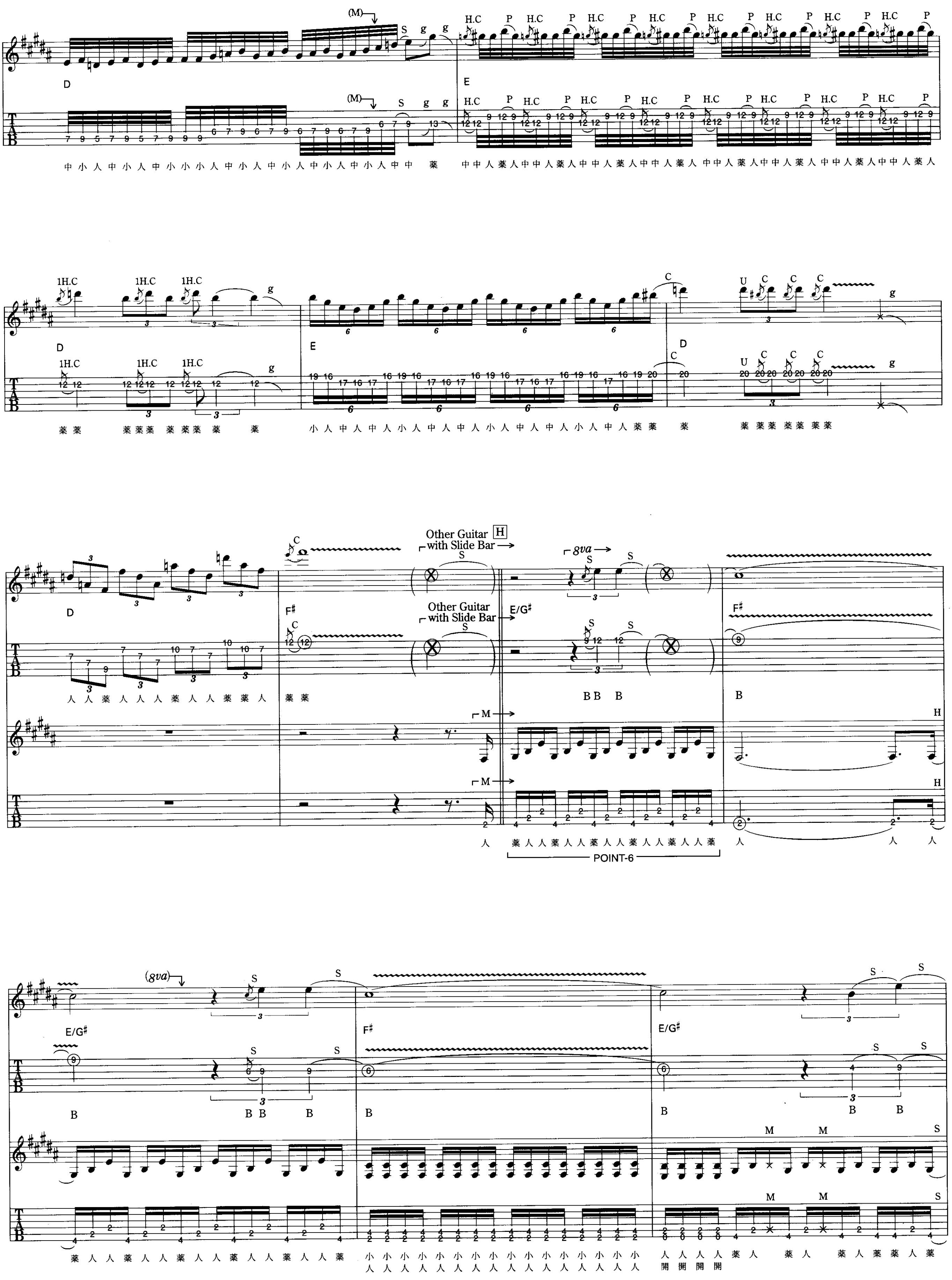
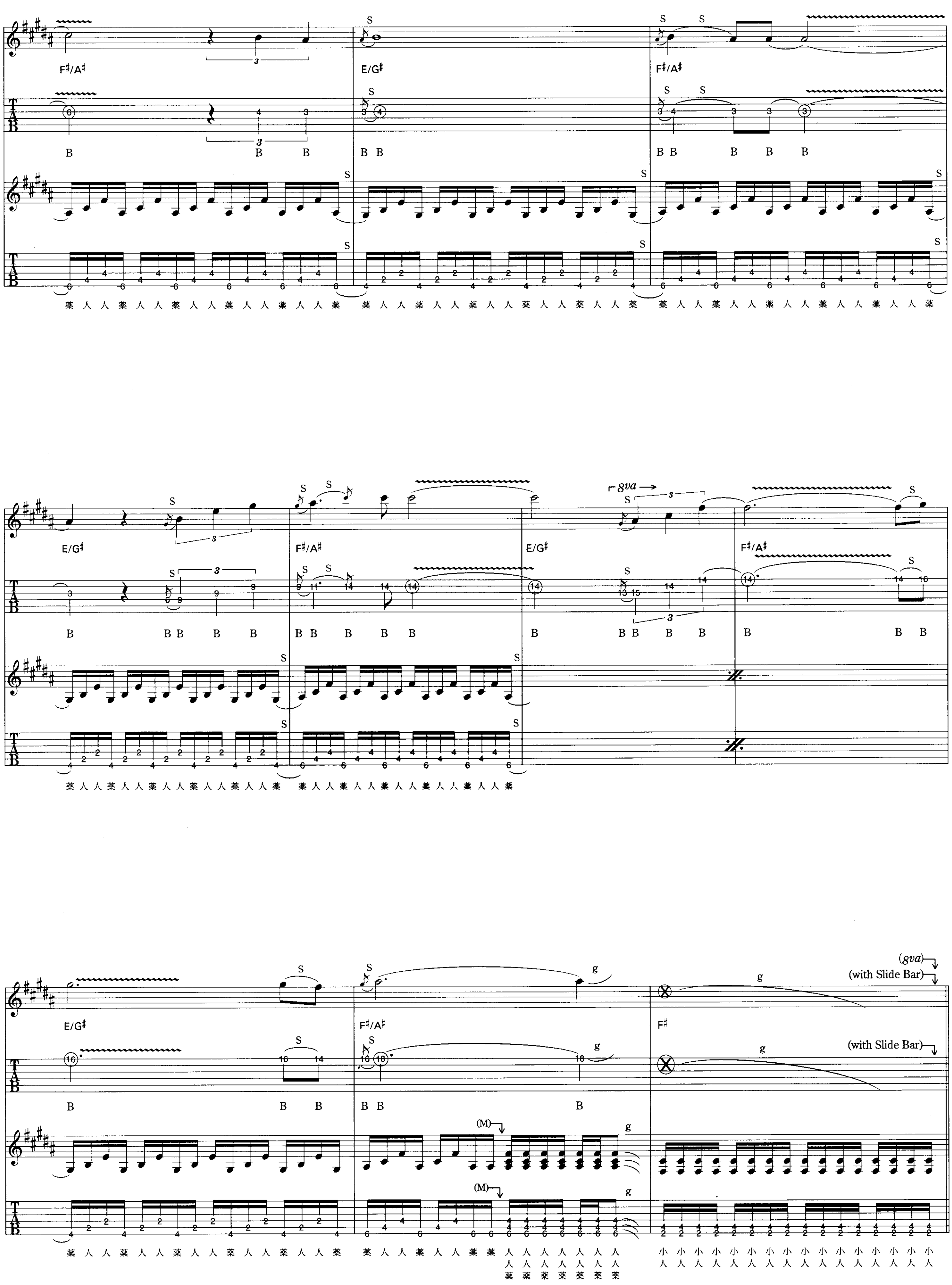
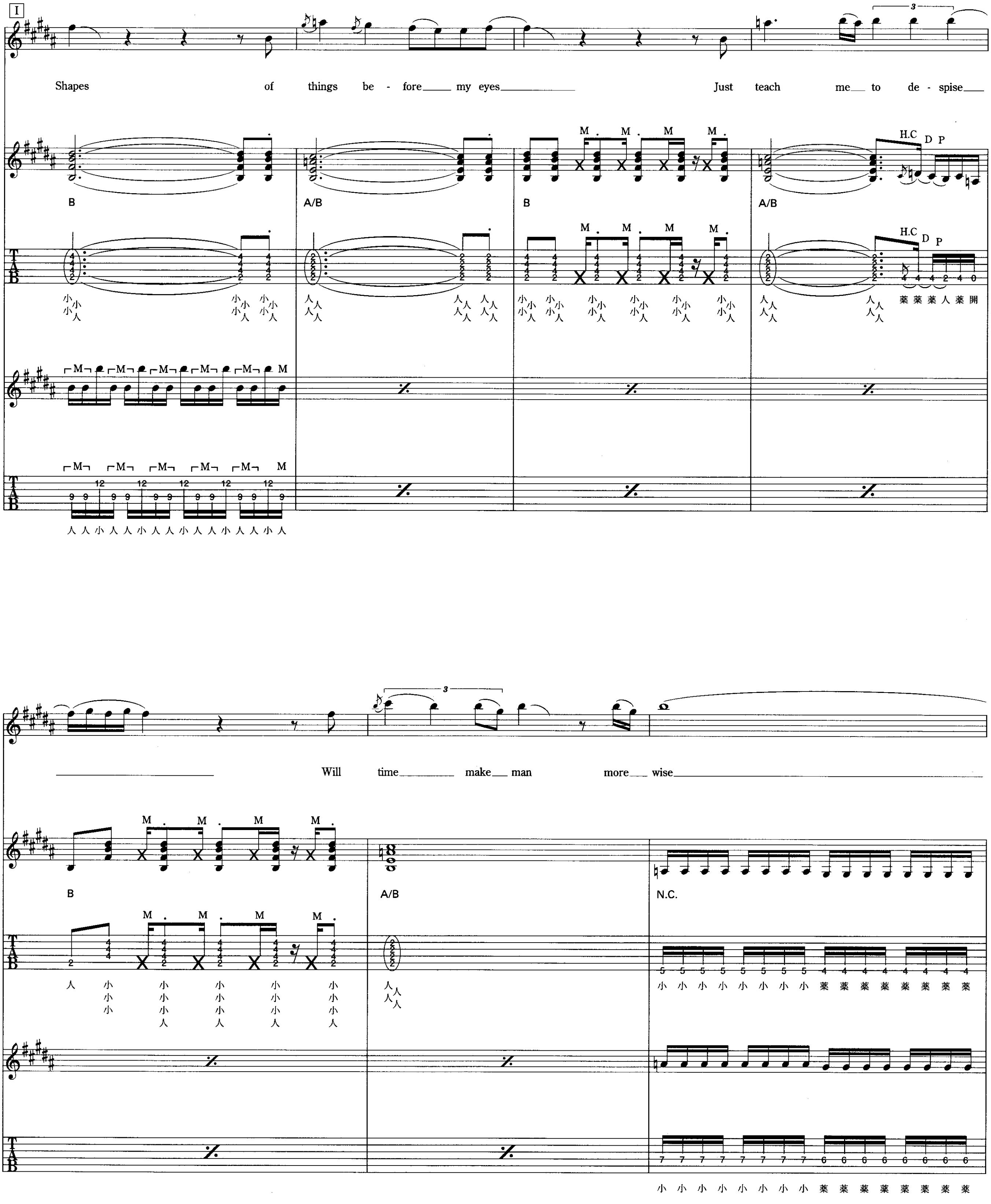
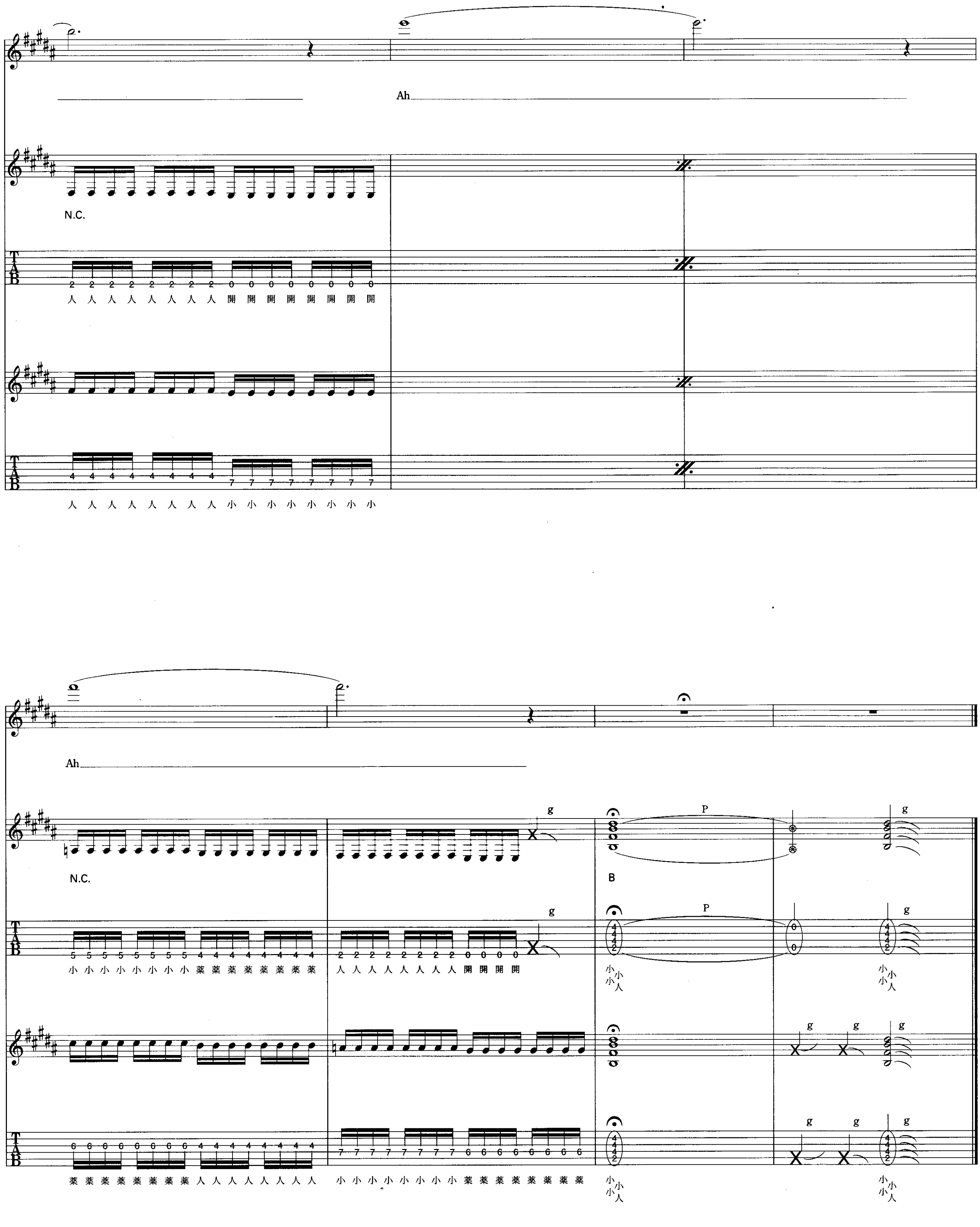
レスポール系ギター&マーシャル系アンプに、オーヴァードライヴではなくディストーションを組み合わせて充分に歪ませる方法がお薦め。ディストーションのトーンを10近くまで上げて高音のジリジリした倍音を強調しつつ、アンプ側の歪みはクランチ程度でミドルとベースを絞り気味にする。ディレイはディストーションとアンプの間に接続しても良いが、リヴァーブだけはアンプのセンド／リターンに接続すること。バッキング／リードの切り替えはギター・ヴォリュームの調節とディレイのオン／オフだけでも良いが、歪みを抑えてレヴェルを上げたオーヴァードライヴやブースター、またはグライコ等でレヴェルを増幅する方が合理的だろう。スイッチャー（ライン・セレクター）を使えば一踏みでリード・セッティングに切り替えることができる。

図C



Shapes Of Things

by Paul Samwell-Smith, Keith Relf, James McCarthy

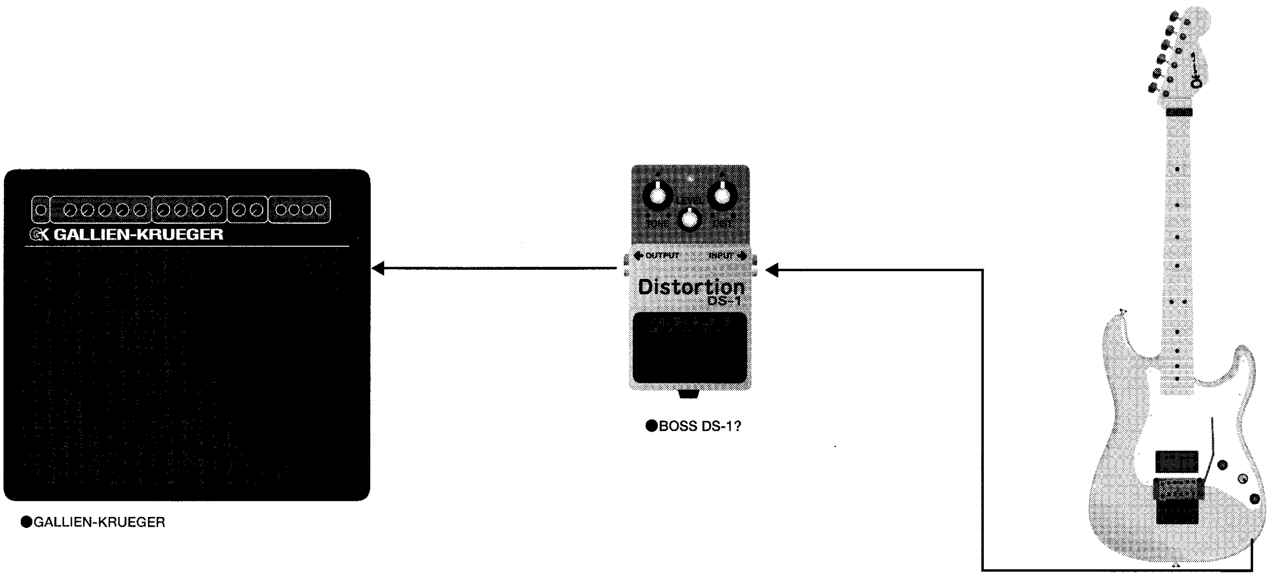
©1966 B.FELDMAN & CO., LTD.
Permission granted by EMI Music Publishing Japan Ltd. Authorized for sale only in Japan.

Here, with - in my lone - ly frame My eyes just hurt my
Pick Scratch
B
A/B
B
A/B
M
P
brain But will it seem the same
B
A/B
N.C.
C
Come to - mor - row, will I be old - er Come to - mor - row, may - be a sol - dier
E
D
E
D
g
P
Come to - mor - row, will I be bold - er than to - - - - day
E
D
F♯
Pick Scratch

D
Now the tree is al - most green
But will they still be seen
When time and tide have been
B
A/B
N.C.
Harm.
E
Soon I hope that I will find
Thoughts deep with - in my mind
8va Harm.
POINT-2

That won't dis - grace my kind
B
A/B
N.C.
F
Come to - mor - row, will I be old - er
Come to - mor - row, may - be a sol - dier
E
D
Q.C
Come to - mor - row, will I be bold - er than to - - - - day
F♯
Solo Guitar

G
8va
Arm.
B
A/B
N.C.
M
E
POINT-3
POINT-4
POINT-5

D
E
Other Guitar H with Slide Bar
8va
F♯
E/G♯
POINT-6

F♯/A♯
E/G♯
F♯/A♯
E/G♯
F♯/A♯
E/G♯
8va
F♯/A♯
E/G♯
F♯/A♯
F♯
(8va)
(with Slide Bar)
(with Slide Bar)
(M)

I
Shapes of things be - fore my eyes
Just teach me to de - spise
B
A/B
H.C
D P
Will time make man more wise
N.C.

Ah
N.C.
Ah
N.C.
B

ゲイリー・ムーア本人のサウンド・メイク分析 (図5)

アクティヴP.U.特有の太いアタック・ニュアンス

EMG製ハムバッカーP.U.を搭載したシャーベル製ストラト・タイプと、ギャリエン・クリューガーのアンプによるサウンドと思われる。「ゴツ」という太いアタック音は、EMGピックアップならではの特性。低域は充分に出ているがロー・エンドが伸びていないため、低音域のメロディーでも重心が高い感じのサウンドになっている。この辺りはギャリエン・クリューガーの特性だろう。イントロでは2拍3連の長さでフィードバック充分のディレイを深く掛けているが、イン・テンポになってからはこのディレイは殆ど聴こえない程度にまで絞られており、100ms前後のプリ・ディレイの掛かった3.0秒程度のプレート・リヴァーブをたっぷりと掛けている。曲前半のレヴェルが小さめなのは、ミックス時に意図的にレヴェルを抑えているためだろう。

図5



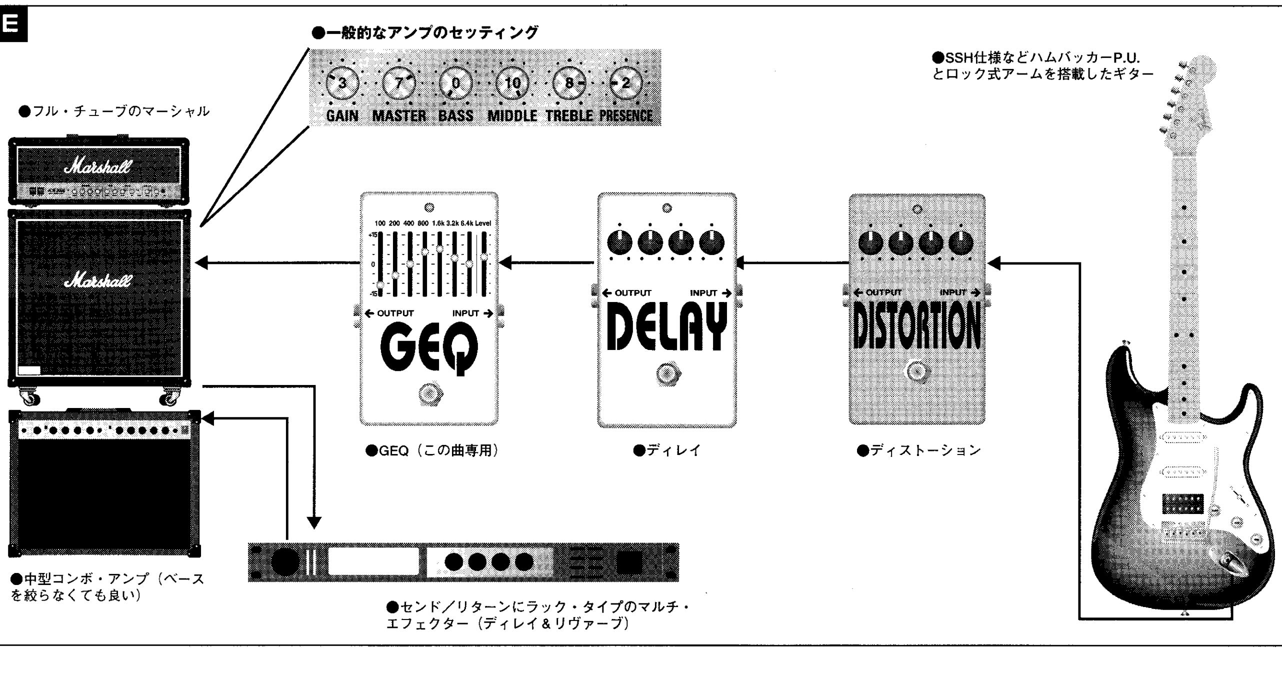
●Charvel Strato-Type
●BOSS DS-1?
●GALLIEN-KRUEGER

サウンド・メイク・シミュレーション (図E)

山型セッティングのグライコ起用が得策?

ハムバッカーP.U.とロック式トレモロを搭載したギターなら概ねOK。EMG製P.U.でなくとも、アンプのトーンかグライコ等でミドルを強調すれば近いサウンドになるはずだ。マーシャル等のスタック・アンプでは低域が強過ぎるので、アンプのベースはほぼ0付近まで絞ることになるだろう。宅録など音量が問題にならない場面では、10インチ程度のスピーカーを搭載した練習用アンプの方が良い結果が得られるかも。ライヴで他の曲と同時に演奏する場合は、当曲専用に山型にセッティングしたグライコを用意するのが得策。歪みはディストーションで作るので、ディレイ／リヴァーブはコンパクト・タイプも使用できるが、アンプ周りではディレイのみを掛け、リヴァーブはPA側で掛けてもらう方がステレオの大きな空間を再現できるだろう。

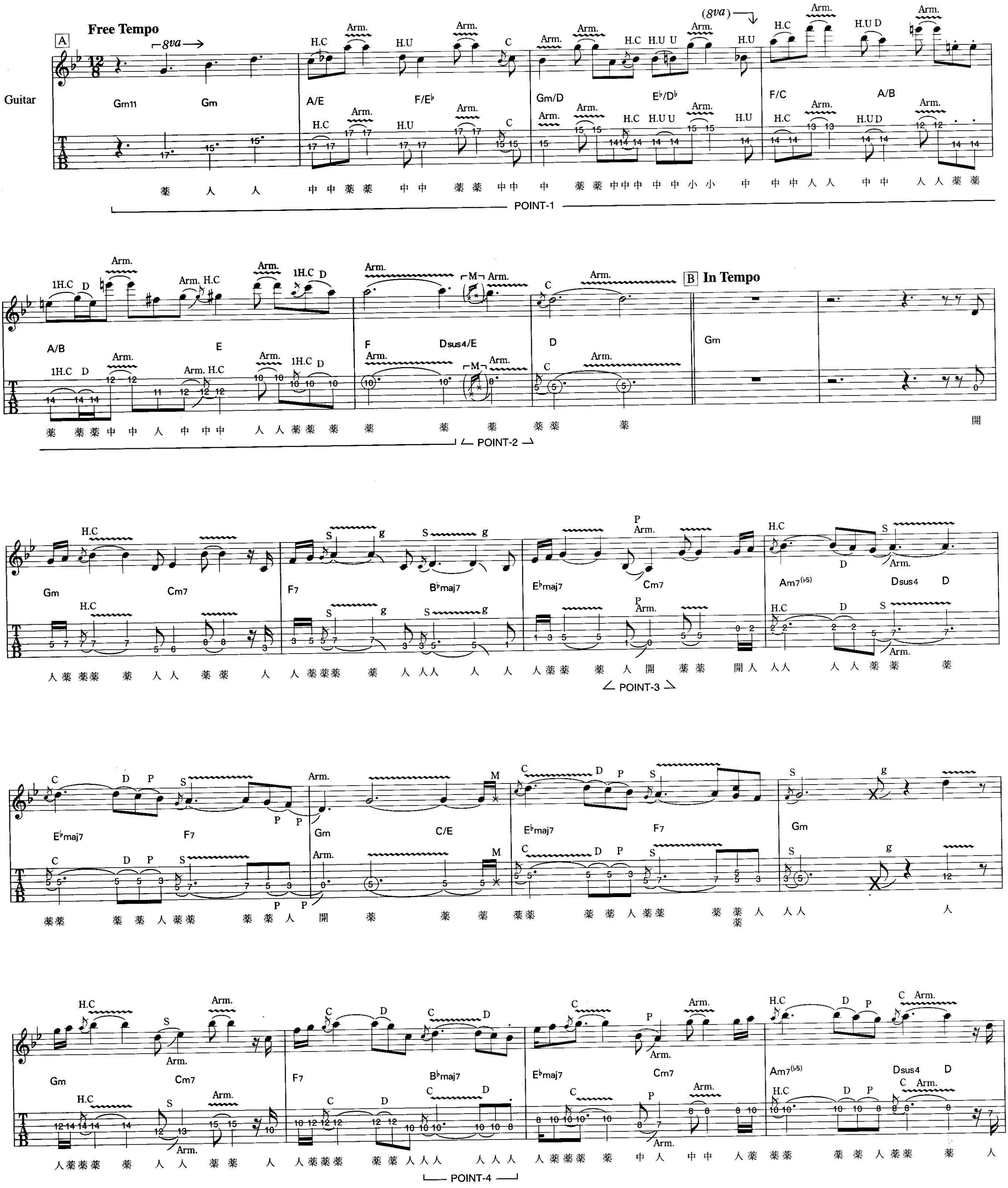
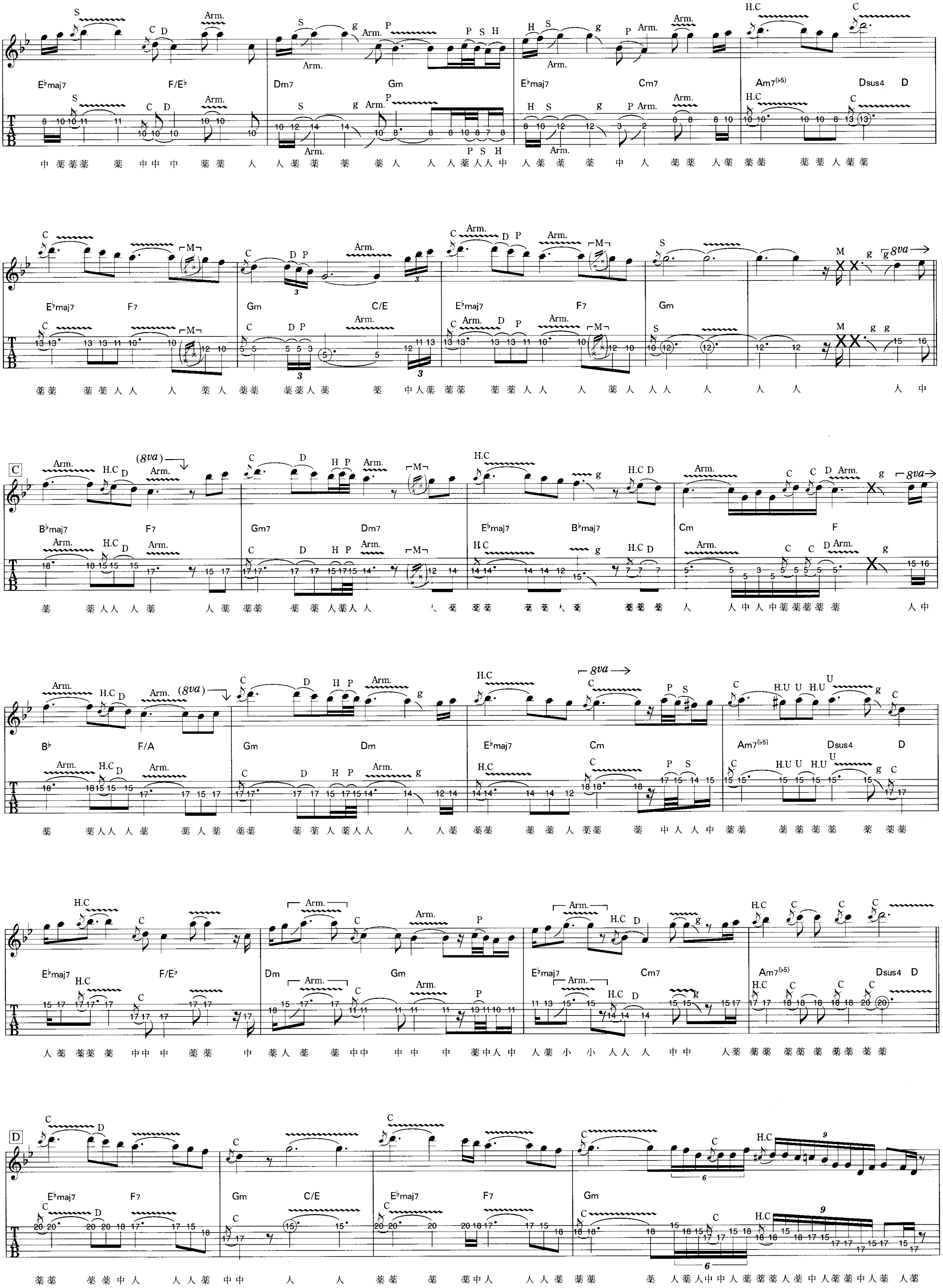
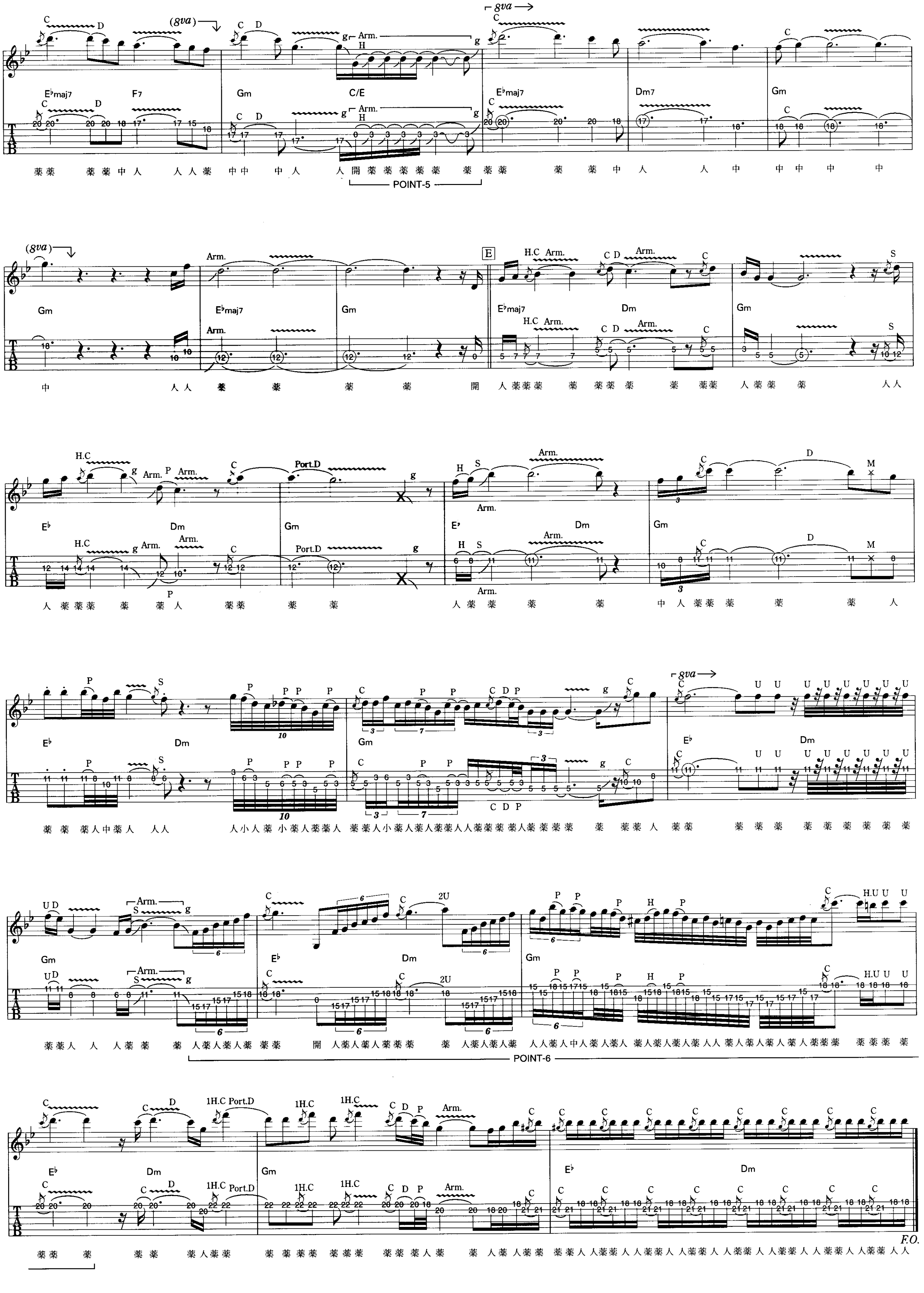
図E



●一般的なアンプのセッティング
●フル・チューブのマーシャル
●SSH仕様などハムバッカーP.U.とロック式アームを搭載したギター
●GEQ（この曲専用）
●ディレイ
●ディストーション
●中型コンボ・アンプ（ベースを絞らなくても良い）
●センド／リターンにラック・タイプのマルチ・エフェクター（ディレイ＆リヴァーブ）

The Loner

by Max Middleton, Gary Moore

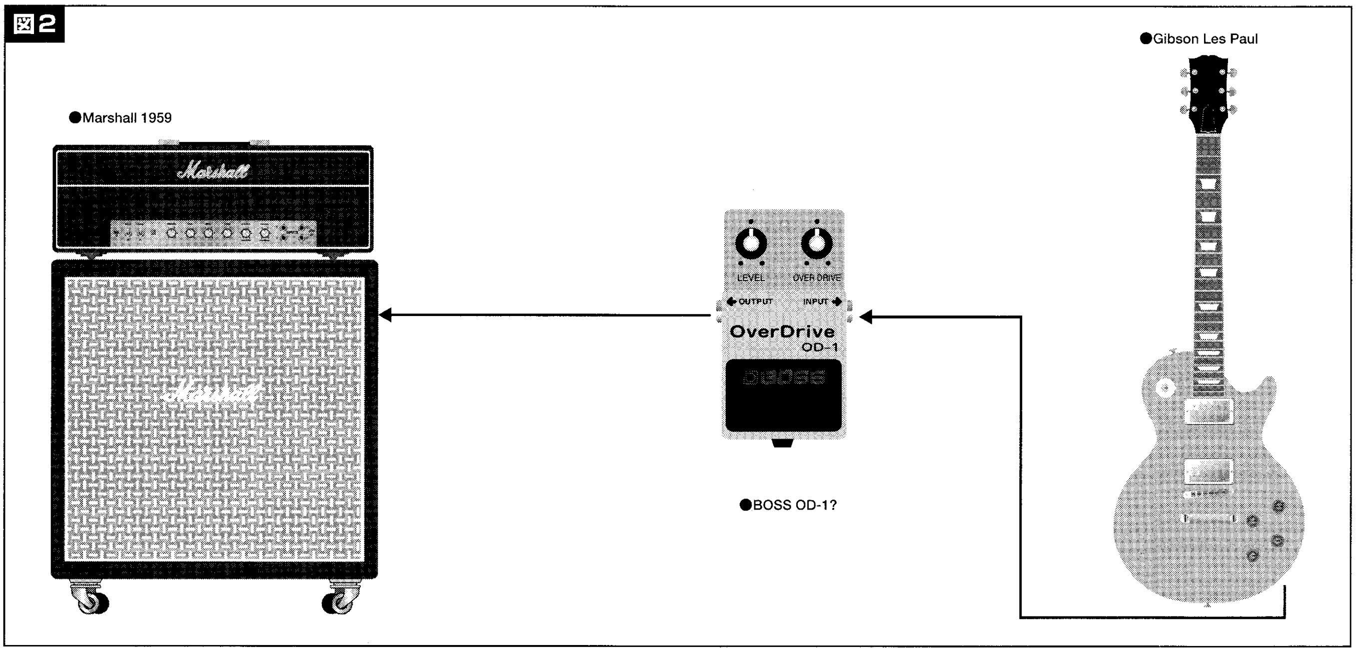
©EMI 10 MUSIC LTD. Permission granted by Virgin Music Japan Ltd. Authorized for sale only in Japan.

E♭maj7 F/E♭ Dm7 Gm E♭maj7 Cm7 Am7(♭5) Dsus4 D
E♭maj7 F7 Gm C/E E♭maj7 F7 Gm
C
B♭maj7 F7 Gm7 Dm7 E♭maj7 B♭maj7 Cm F
B♭ F/A Gm Dm E♭maj7 Cm Am7(♭5) Dsus4 D
E♭maj7 F/E♭ Dm Gm E♭maj7 Cm7 Am7(♭5) Dsus4 D
D
E♭maj7 F7 Gm C/E E♭maj7 F7 Gm

E♭maj7 F7 Gm C/E E♭maj7 Dm7 Gm
POINT-5
Gm E♭maj7 Gm
E
E♭maj7 Dm Gm
E♭ Dm Gm E♭ Dm Gm
E♭ Dm Gm E♭ Dm
Gm E♭ Dm Gm
POINT-6
E♭ Dm Gm E♭ Dm
F.O.

ゲイリー・ムーア本人のサウンド・メイク分析 (図2)

トレブルを絞り気味にした中域強調の音作り

スコット・ゴーハムとのツイン・リードで、2人ともマーシャルを使っているようだ。ゲイリーの使用ギターは不明だが、ハムバッカー・サウンドであることや、スコットと音色を揃える必要があったことから、レスポールを使ったのではないかと推測される。ツイン・リード／バッキングともに左がゲイリーと思われ、トレブルを絞り気味にしたミドルの強い音色で、録音時に適度に混入したブースのアンビエンスが自然な余韻となっている。イントロのツインを始めとするリード・パートには、プレート・リヴァーブを2.4秒程度で薄く掛けている。ソロ前半のサウンドはショート・ディレイ風のサウンドになっているが、どうやらディレイではなくダブルで録ったようだ。所々に挿入されているフィル・イン・フレーズは、バッキング同様にノン・エフェクトだ。

図2

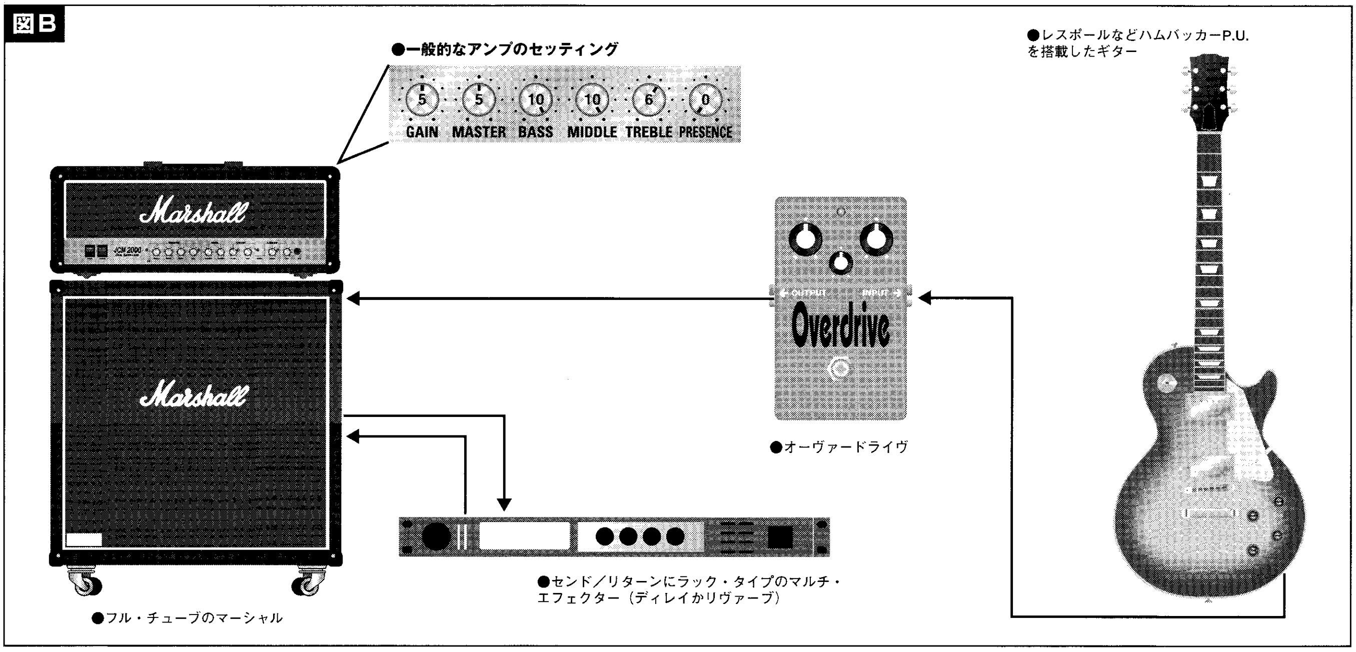


サウンド・メイク・シミュレーション (図B)

ギター2本の[歪み／音色／音量]を揃えるべし!

実際に使用しているアンプはマーシャル(1959)と思われるが、歪み系エフェクターでゲイン・アップしているのでJCM800以降のハイ・ゲイン・マーシャルでも問題ないだろう。歪み系エフェクターはオン／オフしていないが、レコーディング時にレヴェルと音色を変化させているので、逆に充分にゲインの高いアンプ本体でバッキング用のサウンドを作り、歪み系エフェクターをオンにしてリード・サウンドをプッシュするというオーソドックスなアプローチがお薦めだ。また、リード・パートにはリヴァーブか350ms前後のディレイをごく薄く掛けて、空間的なメリハリを付けたい。実際にライヴでツイン・リードを実践する際は、できるだけアンプを同一機種にして、2本のギターの歪みの深さ、トーン、レヴェルをしっかりと揃えておくことが大切だ。

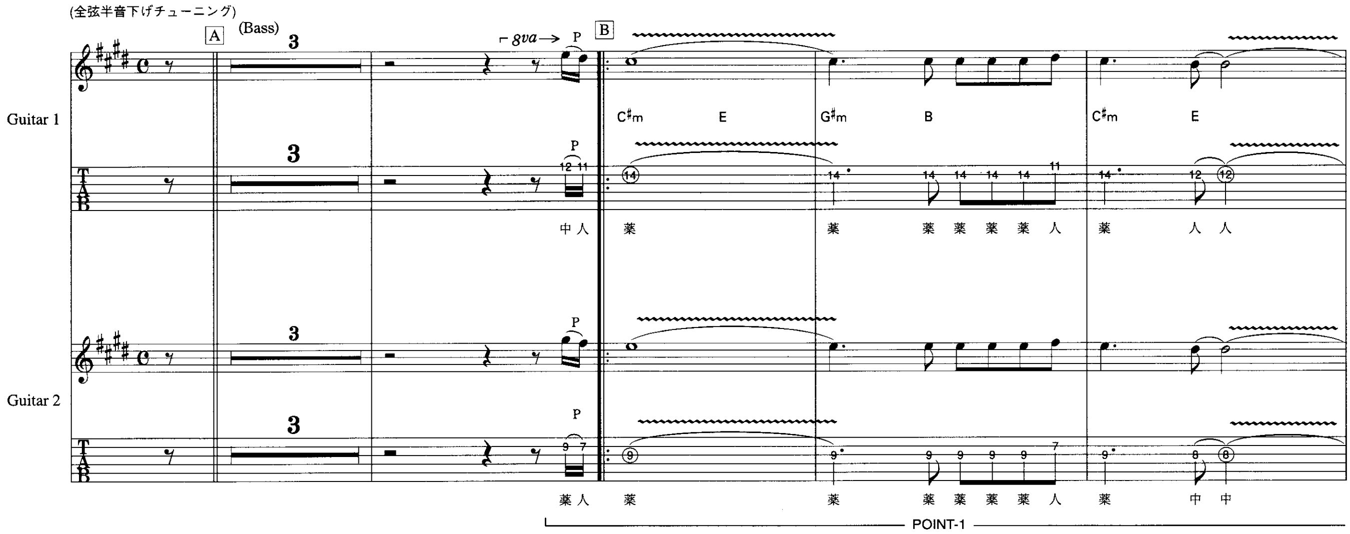
図B

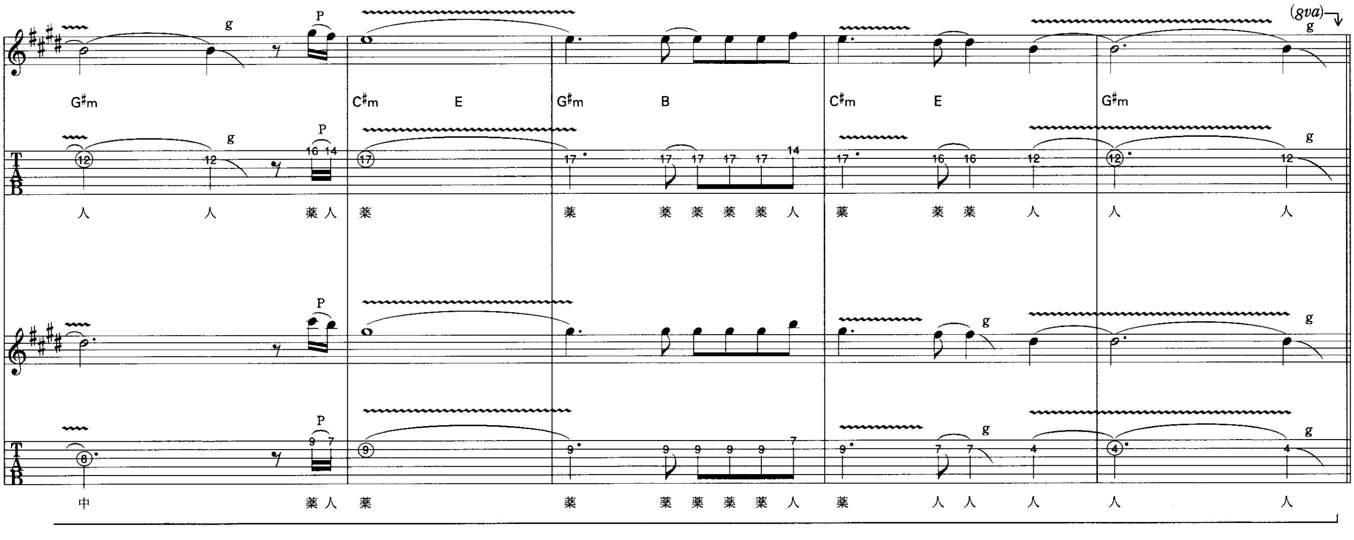
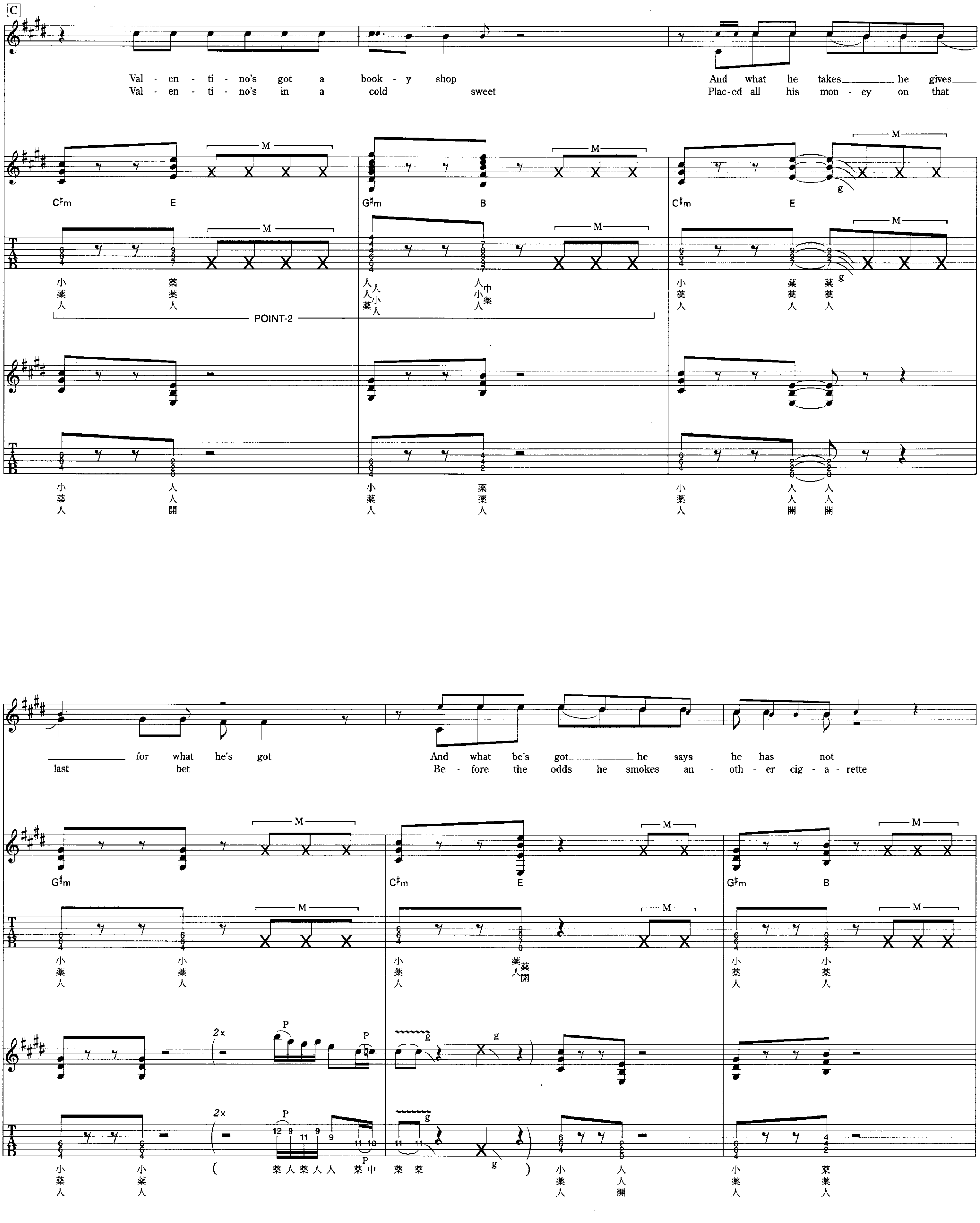


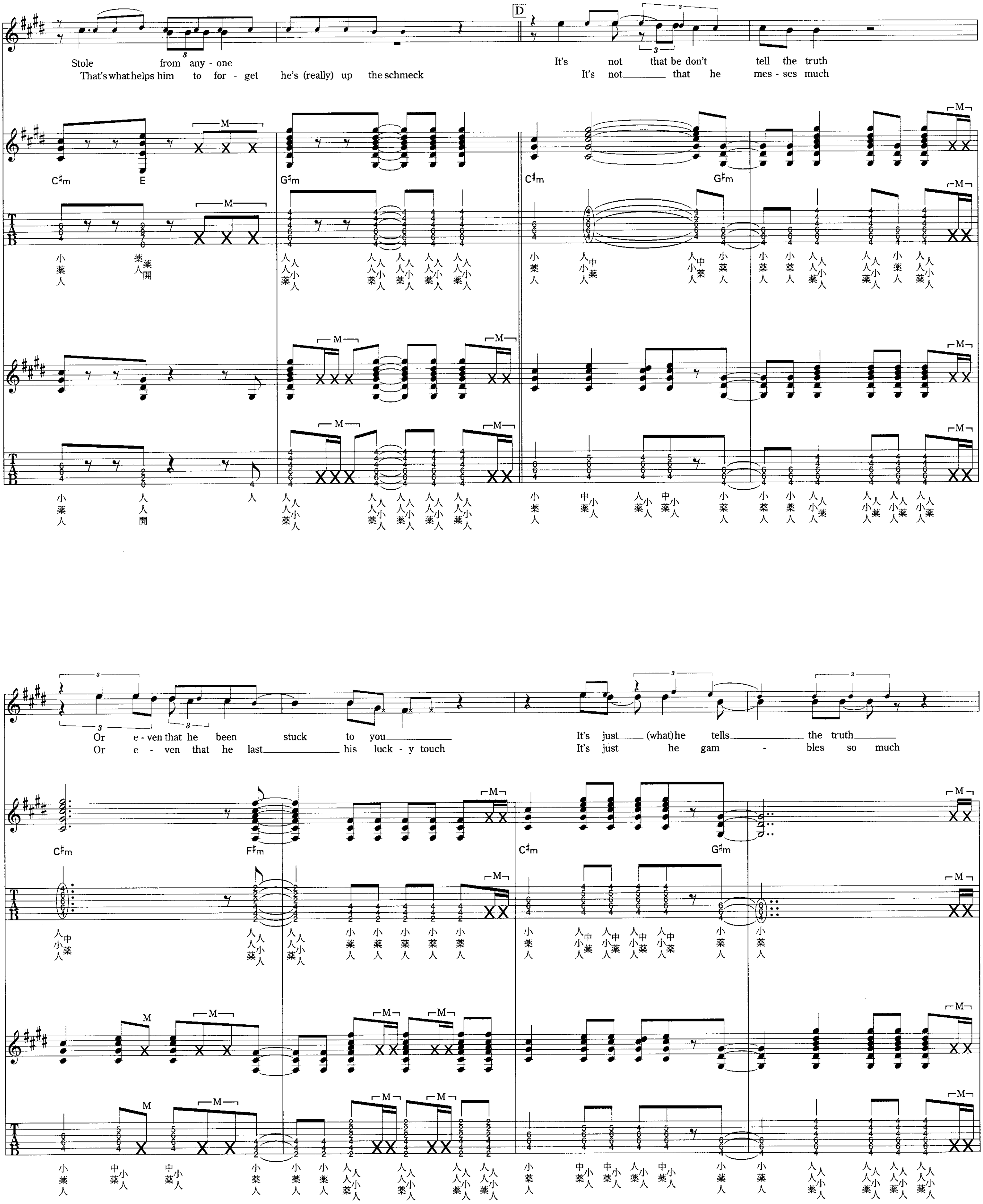
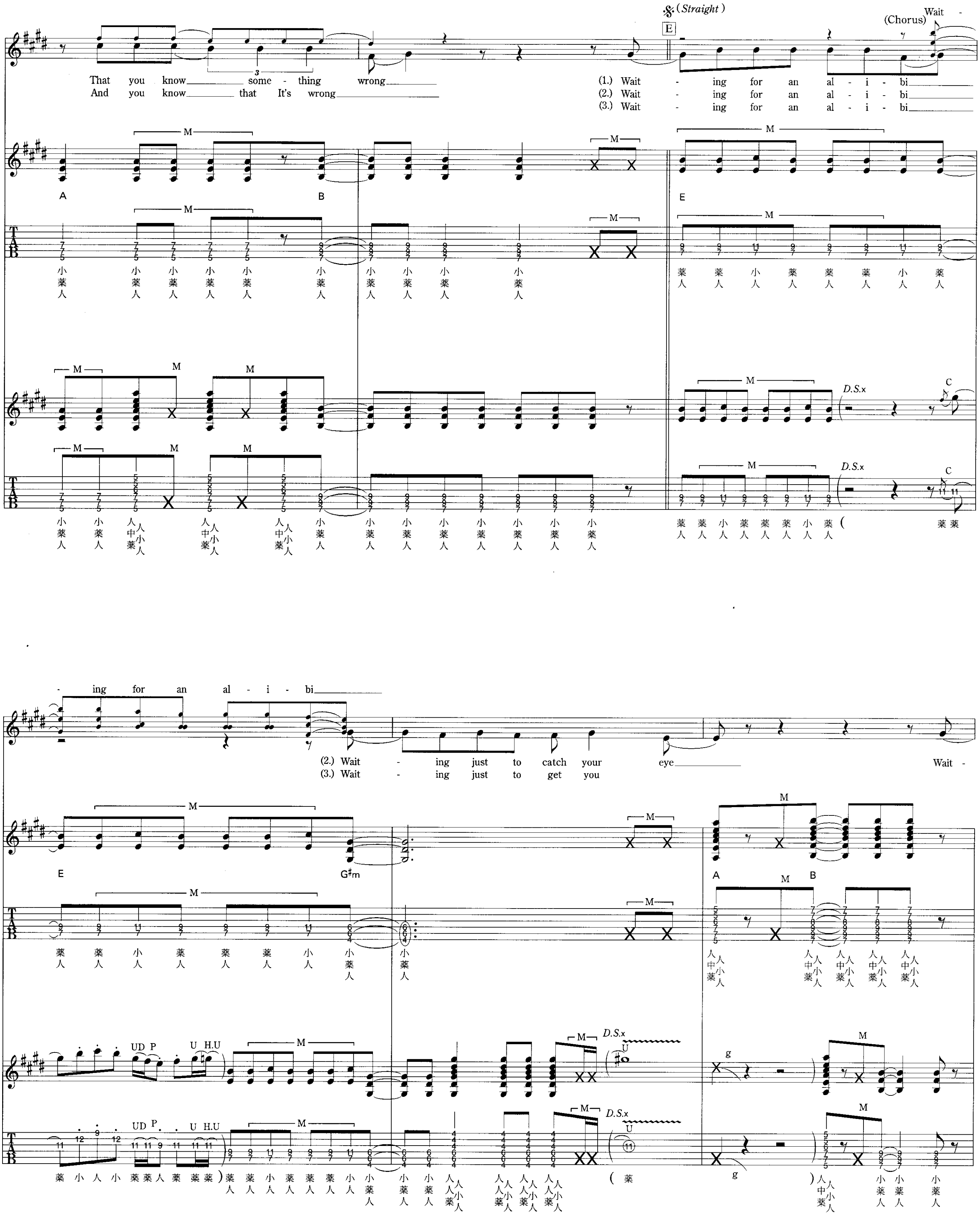
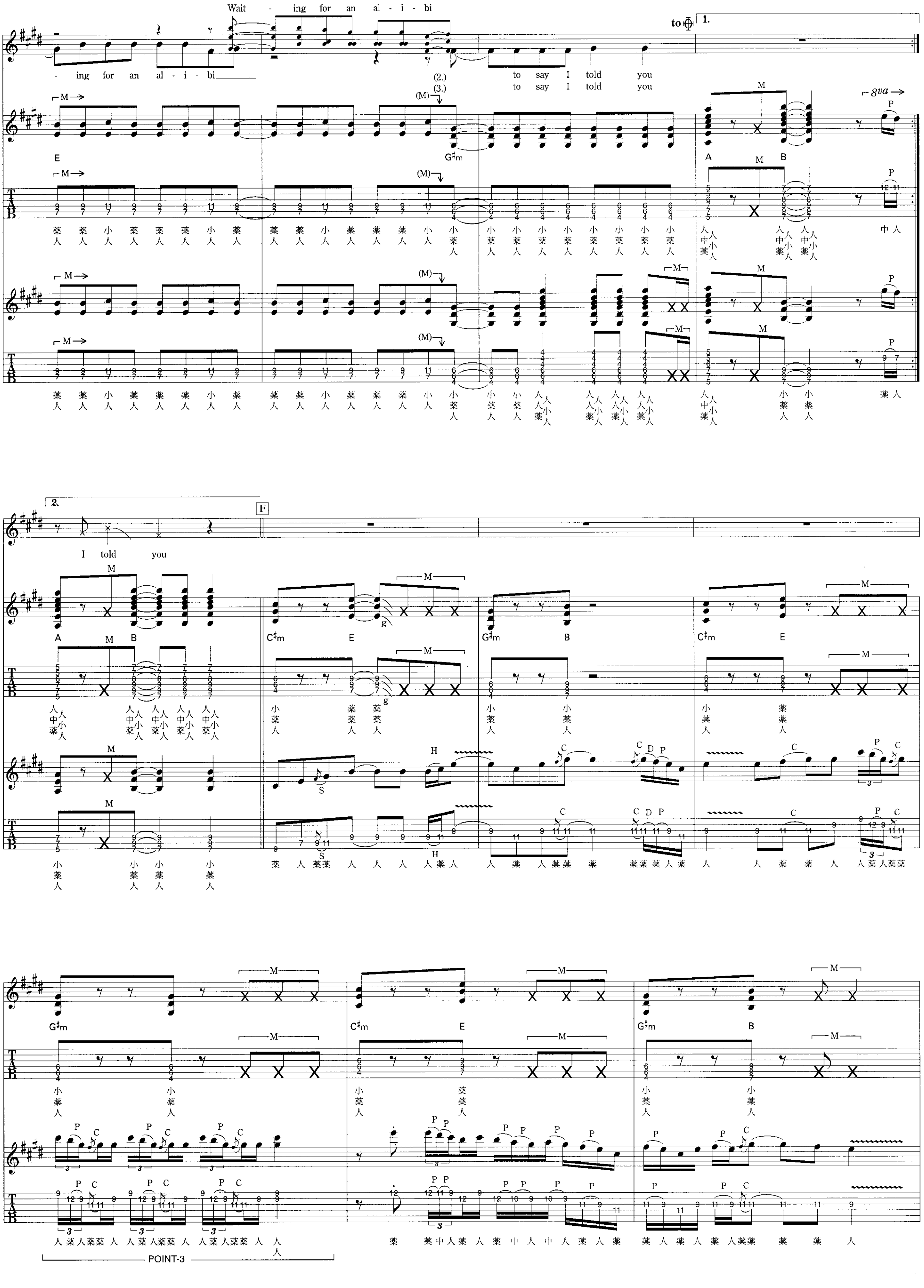
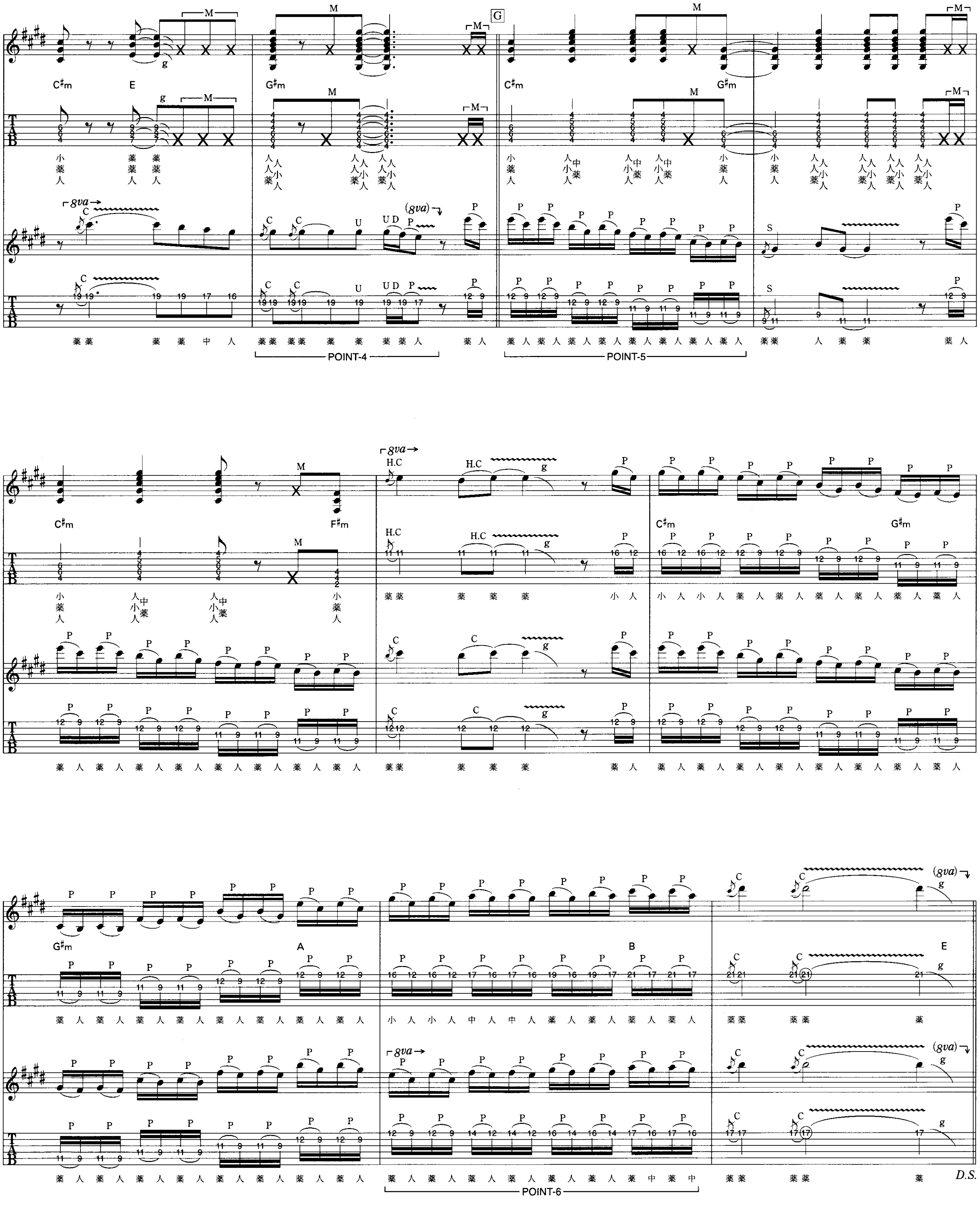
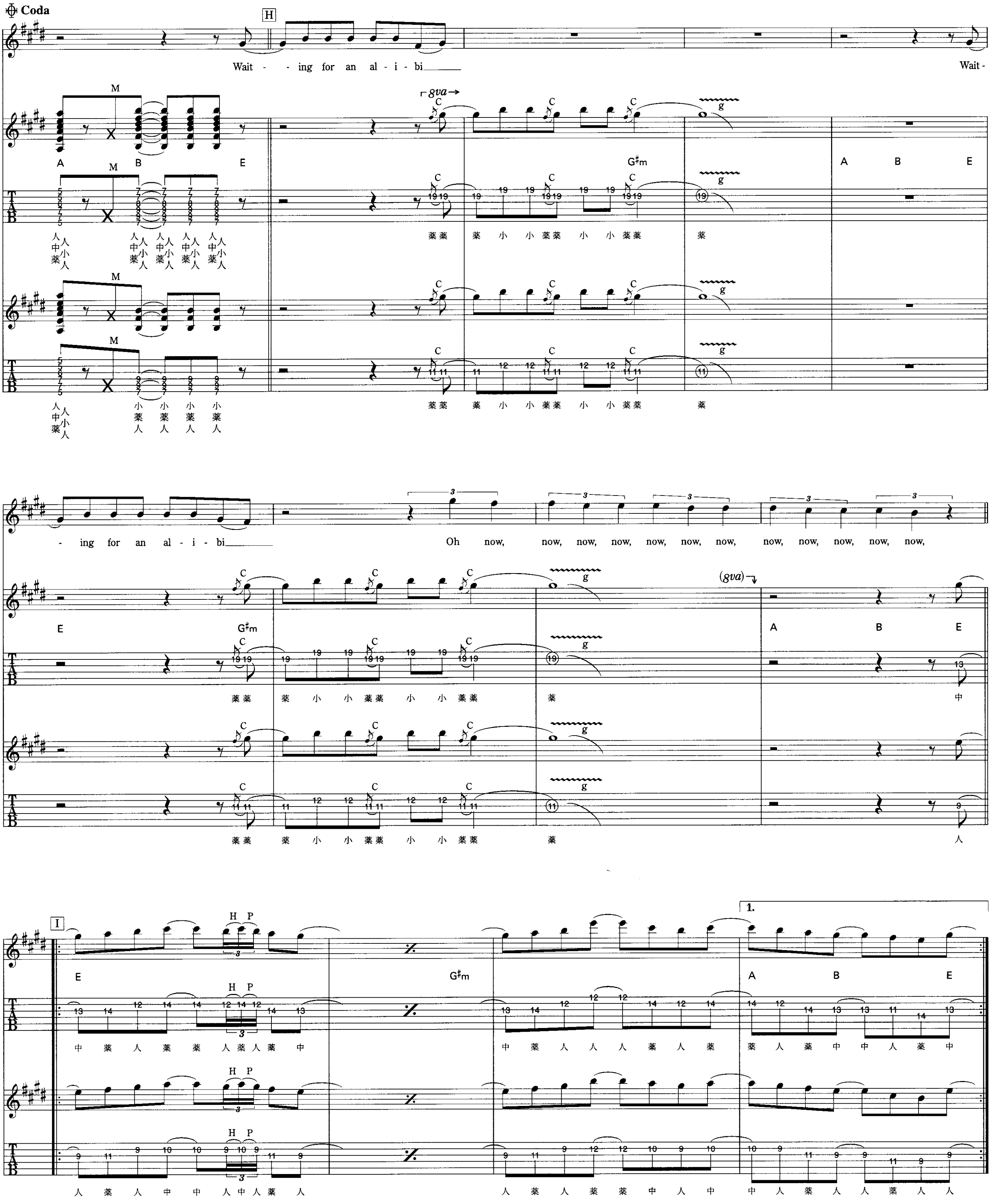
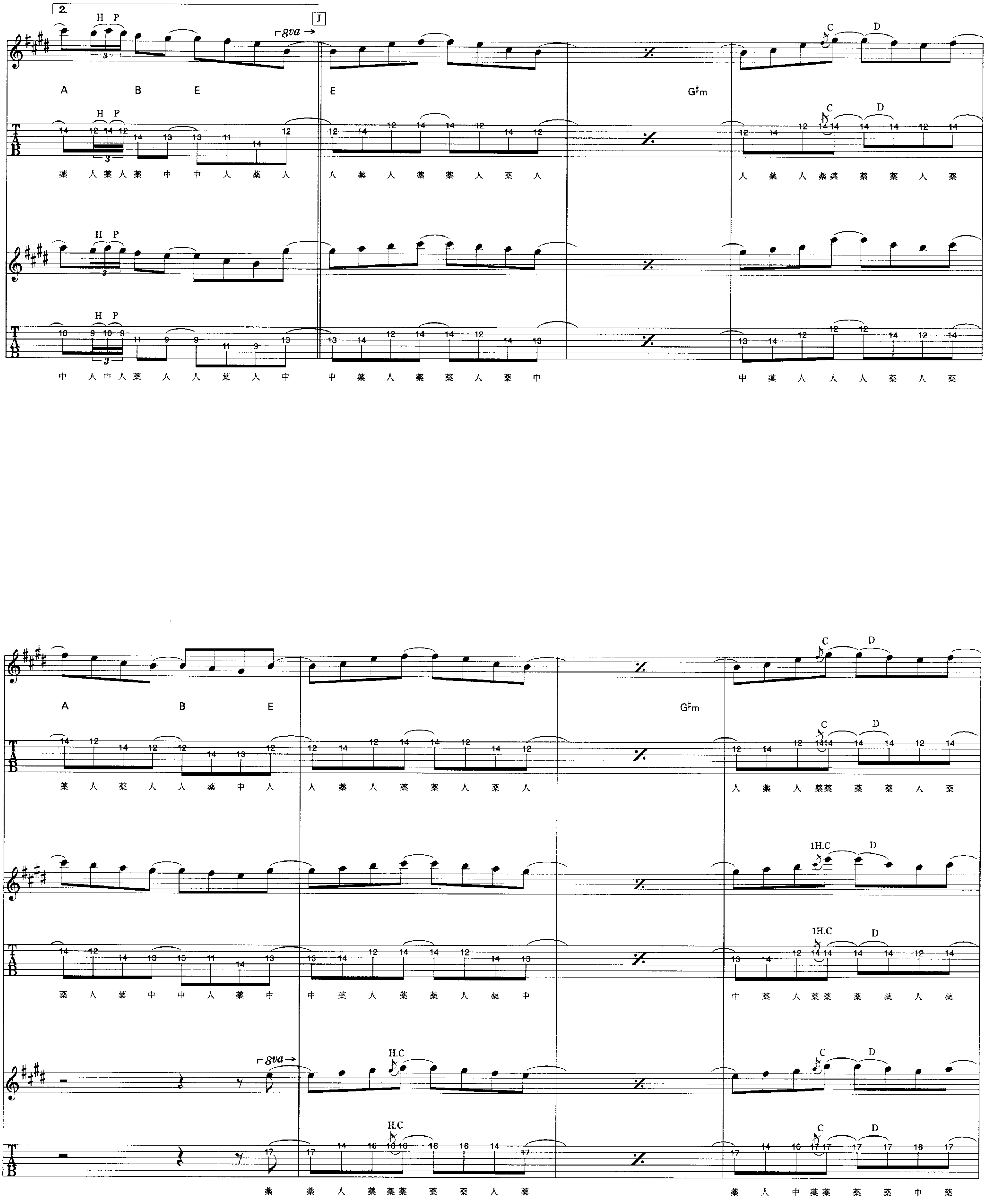
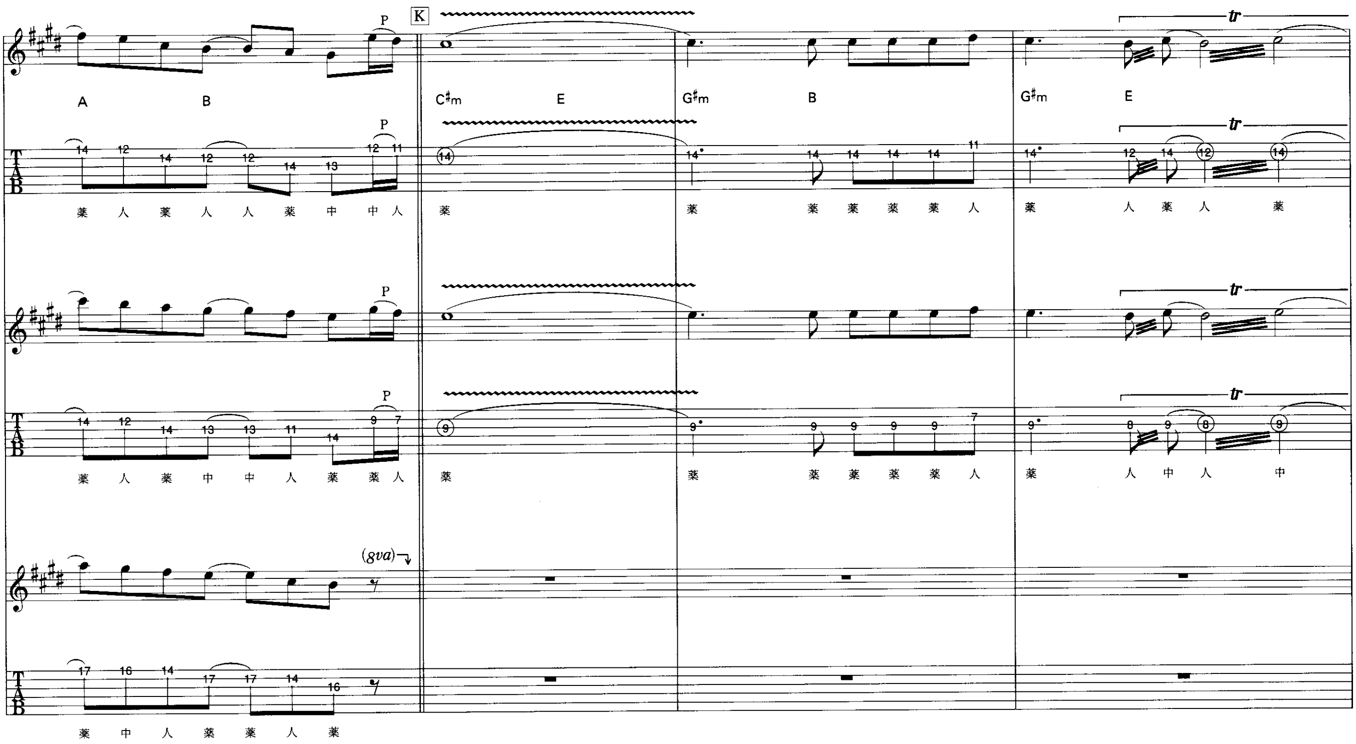
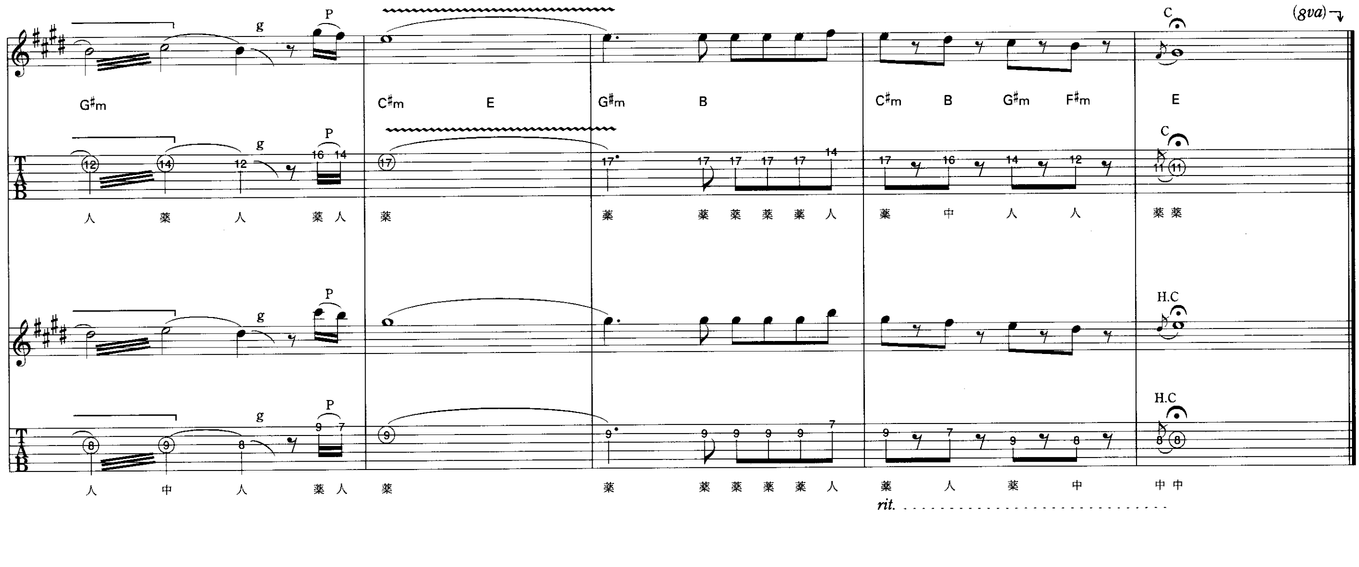
Waiting For An Alibi

by P.Lynott

©1979 by PIPPIN THE FRIENDLY RANGER MUSIC COMPANY LIMITED.
All Rights Reserved. International Copyright Secured. Print rights for Japan controlled by K.K. MUSIC SALES.





C
Val - en - ti - no's got a book - y shop
Val - en - ti - no's in a cold sweet
And what he takes he gives
Plac-ed all his mon - ey on that
C♯m E G♯m B C♯m E
POINT-2
for what he's got
last bet
And what be's got he says he has not
Be - fore the odds he smokes an - oth - er cig - a - rette
G♯m C♯m E G♯m B
2x

D
Stole from any - one
That's what helps him to for - get he's (really) up the schmeck
It's not that be don't tell the truth
It's not that he mes - ses much
C♯m E G♯m C♯m G♯m
Or e - ven that he been stuck to you
Or e - ven that he last his luck - y touch
It's just (what)he tells the truth
It's just he gam - bles so much
C♯m F♯m C♯m G♯m

(Straight)
E
(Chorus)
That you know some - thing wrong
And you know that It's wrong
(1.) Wait - ing for an al - i - bi
(2.) Wait - ing for an al - i - bi
(3.) Wait - ing for an al - i - bi
A
B
E
D.S.x
C
- ing for an al - i - bi
(2.) Wait - ing just to catch your eye
(3.) Wait - ing just to get you
Wait -
G♯m
A
B
UD P
U H.U
g

Wait - ing for an al - i - bi
- ing for an al - i - bi
to 𝄌 1.
(2.)
(3.)
to say I told you
E
G♯m
A B
8va
2.
F
I told you
C♯m E
G♯m B
POINT-3

G
C♯m
E
G♯m
F♯m
A
B
8va
(8va)
H.C
POINT-4
POINT-5
POINT-6
D.S.

Coda
H
Wait - ing for an al - i - bi
Wait -
- ing for an al - i - bi
Oh now, now, now, now, now, now, now, now, now, now, now, now,
8va
(8va)
A B E
G#m
E
I
1.

2.
J
8va
A B E
E
G♯m
A B E
G♯m
H P
C D
1H.C
H.C



Sh

from

見
ゲイ

名盤『VI
気の高し
けに難易
ル・ピッ
たいとこ
構成術と
ードバー
ラインや
「TRUTI